

2320.91
4

72-91

法令全書

達

○宮内省達甲第一號

明治三十二年八月宮内省達甲第五號學習院官制第二條中學習院長ノ次ニ左ノ一項ヲ追加シ學習院幹事一人トアルヲ一人ニ改ム

學習院次長 一人 二等三等
長ノ職務ヲ補助ス

同官制第四條中長ノ次ニ次長ノニ字ヲ加フ

明治三十八年一月二十四日

奉勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸達第一號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十八年一月九日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 本令第三條ノ増給ハ在外國公使館附武官兼勤ヲ命セラレ同武官俸給令ニ依リ在勤俸ヲ受クル期間之ヲ停止ス

第三條 第二項中停止スル間ノ下ニ及第一條ニ依リ増給ヲ停止スル間ヲ加フ

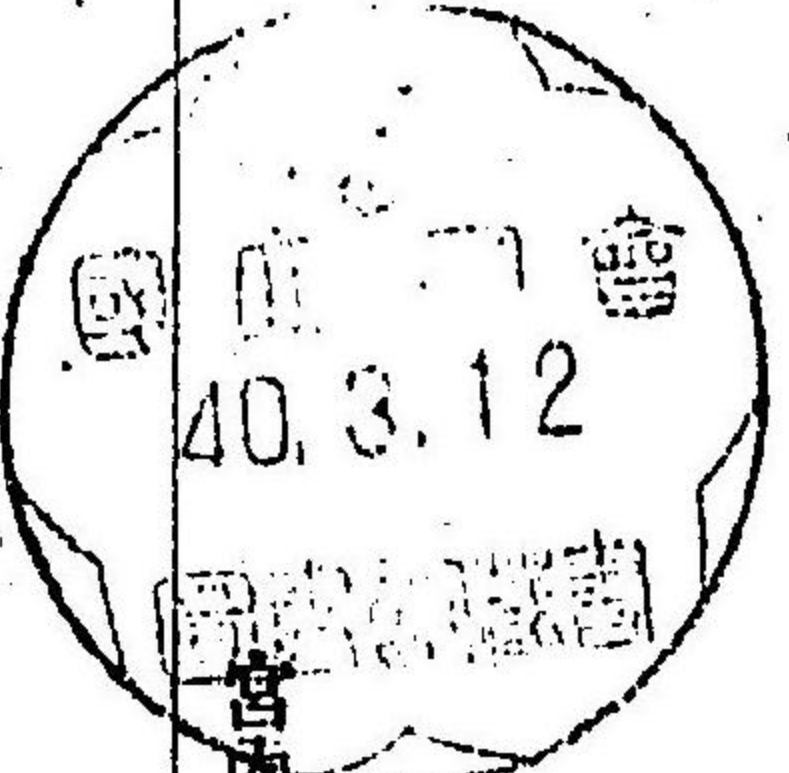
○陸達第二號

陸軍兵卒進級規則中左ノ通改正ス

明治三十八年一月十三日

陸軍大臣寺内正毅

明治三十八年二月 陸内省達甲第二號 陸軍省陸達第一號 陸達第二號



第九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ進級セシメムトスル同等階級ノ現役兵ニ比シ優秀ナル者アルトキハ本文ノ期限ニ拘ラス進級セシムルコトヲ得

第九條ノ二 削除

第十條ノ二 國民兵役ニ在ル者又ハ國民軍編入志願者ハ部隊編入ノ際其ノ兵科部等級ヲ有セシ者ニ在リテハ前兵科部等級相當ノ兵卒ト爲シ其ノ他ノ者ニ在リテハ編入部隊所要ノ兵科部二等卒ト爲ス

前項兵卒ノ進級ハ豫備役又ハ後備役ニ在リタル者ニ付テハ第九條ヲ其ノ他ノ者ニ付テハ前條ヲ準用ス

第十條ノ三 左ニ掲クル場合ニ於テハ前諸條ノ期限ニ拘ラス進級セシムルコトヲ得

- 一 敵前ニ在リテ其ノ功績顯著ナル者
- 二 前諸條ニ依リ上等兵ノ補充ヲ爲シ難キトキ

〔參照〕

陸軍第百三號陸軍兵卒進級規則(明治三十六年十二月一日)抄録

第九條 戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應ジタル豫備役後備役二等卒ニシテ召集後約六箇月ヲ過キ優秀ナル者ハ一等卒ニ同一等卒ニシテ召集後約十箇月ヲ過キ優秀ナル者ハ所要ニ應ジ上等兵ニ進級セシムルコトヲ得

第九條ノ二 第二國民兵役ニ在ル者ハ召集ノ際第一國民兵役ニ移リタル當時ノ等級ト爲シ其ノ進級ニ關シテハ第九條ヲ準用ス

第十條ノ二 敵前ニ在リテ其ノ功績顯著ナル者ハ前諸條ノ期限ニ拘ハラス之ヲ進級セシムルコトヲ得

○陸軍第三號

明治三十七年陸軍第七十六號陸軍運輸部運輸規程中左ノ通改正ス

明治三十八年一月二十日

陸軍大臣寺內正毅

第十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

火藥其ノ他爆發質ノ物品、油紙、油布、生石灰、燐寸等發火質ノ物品及石油、硫黃其ノ他燃焼シ易キ物品並油紙、塗油セル布類其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ以テ内部ヲ梱包シタルモノハ總テ危險品トシテ取扱ヒ其ノ梱包ハ、莖包ニ在リテハ二條ノ赤繩ヲ以テ縱横ニ圍繞シ箱物ニ在リテハ表面ニ太キ二條ノ朱線(二線ノ間隔ハ)ヲ畫シ且梱包ニハ長サ七寸幅三寸ヨリ小ナラサル赤色ノ標牌四箇以上ヲ附著シ之ニ危險品タル物品ノ名稱ヲ黒書スヘシ但シ一定ノ制式ニヨリ又ハ外部ヨリ其ノ内容品ノ性質ヲ明知シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔參照〕

陸軍第七十六號陸軍運輸部運輸規程(明治三十七年三月二十七日)抄録

第十七條第二項

火藥其ノ他爆發質ノ物品、油紙、生石灰、燐寸等發火質ノ物品及石油、硫黃其ノ他燃焼シ易キ物品ニシテ外部ヨリ其ノ性質ヲ知り難キモノハ特ニ著目シ易キ標牌ヲ附シ其ノ物品ノ種類ヲ明示スヘシ油紙ヲ以テ内部ヲ梱包シタルモノモ亦タ同シ

○陸軍第四號

陸軍軍人ニシテ戰時中 御座所ニ於テ拜謁仰付ラルル場合ニハ其ノ服裝ハ總テ軍裝ヲ爲スコトニ定メラル

但シ特ニ著服指定ノ場合ニハ本文ノ限ニ在ラス

明治三十八年一月二十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五號

飯盒及水筒ハ自今製作ノモノニ在リテハ外部ノ塗色ヲ茶褐色トス

明治三十八年一月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第一號

艦艇類別標準別表中左ノ通改正セラル

明治三十八年一月十三日

水雷艇ノ項ヲ左ノ如ク改ム

海軍大臣男爵山本權兵衛

水	雷	艇
一	一	潜水艇
等	等	
百二十噸以上	百二十噸未滿七十噸以上	
二	二	
等	等	
七十噸未滿二十噸以上	七十噸未滿二十噸以上	
三	三	
等	等	
二十噸未滿	二十噸未滿	
四	四	
等	等	

○海軍省達第二號

戰時海軍死亡者取扱規則中ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十八年二月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第七條 戰地ニ於テ死亡シタル下士卒ノ遺物ハ所屬長若ハ所屬先任士官之ヲ死者在籍ノ鎮守府所
在地海兵團長ニ移送シ其ノ遺族又ハ親戚故舊ニ下付セシムルコトヲ得

○海軍省達第三號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年二月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第四條中大臣ヲ海軍大臣ニ改ム

第二十二條ノ二 戰地ニ於テ下士卒死亡シ共ノ遺族等ニ支給スヘキ俸給、加俸、増俸、手當及埋葬料
ハ所屬部隊艦船艇ヨリ死亡者在籍ノ鎮守府所在地海兵團ニ移牒シ該海兵團ニ於テ之ヲ支給セシ
ムルコトヲ得

前項ニ依リ移牒スルトキハ海軍給與令施行細則第百六十九條ノ例ニ依ル

○海軍省達第四號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十八年一月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十條ノ二中「元帥副官」ノ次ニ「軍事參議官副官」ヲ加フ

〔参照〕

海軍省達第百二號海軍服裝規則(明治二十九年十一月二十日)抄録
第二十條ノ二 副官タル佐尉官ニシテ飾帶ヲ佩用スヘキ者左ノ如シ

○海軍省達第五號

軍艦及水雷艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「朝霧」ノ次ニ「有明、吹雪」ヲ加フ

明治三十八年一月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年一月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十四表中「雨袴」ノ次ニ左ノ「防水服上表袴」ノ一欄ヲ加ヘ「艇靴」及「防寒服」ノ欄ヲ左ノ通改ム

五 筆寫 楷行草

六 算學 珠算 筆算

七 歷史 本邦及外國歷史ノ大要

八 地理 本邦及外國地理ノ大要

九 簿記 簿記 複記

十 外國語 翻譯 會話 作文 筆寫

第六條 口述試験ハ前條ニ列記シタルモノ、内一科目以上ニ就キ之ヲ行フ

第七條 筆記試験ハ試験委員二名以上ノ監視ヲ以テ之ヲ行フ

第八條 口述試験ハ試験委員二名以上ノ立會ヲ以テ受験人一名毎ニ之ヲ行フ

第九條 試験合格者ヲ定ムルハ試験委員ノ會議ニ依ル

第十條 試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ附與ス

第十條 試験科目ノ程度試験ノ期日場所其ノ他試験ニ關スル細則ハ試験委員長之ヲ定ム

○陸軍第六號

當分ノ内下士以下用背囊ハ茶褐色帆布製ノモノヲ以テ代用スルコトヲ得其ノ製式ハ別紙圖例ニ依ル (別紙略ス)

明治三十八年二月一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七號

俘虜取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十八年二月三日

陸軍大臣寺內正毅

第十二條中及國籍ヲ國籍及本國ノ所屬部隊ニ改ム

第十九條 俘虜收容所開設ノ準備ニ關シテハ當該地所管ノ師團長ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 衛戍司令官ハ俘虜收容所服務規則ヲ定メ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十二條中階級ノ下ニ及本國ノ所屬部隊ヲ加フ

第二十七條第二項中規則ハ之ヲ下ニ陸軍大臣ニ報告シヲ加フ

〔參照〕

陸軍第二十二號俘虜取扱規則(明治三十七年二月十四日抄録)

第十二條 各部隊ハ其ノ抽獲シタル俘虜ノ姓名年齢身分階級及國籍ヲ照問シテ俘虜名簿ヲ編製シ且第九條ニ依リ沒收シタル領置シタル物件ニツキ物品目錄ヲ編製スヘシ

第十九條 俘虜收容所ノ開設及位置ハ陸軍大臣之ヲ定メ當該地所管ノ師團長ヲシテ之ヲ開設セシム

第二十一條 俘虜收容所ハ其ノ所在地所管ノ衛戍司令官之ヲ管理シ部下將校同相當官若干名ヲシテ監視其ノ他ノ事務ヲ掌ラシム

第二十二條 俘虜收容所ニ於テ俘虜ヲ收容シタルトキハ其ノ姓名年齢國籍身分階級等ニツキ詳細ノ照問ヲ爲シ其ノ事項ヲ俘虜情報局ニ通報スヘシ收容後俘虜ノ入院犯罪死亡其ノ他ノ移動ハ十日毎ニ之ヲ取極メ俘虜情報局ニ通報スヘシ

第二十七條 俘虜收容所ニ於ケル取締ニ關スル規則ハ當該衛戍司令官之ヲ定ム

前項ノ規則ハ之ヲ俘虜情報局ニ通報スヘシ

○陸軍第八號

明治三十七年陸軍第二百二十七號第五條ニ依リ定員外トナリタル將校同相當官ニシテ職務上乘馬ヲ要スルモノノ乘馬ニ付キテハ左ノ通心得ヘシ

明治三十八年二月五日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 自馬ヲ有スル上長官ニシテ隊附ノモノハ其ノ儘飼養セシム
- 二 自馬ヲ有セサル上長官ニシテ隊附ノモノハ其ノ所管補充馬廠ノ馬匹ヲ乗用セシム
- 三 騎兵、砲兵若ハ輜重兵隊附士官ハ其ノ所屬隊ノ馬匹ヲ乗用セシム
- 四 前三項以外ノモノハ其ノ都度伺出ツヘシ
- 五 第二及第三項ノ場合ニ在リテハ繫畜料ヲ給與セス

○陸軍第九號
大本營陸軍部職員及動員シタル諸部團隊ニ屬スル軍人ハ宮中諸儀式ニ際シ正裝禮裝通常禮裝着用ノ場合ニ於テモ軍裝ヲナスヲ得ルコトニ特ニ許可セララル

明治三十八年二月十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第十號
戰時編制ノ部隊若ハ特ニ設置セラレタル部隊ニ屬スル軍人軍屬ニシテ臺灣島及澎湖島ニ駐屯中ノ糧食ハ陸軍戰時給與規則第八條ニ據ル場合ノ外臺灣島及澎湖島駐節陸軍部隊給與規則細則第五表ノ定額ヲ基準トシテ實費支辨スヘシ
但シ同規則第七條第一項第五號ニ該當スル者ニ在リテハ同細則第七表ノ食料ヲ給スルコトヲ得

明治三十八年二月十八日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第八號
海軍文官進級增俸取扱規則第四條中「ナスコトナシ」ヲ「ナササルヲ例トス」ニ改ム
明治三十八年二月六日
海軍大臣野島本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第四百八十八號海軍文官進級增俸取扱規則(明治三十年十月二十五日)抄録
第四條 最上級俸ヲ受クル判任文官ニシテ判任官俸給令第四條ニ該當シ增俸スルモ一時ニ五圓ヲ超過スル增俸ヲナスコトナシ

○海軍省達第九號
艦營需品經理規程第十六條別表艦營需品直買品名表中「アンモニヤ、アンハイドロース製氷機用」ノ一麻ヲ加フ
明治三十八年二月十二日
海軍大臣野島本權兵衛

○海軍省達第十號
旅順口沖ニ於テ捕獲シタル汽船「マンチユリア」號ヲ關東丸ト命名シ其ノ本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定ム
明治三十八年二月十四日
海軍大臣野島本權兵衛

○海軍省達第十一號
汽船關東丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
明治三十八年二月十四日
海軍大臣野島本權兵衛

G Q P T 關 東 丸
○海軍省達第十二號
捕獲汽船富平ヲ長山丸ト命名シ其ノ本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定ム
明治三十八年二月十四日
海軍大臣野島本權兵衛

○海軍省達第十三號
汽船長山丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
明治三十八年二月十四日
海軍大臣野島本權兵衛

テ艦ノ附屬具ニシテ艦ノ最大使用壓力ヲ受クルモノノ下總テヲ削リ其水壓試驗力ヲ2Aト定ム

明治三十八年二月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第二十一號

驅逐艦有明吹雪霞ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年二月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q R P

有 明

G Q R S

吹 雪

G Q R T

霞

○海軍省達第二十二號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年二月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十二條ノ二 戰地ニ在ル軍人軍屬ニシテ海軍給與令施行細則第二百二十四條ニ掲グル場合ノ外非常ノ勞働ヲ爲シ衛生上必要トスルトキハ火酒ヲ給與スルコトヲ得

第二十五條ノ二中第十條ノ下ニ第十二條ノ二ヲ加フ

○海軍省達第二十三號

捕獲汽船「ヨルジュ」號ヲ老鐵丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十八年二月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第二十四號

汽船老鐵丸ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年二月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q R D

老 鐵 丸

○海軍省達第二十五號

艦船郵便所規程中左ノ通改正ス

明治三十八年二月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條 艦船郵便所ハ艦船内ニ置キ海軍大臣之カ開廢ヲ令達ス但シ命令ニ依リ特ニ特設鎮守府及防備隊所在地等ノ陸上海軍部隊内ニモ之ヲ置クコトヲ得

第五條 削除

第六條 艦船郵便所ニハ必要ノ所員ヲ配シ郵便事務ノ取扱方ニ關シテハ在軍港首席郵便吏ノ指揮ヲ受ケシム

第十條 削除

第十一條中「艦船」ヲ「艦船等」ニ改ム

第十四條中「中艦船郵便所」ニ於テ配達スヘキモノ、外ヲ削除ス

第十五條 削除

第十八條 艦船郵便所ニ於テ他ノ艦船郵便所ニ送致若ハ引渡ヲ要スル郵便物アルトキハ同船迄遞送ノ上引渡スヲ例トス

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十一條中「信號」ヲ「信號等」ニ改ム

○陸達第十一號

明治二十九年陸達第七十七號中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二日

陸軍大臣寺内正毅

出張所名稱欄中軍馬補充部高原支部福元出張所同位置欄中鹿兒島縣鹿兒島郡谷山村字福元ヲ削ル

○陸達第十二號

陸軍監獄看守長看守及看守並備人ノ衣袴ノ品質ハ内地ニ在ル者ニ限リ當分ノ内茶褐色ノ雲齊又ハ小倉ヲ以テ絨ニ代用スヘシ但シ現在ノ衣袴ハ廢品ト爲ルマテ著用スルモノトス

明治三十八年三月二日

陸軍大臣寺内正毅

○陸達第十三號

明治三十七年五月陸達第九十五號勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則中第三條但書ヲ削除ス

明治三十八年三月三日

陸軍大臣寺内正毅

【參照】

陸達第九十五號勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則(明治三十七年五月三日)抄録

第三條 陸軍監獄看守長看守及看守並備人ノ衣袴ノ品質ハ内地ニ在ル者ニ限リ當分ノ内茶褐色ノ雲齊又ハ小倉ヲ以テ絨ニ代用スヘシ但シ現在ノ衣袴ハ廢品ト爲ルマテ著用スルモノトス

○陸達第十四號

陸軍士官學校校馬ノ馬糧ハ本年勅令第四十七號ニ據リ陸軍給與令第二十一表ノ馬糧定量ニ大麥六合ヲ增加ス

前項ノ増加馬糧ハ臨時軍事費ノ支辨トス

明治三十八年三月十日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第十五號
陸軍戰時給與規則細則第一表中左ノ通改正ス

明治三十八年三月十日

陸軍大臣寺内正毅

粉味噌ノ糶粉ノ下ニ(煉)ヲ加ヘ備考第三中六十匁ヲ七十匁ニ七十五匁ヲ九十匁ニ改ム

○陸軍第十六號
勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則中左ノ通追加ス

明治三十八年三月十三日

陸軍大臣寺内正毅

第二條第三號ニ左ノ一項ヲ加フ

將校同相當官准士官下士兵卒ニシテ一年以上臺灣若ハ清國駐屯軍ニ於テ服務シ又ハ傷病ノ爲戰地ヨリ歸還シ快復後出征部隊ニ編入セラレントスルトキ

〔參照〕

陸軍第九十五號勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則(明治三十七年五月三日)抄錄
第二條 留守部隊及内地ニ在ル特設部隊ニ屬スル陸軍軍人ノ請願休暇ハ左ノ場合ニ限り之ヲ許可ス

○陸軍第十七號

明治三十八年陸軍第八號第五項ニ左ノ但書ヲ加フ

陸軍大臣寺内正毅

但シ第二項ノ上長官ニシテ補充馬廐所在地外ニ勤務スル者ニハ特ニ其ノ馬匹ヲ貸與シ糞畜料ヲ給與スルコトヲ得

〔參照〕

明治三十八年三月陸軍第八號ハ明治三十七年陸軍第五號ニ依リ定員外トナリタル將校同相當官ニシテ職務上乗馬ヲ要スルモノ、乘馬ニ付キ心得方ノ件ナリ

○陸軍第十八號

自今陸軍下士以下用靴下ニハ足布ヲ混用スヘシ

明治三十八年三月十六日

陸軍大臣寺内正毅

其ノ使用心得別冊ノ通定ム (別冊略ス)

○陸軍第十九號

明治三十八年度中衛戍病院條例第七條ノ定額ハ一日金十五錢同第九條ノ定額ハ金三錢トス

陸軍大臣寺内正毅

〔參照〕

勅令第二十七號衛戍病院條例(明治三十一年二月二十一日官報)抄錄
第七條 入院患者ノ治療ニ關スル醫費ハ病院ノ支辨トス但准士官以上及自費服役ノ一年志願兵校軍醫ニシテ其ノ傷病疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム
第九條 營外居住タル軍人軍醫ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛戍病院ヨリ藥物療用品ヲ與フルコトヲシテ雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止テ得サル場合ニ限り軍醫ノ處方ニ依リ之ヲ與フルコトヲ得但し其ノ傷病疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム

○陸軍第二十號
俘虜取扱細則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月十八日

陸軍大臣寺内正毅

第五條 俘虜中將校同相當者ニハ俘虜自由散步及民家居住規則ニ依リ俘虜收容所外一定ノ地域ヲ限リ自由散步又ハ民家居住ヲ許可スルコトヲ得
准士官以下ノ俘虜ト雖取締上差支ナシト認ムルトキハ相當ノ監視者ヲ附シ外出セシムルコトヲ

得

第十二條中「俘虜收容所ニハ」ノ下ニ「必要ニ應シ」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第九十七號ノ二俘虜取扱細則(明治三十七年五月十五日)抄録

第五條 俘虜中准士官以上ニハ逃走ヲ謀ラス且帝國陸軍官職ノ定メタル軍紀風紀上ノ法則ヲ遵守スヘキコトヲ宣稱ノ上其ノ收容所以外一定ノ地區ヲ限リ外出セシムルコトヲ得但シ其ノ地區ハ衛戍司令官之ヲ定メ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ相當ノ監視者ヲ附スルコトヲ要ス

下士以下ノ俘虜下離取離上送支ナシト認ムルトキハ前二項ニ準シテ外出セシムルコトヲ得

第十二條 俘虜收容所ニハ刑室ヲ附屬セシメ入院ヲ要スル患者ヲ收療ス

刑室ニハ所製ノ衛生材料被服履具及器具備品ヲ備付ク

入院ヲ要セサル患者ノ除斷ハ俘虜收容所ニ於テ行フモノトス

○陸軍第二十一號

俘虜自由散步及民家居住規則左ノ通定ム

明治三十八年三月十八日

陸軍大臣寺內正毅

俘虜自由散步及民家居住規則

第一條 俘虜將校同相當者ニシテ逃走ヲ謀ラス且帝國陸軍ノ軍紀風紀上所要ノ宣稱ヲ爲シタル者ハ衛戍司令官ニ於テ俘虜收容所外一定ノ地域ヲ限リ自由散步又ハ民家居住ヲ許可スルコトヲ得但シ民家居住ヲ許可スルハ妻子ト同棲スル等特別ノ事情アル場合ニ限リ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ宣稱ハ書面ヲ以テ爲サシメ其ノ様式ハ附表第一號及第二號ニ依ル

宣稱書ハ各二通ヲ作り俘虜收容所長ノ面前ニ於テ之ニ記名セシメ一通ハ所長保管シ一通ハ本人ニ交付ス

第三條 自由散步ハ晝間一定ノ時間ヲ限リ之ヲ許可スルヲ例トシ其ノ時間及散步地域ハ俘虜收容所長ニ於テ豫メ該俘虜ニ指示スヘシ

第四條 自由散步又ハ民家居住ヲ許可シタル俘虜ニ關シテハ俘虜收容所長ニ於テ適當ノ取締法ヲ設クルノ外憲兵隊長及地方官ニ協議シテ必要ノ取締ヲ爲スヘシ

第五條 自由散步又ハ民家居住ノ許可ヲ受ケタル俘虜ハ常ニ宣稱書ヲ携帶シ衛戍司令官若ハ其ノ部下將校俘虜收容所職員又ハ衛兵、憲兵、地方警察官ノ要求アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘキモノトス

第六條 自由散步又ハ民家居住ノ許可ヲ受ケタル俘虜ハ一切ノ兵器ヲ所持スヘカラス

第七條 自由散步ノ許可ヲ受ケタル俘虜ハ其ノ散步中郵便電信其ノ他一切ノ通信ヲ發送シ又ハ接受スヘカラス

第八條 自由散步ノ許可ヲ受ケタル俘虜ハ俘虜收容所長ノ許可ヲクシテ民家居住ノ俘虜ヲ訪問スルコトヲ得ス

第九條 民家居住ノ許可ヲ受ケタル俘虜又ハ其ノ同棲者ニ於テ郵便電信其ノ他ノ通信ヲ發送セムトスルトキハ披封ニテ俘虜收容所ニ提出スヘシ

前項ノ通信ハ俘虜收容所ニ於テ檢閲ノ上通信管署ニ交付シ發送ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 民家居住ノ俘虜又ハ其ノ同棲者ニ宛テタル郵便電信等ハ俘虜收容所ノ檢閲ヲ受ケタル後ニ非サレハ本人ニ於テ接受スヘカラス

前項ノ通信ニ關シテハ俘虜收容所長ハ通信官署ニ協議シ適當ノ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 民家居住ノ俘虜及其ノ同棲者ハ居住地域内ニ於テ散步其ノ他自由ノ生活ヲ爲シ得ヘシト雖衛戍司令官ノ特別許可アルニ非サレハ居住地域外ニ出ツルコトヲ得ス

第十二條 民家居住ノ俘虜ハ衛戍司令官又ハ俘虜收容所長ヨリ命令アルトキハ直ニ出頭スヘク又衛戍司令官若ハ其ノ部下將校俘虜收容所職員又ハ衛兵憲兵地方官ノ命令ニ對シ服從ノ義務アルモノトス

第十三條 一地域内ニ於ケル民家居住ノ俘虜ハ概ネ十人以上内ヲ一班トシ各班中高級故參者ヲ班長トシ該班ノ取締ニ關シ責任ヲ負ハシムルト共ニ俘虜收容所トノ交渉ニ任セシム

第十四條 俘虜收容所長ハ民家居住ノ俘虜及其ノ同棲者ニ對シ毎日點檢簿ヲ送付シ之ニ記名セシメ且適宜所員ヲシテ其ノ居所ニ就キ點檢ヲ行ハシムヘシ

前項ノ外俘虜收容所長ハ地方官ニ協議シ民家居住ノ俘虜及其ノ同棲者ノ狀況ニ關スル通報ヲ受クルモノトス

第十五條 俘虜收容所長ハ民家居住ニ關スル心得ヲ定メ之ヲ當該俘虜ニ申渡シ且必要ニ應シ地方警察ニ關スル規則ヲモ知悉セシムヘシ

第十六條 俘虜收容所ニハ民家居住ノ俘虜ニ關スル特別帳簿(附表第三號様式)ヲ備ヘ本人及同棲者ニ關スル所要ノ事項ヲ記入シ之ヲ俘虜情報局ニ通報シ又特別日誌ヲ備ヘ該俘虜ニ關シ執務上參考ト爲ルヘキ事項ヲ記入スヘシ

前項ノ外民家居住ノ俘虜及其ノ同棲者ノ寫真各三枚ヲ徵シ一枚ハ之ヲ特別帳簿ニ貼著シ他ノ一枚ハ同帳簿ノ謄本ト共ニ所在地憲兵隊長及地方警察官ニ送付スヘシ

第一項ノ帳簿及日誌ハ俘虜收容所閉鎖ノ際陸軍省ニ送付スルモノトス

第十七條 民家居住ノ俘虜ニハ俘虜取扱細則ノ規定ニ依ラス其ノ給養費トシテ附表第四號ノ金額ヲ支給シ衣食住ニ關スル一切ノ費用ヲ自辨セシム但シ疾病ニ罹リ入院ヲ要スル場合ニハ俘虜收容所附屬ノ病室又ハ陸軍病院ニ收療スルコトヲ得

前項ノ俘虜ニシテ旅行セシムルノ必要アルトキ又ハ死亡シタル場合ニハ俘虜取扱細則第二十五條乃至第二十七條ヲ適用ス

第十八條 自由散步又ハ民家居住ノ許可ヲ受ケタル俘虜ニシテ逃走ヲ謀リ又ハ指定ノ地域外ニ出

テ若ハ郵便電信等ヲ檢閱ナクシテ發受スル等宣誓ノ條項ニ違反シタル者ハ軍法會議ニ於テ審判ノ上刑罰ニ處シ其ノ他陸軍官憲ノ定メタル軍紀風紀ノ規則ニ違反シタル者ハ相當ノ懲戒ヲ爲スノ外自由散步又ハ民家居住ノ許可ヲ取消スヘシ

民家居住ノ許可ヲ受ケタル俘虜ノ同棲者ニシテ第九條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ當該俘虜ニ對シ民家居住ノ許可ヲ取消シ且情狀ニ依リ嚴重ノ處置ヲ爲スヘシ

第十九條 前條ノ外自由散步又ハ民家居住ノ許可ハ衛戍司令官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十條 俘虜收容所長ハ自由散步又ハ民家居住ヲ許可セラレタル者ノ氏名其ノ他重要事項ヲ衛戍司令官ヲ經テ毎月末日陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 本規則ニ定メタルモノノ外細部ノ事項ハ俘虜收容所長ニ於テ衛戍司令官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムルモノトス

(附表第一號)

自由散步ニ關スル宣誓書ノ様式

下名ハ俘虜トシテ俘虜收容所外ニ自由散歩ヲ許可セラルルニ付テハ散歩中決シテ逃走ヲ謀ラズ特別ノ許可ナクシテ指定ノ地域外ニ出テサルハ勿論左記ノ事項ニ違反セサルコトヲ露國軍人タルノ名譽ニ虧ク(全能ナル神ノ名ニ於テ)茲ニ宣誓ス

年 月 日

何俘虜收容所ニ於テ

官 位 (配 名)

- 一 自由散歩ハ指定ノ地域内ニ於テシ且指定ノ時間ニ相違ナク俘虜收容所ニ歸來スルコト
- 二 散歩中ハ郵便及電信等一切ノ通信ヲ決シテ收受セズ又他人ニ其ノ發送ヲ委託セサルコト

(注意)宣誓書ニハ露語ノ原文ヲ附スルモノトス

(附表第二號)

民衆居住ニ關スル宣誓書ノ様式

下名ハ俘虜トシテ……地域ヲ限リ俘虜收容所外ニ居住ヲ許可セラルタルニ付テハ決シテ逃走ヲ謀ラズ且特別ノ許可ナクシテ指定ノ地域外ニ出テサルハ勿論左記ノ事項ニ違反セサルコトヲ露國軍人タルノ名譽ニ虧ク(全能ナル神ノ名ニ於テ)茲ニ宣誓ス

年 月 日

何俘虜收容所ニ於テ

官 位 (配 名)

- 一 郵便電信等一切ノ通信ニハ暗號ヲ使用セズ且總テ披封ニテ俘虜收容所ニ差出シ其ノ檢閲ヲ經ヘテ又自己ニ宛テタル郵便電信其ノ他一切ノ通信ハ俘虜收容所ヲ經由スルニ非サレハ之ヲ受領セサルコト
- 二 前項ニ依ルノ外一切ノ通信ヲ收受セザルコト
- 三 露國司令官又ハ俘虜收容所長ヨリ命令ニ據ルトキハ何時ニテモ直ニ出頭スヘキコト
- 四 民衆居住ノ許可ヲ取消サレタル場合ニハ露國ナク之ニ應ジ直ニ俘虜收容所ニ歸來スルコト

(注意)宣誓書ニハ露語ノ原文ヲ附スルモノトス

(附表第三號ノ一)

特別帳簿ノ様式

氏……………(露語)		居住許可		年 月 日	地 場	町 村 番 地	官 位	(配 名)	
名……………(露語)		町 村 番 地							
年 齡	階 級 (身 分)	口	國	形	身 長	(特 徴)			
國 籍	大 國 所 屬 部 隊	插 獲 年 月 日	人 相 書						
插 獲 年 月 日	人 相 書			官 位					
插 獲 年 月 日	人 相 書			官 位					
插 獲 年 月 日	人 相 書			官 位					

表

糧食代價表

品名	數量	種別						
		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
生麵包	一貫匁	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
骨付生獸肉	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
骨付生魚肉	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
白米	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
割麥	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
麥粉	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
豆	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
乾物	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
生野菜	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇
茶	同	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇	五三〇	五三〇

備考	焙麥	三本行	天光糖	醬油	酢	胡麻油	鹽	燻脂	火酒	乾麵包	貯藏獸肉	貯藏魚肉	種別						
													第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
一 本表記載外ノ諸外國ニ在リテハ時價ヲ以テ購買スルモノトス	四〇〇	八五〇	六二〇	一六〇	一一〇	四八〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇		
二 本表ノ代價ヲ以テ購買シ能ハサルトキハ一割増以內ノ代價ヲ以テ購買スルコトヲ得	四二〇	八七〇	六四〇	一七〇	一一〇	五〇〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇		
三 前項ニ依リ割増購買ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數量代價ヲ在籍鎮守府所在地ノ經理部長ヲ經テ經理局長ヘ報告スヘシ	四四〇	八九〇	六六〇	一八〇	一一〇	六〇〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	陸前	攝津	豐前	因幡	五三〇		

○海軍省達第二十九號

海軍大學校規則、海軍軍醫學校規則、海軍砲術練習所規則、海軍水雷術練習所規則、海軍機關術練習所規則、海軍主計官練習所規則第一條中「致務及服務」ヲ「致務其他致務」ニ改ム

明治三十八年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第三十號

海軍兵學校規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「教務及服務」ヲ「教程其他教務」ニ改ム

第十八條中「軍服」ヲ「通常禮服」ニ改ム

○海軍省達第三十一號

海軍機關學校規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「教務及服務」ヲ「教程其他教務」ニ改ム

第十八條中「軍服」ヲ「通常禮服」ニ改ム

○海軍省達第三十二號

海軍工廠工務規程中左ノ通り改正シ明治三十八年度ヨリ施行ス

明治三十八年三月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第八條第十一號以下ヲ左ノ通り改ム

十一 海軍部内依願工事費年報

十二 附屬費年報

十三 翌年度ニ繰越兵器組替年報

第十號書式中「保管及運搬費」ヲ「雜件費」ニ改メ「魚形水雷搜索懸賞金」ノ欄ヲ削除ス

第十四號甲書式

第十四號乙書式

第十五號書式

第十四號書式ヲ第十四號甲書式ニ改メ別紙ノ通り第十四號乙書式ヲ追加ス

(別紙略ス)

○海軍省達第三十三號

水路測量ノ爲韓國及清國盛京省ニ出張スル者ニハ左表及附則ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ左表及附則ニ掲クルモノヲ除クノ外ハ海軍外國旅費規則ニ依ル

明治三十一年達第七十五號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年三月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

官等	旅費等級	日當	客舍料	食卓料
上長官士官 高等官三等以下	三	一圓六十錢	二圓四十錢	一圓二十錢
候補生 准士官 下任官見習士	四	一圓二十錢	二	一
士官 判任官見習士	五	一	一圓七十錢	九
卒 員	六	六十	八十	七十
	七	五十	六十	五十
	七	五十	六十	五十

附則

- 一 本表ノ日當及客舍料ハ測量地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄之ヲ支給ス但シ艦船乗員測量地ニ於テ本艦船ヲ離レ測量ニ從事スルトキハ其ノ日ヨリ歸艦歸船ノ日(客舍料ハ歸艦ノ前日)迄本表ノ額ニ依ル
- 二 本表ノ食卓料ハ艦船附屬又ハ官用ノ船艇ニテ測量ニ從事シ該船艇内ニ起居スル場合ニ限り其ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス

三 艦船乘員測量ノ爲出張シ一日内ニ往復スル場合ニ於テ海路十二海里以上ニ及フトキハ日當ノ半額ヲ支給ス

四 測量ノ爲出張スル者ニハ支度料ヲ支給セス

(参照)

明治三十一年四月二日海軍省達第七十五號ハ韓國水路測量旅費定額表及附則ナリ

○海軍省達第三十四號

海軍武官増俸規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條第四號中「等級」ヲ「級俸」ニ改ム

第四條第一號第三項中「海軍軍人俸給令」ヲ「海軍給與令」ニ改ム

同條第三號中「等級」ヲ「級俸」ニ改メ「俸給」ヲ削ル

第七條第一號中「各等級」ヲ「各級俸」ニ改ム

○海軍省達第三十五號

治療品經理規程中左ノ通改正ス

明治三十八年三月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十一條二項中「數量」ノ下ニ「代價請求元」ヲ加フ

第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十四條ノ二 兵備品取扱主任ハ適宜ノ帳簿ヲ設ケ消耗療用品及藥品ノ拂出ヲ登記スヘシ
(表中改正加除アリ略ス)

○海軍省達第三十六號

海軍工廠資金取扱規程左ノ通相定メ明治三十八年度ヨリ施行ス

明治三十四年達第四十九號海軍造兵造船材料資金取扱規程ハ明治三十七年度限り廢止ス

明治三十八年三月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍工廠資金取扱規程

第一章 豫算

第一條 艦政本部長ハ當該年度ニ於ケル造兵造船事業ノ梗概及其ノ金額並資金分配額ノ豫定ヲ前年度五月末日迄ニ順序ヲ經テ各廳長ニ通知スヘシ

第二條 各廳長前條ノ通知ヲ得タルトキハ當該年度ニ於ケル海軍工廠資金ノ歳入歳出ヲ概定シ損減歩合額ヲ豫算シ第一號書式ノ概算書並前々年度受拂勘定表ヲ作り前年度七月三十一日迄ニ順序ヲ經テ海軍大臣ニ提出スヘシ

第三條 經理局長ハ前條ノ書類ヲ調査統計シ明治二十三年大藏省令第九號中第一號及第二號書式ニ據リ海軍工廠資金歳入歳出豫定計算書各目明細書及受拂勘定表ヲ作り前年度八月三十一日迄

ニ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 毎年度海軍工廠資金歳入歳出ノ豫算公布セラレタルトキ經理局長ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 當該年度ノ資金分配額ヲ各廳長ニ令達ノコト

二 第二號書式ニ據リ歳入及仕拂豫算書ヲ調製令示ノコト

三 損減歩合トシテ加算收入スヘキ乗率ヲ各廳長ニ令達ノコト

第五條 經理局長ハ前條第二ノ手續ヲ爲スト同時ニ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式甲

ニ據リ仕拂豫算書ヲ作り大藏大臣及會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ又同條第三ノ手續ヲ爲
スト同時ニ其ノ損減歩合ノ乘率シ會計検査院ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 經理局長仕拂豫算ノ更定ヲ要スルトキハ第三號書式ニ據リ第四條第二ノ手續ヲ爲シ同時
ニ明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式乙ニ據リ仕拂豫算更定計算書ヲ作り大藏大臣及會
計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 經理局長資金分配額ノ更定ヲ要スルトキハ第四條第一ノ手續ヲ爲スヘシ

第二章 收入支出

第八條 海軍工廠資金ノ歳入ハ各廳計算課長ヲ收入官吏トシ會計部長(會計部長ヲ缺カサルニ
在リテハ廳長以下同シ)ニ
歳入徴收官トス但シ計算課長ヲ置カサル廳ニ在リテハ其ノ收入官吏ハ別ニ之ヲ命ス
海軍工廠資金ノ歳出ハ仕拂豫算ヲ以テ會計部長ニ令示シ之ヲ執行セシム

第九條 歳入徴收官及收入官吏ハ歳入歳出取扱規程第八條乃至第十二條第十八條及第十九條ノ規
定ニ據リ海軍工廠資金ノ歳入ヲ取扱フヘシ但シ領收證書現金拂込書及納入告知書ハ明治二十三
年大藏省令第九號中第二十號第二十一號及第二十五號書式ニ據ルヘシ

第十條 歳入徴收官前條ニ據リ金庫ニ納付シタル收入金ハ其ノ都度金庫ヨリ領收済ノ通知ヲ受ケ
毎日金庫ノ歳入金領收済額(即チ仕拂元受)ヲ取纏メ之ヲ歳出仕拂元受金ニ組換ノ手續ヲ爲スヘ
シ

第十一條 會計部長資金ノ持越額ヲ歳出仕拂元受金ニ組換ヘントスルトキハ金庫ニ請求シ其ノ組
換ヲ爲スヘシ

第十二條 會計部長ハ海軍工廠資金ノ歳出ヲ支出スルニハ毎年度令示セラレタル歳出豫算金額科

目及目的ニ從ヒ作業及鐵道會計規則第十三條乃至第十七條第十九條及第二十二條ノ例ニ據リ共
ノ仕拂ノヘキ金額ノ仕拂傳票ヲ作り證據書類ヲ添付シ其ノ都度鎮守府所在地ニ在リテハ當該海
軍經理部長ノ検査ヲ受ケタル後明治二十三年大藏省令第九號中第二十二號乃至第二十四號書式
ニ據リ仕拂請求書ヲ作り作業及鐵道會計規則第十八條ノ例ニ據リ取扱フヘシ

第十三條 會計部長仕拂請求書ヲ受取人ニ交付シ又ハ金庫ニ送付スルニハ歳入歳出取扱規程第三
十條乃至第三十七條ヲ準用スヘシ但シ歳入歳出取扱規程第三十二條ノ場合ニ於テハ領收證ヲ作
業及鐵道會計規則第九條第三項ノ計算書ニ添付シ同規程第三十六條ノ場合ニ於テハ作業及鐵道
會計金庫出納事務規程ニ據ルヘシ

第十四條 會計部長ハ毎月其ノ收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ基キ作業及鐵道會計規則第二十六條
ニ據リ明治二十三年大藏省令第九號中第五號書式ノ徴收報告書ヲ作り金庫ヨリ送付シタル歳入
金月計對照表ヲ添ヘ翌月五日迄ニ經理局長ニ送付スヘシ

第十五條 會計部長年度經過後(翌年度六月二十日以前)ニ於テ收入科目ニ誤謬アルヲ發見シタル
トキハ前條ニ準シ即時訂正報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第十六條 經理局長第十四條ノ徴收報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治二十三年大藏省令第
九號中第六號書式ニ據リ徴收合計表ヲ作り各徴收報告書及金庫月計對照表ト共ニ翌月十五日迄
ニ之ヲ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 收入官吏年度末ニ領收シタル資金ニ屬スル歳入金ニシテ出納官吏現金取扱規則第十五
條ニ定メタル期日即四月一日ニ現金ノ拂込ヲ了リタルトキ又ハ金庫所在地外ニ在リテ四月一日

ニ金庫ニ對シ現金ノ發送ヲ爲シタルトキハ四月一日以後ニ於テモ尙三月三十一日ノ屬スル年度ノ歳入トシテ整理スヘシ

第十八條 會計部長ハ毎月第四號書式ノ原簿統計表及第五號書式ノ仕拂請求書發行濟額及歳出仕拂元受金差引額報告書ヲ作り翌月十日迄ニ經理局長ニ送付スヘシ

第十九條 會計部長資金ニ屬スル現金ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ金庫ニ繰越ノ請求ヲ爲シ同時ニ第七號書式ノ繰越計算報告書ヲ作り速ニ經理局長ニ送付スヘシ但シ便宜ノ爲當該年度三月中ニ於テ内繰越ヲ金庫ニ請求スルコトヲ得

第二十條 會計部長作業及鐵道會計規則第二十二條ニ據リ收入未濟ノ金額ヲ翌年度ニ繰越シタルトキハ第八號書式ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第二十一條 會計部長作業及鐵道會計規則第二十三條ニ據リ其ノ歳出豫算ヲ翌年度ニ繰越シ之ニ相當スル金額ヲ海軍工廠資金ニ屬スル現金ノ持越高ノ内ニ組込ミ翌年度ニ繰越シタルトキハ第九號書式ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り經理局長ニ送付スヘシ

第二十二條 經理局長前二條ノ報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治二十四年三月大藏省乾第一四二八號及同年四月同省乾第一六五六號ノ通達ニ據リ繰越計算報告書ヲ作り大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

經理局長前項歳出豫算繰越ノ手續ヲ爲ストキハ同時ニ第四條第二ニ據リ仕拂豫算令示ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十三條 會計部長ハ資金ニ屬スル歳入金ニシテ金庫ニ納入濟金額ノ内事故アリテ下戻ヲ要ス

ルモノアルトキハ其ノ年度内ト雖モ歳出豫算額内ヲ以テ仕拂請求書ヲ發シ下戻ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 會計部長ハ資金ニ屬スル歳出ヲ定額ニ戻入セントスルトキハ作業及鐵道會計規則第十九條ノ二ニ據リ返納告知書ヲ發シ資金ニ屬スル歳出ノ返納トシテ金庫ニ納付ノ手續ヲ爲シ其ノ返納トナリタル金額ハ歳出豫算ノ戻入計算ニ立テ整理スヘシ

第二十五條 會計部長ハ毎年度末ニ於テ第一號書式ノ二ニ據リ當該年度ノ受拂勘定表ヲ作り年度經過後直ニ之ヲ經理局長ニ送付スヘシ

第二十六條 經理局長前條ノ受拂勘定表ヲ受ケタルトキハ之ヲ統計シ益金アルトキハ同年度一般ノ歳入トシテ國庫ニ納付ノ爲明治二十四年三月大藏省乾第一五七八號通達ニ據リ請求書ヲ作り大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 會計部長前條ニ據リ益金ヲ國庫ニ納付ノ場合ニ於テ歳出仕拂元受金ヨリ一般歳入ニ移換ノ順序ヲ爲シタルコトノ報告ヲ金庫ヨリ受ケタルトキハ該報告ニ據リ當該年度ノ計算ヲ整理スヘシ

第三章 決算

第二十八條 會計部長ハ第十號書式ニ據リ海軍工廠資金歳入歳出ノ決定計算書並特別會計計算書ヲ作り翌年度七月三十一日迄ニ經理局長ニ送付スヘシ

第二十九條 經理局長前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ明治三十年十月大藏省乾第二二六二號通達ノ書式ニ據リ作業及鐵道會計規則第九條第一項ノ歳入歳出決定計算書ヲ作り又明治二十四年八月大藏省乾第四七九三號通達ノ書式ニ據リ會計規則第五十五條ノ特別會計計算書ヲ作り翌年度八月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 會計部長ヨリ作業及鐵道會計規則第九條第二項及第三項ニ據リ會計検査院ニ提出ス
 へキ歳入徴收額計算書及支出計算書ハ歳入歳出取扱規程第二十五條及第四十四條ニ據ルヘシ
 會計部長前項ノ計算書ヲ送付スルトキハ第十一號書式ニ據リ共ノ歳入額及支出額ニ對スル類別
 金額仕譯書ヲ作り該計算書ニ添付スヘシ
 現金前渡官吏ヨリ作業及鐵道會計規則第四十三條ニ據リ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書ハ
 歳入歳出取扱規程第四十二條及第四十三條ニ、又現計算書ハ同規程第四十一條ニ據ルヘシ
 收入官吏ヨリ作業及鐵道會計規則第四十三條ニ據リ會計検査院ニ提出スヘキ收入計算書ハ歳入
 歳出取扱規程第二十一條乃至第二十三條ニ據ルヘシ
 第三十一條 經理局長前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘ

第四章 帳簿

第三十二條 經理局ニ於テハ第十二號乃至第十五號書式ニ據リ歳入總計簿、歳出總計簿、歳出仕拂
 元受金總差引簿及資金整理簿ヲ備ヘ其ノ計算ヲ整理スヘシ
 第三十三條 會計部ニ於テハ作業及鐵道會計規則第四十六條第四十七條及第四十九條ニ據リ明治
 二十三年大藏省令第九號中第十二號乃至第十五號及第十九號書式ニ據リ日記簿、原簿、内譯簿、徴
 收簿及現金出納簿ヲ設ケ又第十六號書式ノ歳出簿及仕拂元受金差引簿ヲ備ヘ其ノ計算ヲ整理ス
 ヘシ
 第三十四條 會計部ニ於テハ前條ニ掲クルモノノ外收支計算ノ詳細ヲ要スルモノハ適宜補助簿ヲ
 設ケ又諸帳簿ノ試算ニ供スル爲計算表ヲ調製スヘシ

雜則

第二十五條 此ノ規程ニ掲タルモノ、外海軍工廠資金ノ收支ニ關シ大藏省令若ハ訓令ヲ以テ手續
 又ハ様式ヲ規定シタルモノノ外該手續又ハ様式ニ據ルヘシ
 第二十六條 海軍工廠資金收支ノ證明ニ關スル規程及様式ハ會計検査院ノ通達スル所ニ據ルヘシ
 第二十七條 會計部長ハ此ノ規程ニ據リ豫算ノ令示ヲ受ケタルトキハ當該海軍經理部長ニ回示シ
 又經理局ニ送付スル書類ハ鎮守府所在地ニ在リテハ當該海軍經理部ニ送付シ同部長ハ之ヲ調査
 見附テ經理局長ニ送付スヘシ
 第二十八條 此ノ規程中各關トハ海軍工廠海軍造兵廠及下瀬火藥製造所ヲ云フ
 (書式略ス)

○海軍省達第三十七號

明治二十六年十一月十一號第三百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通改正ス
 明治三十八年三月二十日 海軍大臣男爵山本權兵衛

一出納命令官ノ欄工廠會計部長ノ上段品名ノ内(艦營費所屬物品ヲ除ク)ヲ(艦營費所屬物品並兵
 器保管運搬用物品ヲ除ク)ニ改メ同欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

兵器保管運搬用物品 造兵部武庫主管 × 武庫附書記

○海軍省達第三十八號

明治二十六年達第三百三十四號別表中海軍造兵廠會計部長ヲ海軍造兵廠會計部材料庫主管ト改メ
 明治三十八年四月一日ヨリ施行ス
 明治三十八年三月二十一日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第三十九號

明治三十七年七月達第百六號艦船造修試驗検査規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(横式中改正略ス)

○海軍省達第四十號

海軍監獄書記同看守長同看守配置表中「十三」ヲ「十五」ニ「十二」ヲ「十四」ニ「十一」ヲ「十三」ニ改メ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十一號

海軍探炭所ノ管轄スベキ海軍炭山ヲ左ノ通指定ス

明治三十八年三月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

新原御徳及漆生海軍炭山

○海軍省達第四十二號

英國安社ニ於テ製造ノ第二號甲鐵戰艦ヲ鹿島ト命名セラレ

明治三十八年三月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十三號

明治二十八年十月達第百十七號通常物品會計規程中左ノ通改正シ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

明治三十八年三月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條二項及第四條中「器具機械」ノ下「工場用品」ヲ加フ

第十條乙ヲ削ル

第一號甲海軍通常物品類別表備考第一號中「屬中等」ニ使用スル備付品ノ下「及工場用品」ヲ加フ

○海軍省達第四十四號

海軍戰時旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條ノ二 但書中「及食卓料」ヲ「ハ定額食卓料ハ艦船乗換ノ場合ニ限リ其ノ」ニ改ム

第一條ノ五 隊伍旅行ノ軍人軍屬ニハ内地ニ在リテハ海軍内國旅費規則第二十條ニ依リ旅費ヲ支給ス

給ス

第一條ノ六 雇員備人ニ採用ノ爲戰地ニ召喚シタル者ニハ内地ニ在リテハ海軍内國旅費規則第二表ノ定額外國ニ在リテハ實費ヲ支給ス

戰地ニ在ル雇員備人ニシテ官ノ都合ニ依リ解雇解備ト爲リ其ノ日ヨリ十日以内ニ出發歸郷スル者ニハ内地ニ在リテハ海軍内國旅費規則第五表ノ定額外國ニ在リテハ實費ヲ支給ス但シ戰地ニ在リテ採用セラレタル者解雇解備ノ場合ニ於テハ其ノ備入地ニ歸還スルトキノ外旅費ヲ支給セス

前二項ニ依リ支給スル内地ノ旅費ハ採用スル所ノ等級又ハ解雇解備前ノ等級ニ依ル

附則

本達ハ明治三十八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照)

海軍省達第百三十二號海軍戰時旅費規則(明治三十三年七月五日)抄録
第一條ノ二 單獨旅行ノ軍人軍屬ニハ内地ニ在リテハ海軍内國旅費規則第四表ヲ除クノ外各其ノ定額外國ニ在リテハ海軍

大臣ニ於テ特ニ指定シタル者ニ限リ其ノ地到着ノ日ヨリ發程ノ日迄海軍外國旅費規則別表ニ依リ日當及客會料ノ定額以
内ヲ支給ス但シ内地ニ於テ實費拂ト跨ル當日ハ日當宿泊料及食料ノ定額ヲ支給ス

○海軍省達第四十五號

職工臨時給與規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第四條 職工ノ内地ニ於ケル旅費ハ海軍内國旅費規則第七表表面内ノ旅行ニ在リテハ同表八等ノ
定額、表面外ノ旅行ニ在リテハ第五表八等ノ定額ヲ支給ス但シ九人以上同行ノ場合ニ於テハ汽
車料及船舶料ハ定價、其ノ他ハ第五表八等ノ定額ヲ支給ス
前項但書ノ場合ニ於テハ荷物ノ運送費ハ其ノ實費ヲ支給ス
職工ノ外國ニ於ケル旅費ハ總テ實費拂トス但シ食料、宿泊料、休憩料、汽車料、船舶料、車馬料、棧橋
料、解舟料及手荷物運送料ノ外ハ官費支辨ノ限ニ在ラス

附則

本達ハ明治三十八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第四十六號

教育圖書供給規程左ノ通改正ス

明治三十八年三月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

教育圖書供給規程

第一條 本規程ニ於テ教育圖書ト稱スルハ艦團其他各部ニ要スル教育圖書ヲ謂フ
艦團其他各部ト稱スルハ艦船、海兵團、水雷團、要港部、砲術練習所、水雷術練習所、艦隊幕僚、驅逐隊
司令、艇隊司令及特設船舶部隊ヲ謂フ

第二條 教育圖書ハ備品、消耗品及貸與品トス 備品消耗品ノ種別ハ教育本部長之ヲ定ム 消耗品
ハ教育圖書ハ第一種消耗品ノ取扱トス

第三條 艦團其他各部ニ供給スヘキ圖書ノ定數ハ教育圖書表ニ依ル
教育圖書表ハ教育本部ヲシテ各所要ノ向ニ配布セシム

第四條 教育圖書ハ教育本部ヨリ測器庫ニ供給シ所要ノ向ニ配布セシム但必要ニ應シ教育本部長
ハ海軍測器庫又ハ艦團其他各部ヲシテ直接購買ヲナサシムルコトヲ得

第五條 艦團其他各部ニ要スル教育圖書ハ所管若ハ在籍鎮守府海軍測器庫之ヲ供給ス
横須賀海軍測器庫ハ砲術練習所、水雷術練習所ニ在籍鎮守府海軍測器庫ハ艦隊幕僚、艦隊附屬驅逐隊
司令及艇隊司令、要港部ニ教育圖書ヲ供給ス

海軍測器庫ハ他鎮守府在籍ノ艦船及艦隊幕僚等ニ教育圖書ヲ供給スルコトヲ得

第六條 海軍各部ニ於テ教育圖書ノ借入ヲ要スルトキハ借用證ニ使用ノ目的及借用期限ヲ記入シ
海軍教育本部又ハ海軍測器庫ニ要求スヘシ

第七條 海軍部外ニ於テ教育圖書ヲ要スル者アルトキハ教育本部長ノ承認ヲ得テ貸渡ヲ爲スコトヲ得
第八條 教育圖書取扱主任ハ毎年十一月十五日ニ於ケル現在圖書ノ書名及番號ヲ甲號書式ニ依リ

同月末日迄ニ當該海軍測器庫ニ報告スヘシ
海軍測器庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ其帳簿ニ照合シ更ニ十一月十五日ニ於テ爾
製シタル在庫數ヲ合シ乙號書式ニ依リ十二月末日迄ニ教育本部ニ報告スヘシ

第九條 艦團其他各部ニ於テ教育圖書ノ不用ニ歸シタルモノアルトキハ當該海軍測器庫ニ還納スヘシ
(書式略ス)

○會計検査院達第一號

明治三十七年ハ會計検査院達第四號非常特別稅法ニ依ル歳入徵收額證明規程左ノ通改正ス

明治三十八年三月二十八日

會計検査院長法學博士男齋田尻稻次郎

非常特別税法ニ依ル歳入徴收額證明規程

- 第一條 非常特別税法ニ依ル歳入徴收額證明ハ明治三十四年五月會計検査院達第二號租稅徴收額證明規程同第三號海關稅噸稅及稅關雜收入徴收額證明規程並明治三十四年六月會計検査院達第四號租稅外歳入徴收額證明規程ニ定ムルモノ、外此ノ規程ニ據ルヘシ
- 第二條 地租營業稅所得稅酒稅砂糖消費稅醬油稅取引所稅鑛區稅及賣藥營業稅ノ増徴ハ租稅徴收額計算書内譯ニ於テ同書式地租ノ例ニ準シ定率ト區分記載スヘシ但シ第一種所得稅及賣藥營業稅ノ増徴ハ其ノ稅率ノ異ナルニ從ヒ區分記載スルヲ要ス
- 第三條 通行稅ノ内譯ハ第一號書式ニ據リ砂金採取地稅ノ内譯ハ租稅徴收額計算書内譯書式鑛區稅ノ例ニ毛織物消費稅及石油消費稅ノ内譯ハ第二號書式ニ準シ調製スヘシ
- 第四條 輸入稅ノ新規賦課又ハ増徴ニ係ルモノハ徴收額計算書備考ニ區分記載スヘシ
- 第五條 毛織物以外ノ織物消費稅ハ第二號書式ニ據リ明細書ヲ調製シ租稅外徴收額計算書ニ添付スヘシ
- 第六條 非常特別税法施行規則第十七條ニ依リ消費稅擔保物ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ租稅徴收額證明規程第七號書式ニ準シ明細書ヲ調製シ徴收額計算書ニ添付スヘシ
- 第七條 賣藥營業稅ノ増徴並砂金採取地稅通行稅織物消費稅及石油消費稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

- 一 非常特別税法施行規則第一條ノ三ニ依リ賣藥營業者ノ申告シタル書類
- 二 砂金採取地稅ノ新規賦課又ハ稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ當該官廳ノ通知書
- 三 非常特別税法施行規則第一條ノ五ニ依リ汽車電車又ハ汽船營業者ノ提出シタル通行稅徴收高計算書及石油消費稅ノ檢査並査定ニ關スル帳簿但シ擔保物ヲ提供シタルモノアルトキハ其ノ種類及員數ヲ記載シタル書類トモ
- 四 非常特別税法第九條ニ依リ毛織物ノ價格ヲ評定シ又ハ決定シタルモノアルトキハ其ノ關係書類
- 五 非常特別税法附則第七項但書ニ依リ印紙ノ貼用ヲ免除シ又ハ同法附則第十二項ニ依リ織物ノ販賣高ヲ申告シタルモノアルトキハ其ノ關係書類
- 六 消費稅ノ擔保トシテ提供シタル有價證券ヲ公賣シタルモノアルトキハ其ノ契約書但シ契約書ナキトキハ其ノ決議書
- 七 前項ノ證憑書類ハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

第一號書式

通 行 稅				稅 額	備 考
人	員	計	稅		
一等	二等	三等	計		

一 人員中稅法第三條第三項ニ依リ通行稅ヲ徴收シタルモノハ相當欄内ニ其ノ人員ヲ記載スヘシ
 二 官設鐵道ニシテ通行稅徴收高計算書ヲ省略シタルモノハ其ノ稅額ヲ備考ニ記載スヘシ

第二號書式

汽		車	
二百	以上	二百	以上
二百	未滿	二百	未滿
二百	未滿	二百	未滿
五十	未滿	五十	未滿
計		計	
(以下同)		(以下同)	
二百	以上	二百	以上
二百	未滿	二百	未滿
二百	未滿	二百	未滿
五十	未滿	五十	未滿
計		計	

毛織物以外ノ織物消費稅

品名	課稅織物價格			檢出免稅織物價格			自用免稅織物價格			稅額	備考
	圓	錢	分	圓	錢	分	圓	錢	分		
本國產織物											一、本稅額ノ外印紙ヲ貼用シタルモノハ其種類毎ニ印紙價額ヲ加シテ賦課スヘシ 二、稅法附則第七項但書ニ依リ印紙ノ貼用ヲ免除シタルモノハ其ノ價格ヲ備考ニ記スヘシ
外國產織物											
其他織物											
計											
本國產織物											一、稅法附則第七項但書ニ依リ印紙ノ貼用ヲ免除シタルモノハ其ノ價格ヲ備考ニ記スヘシ
外國產織物											
其他織物											
計											
合計											

○陸達第二十三號

廣島ニ陸軍被服廠派出所ヲ置キ陸軍被服廠廣島派出所ト稱ス

明治三十八年四月十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第二十四號

戰時ニ於ケル轉職就職者ノ出發ニ關シテハ明治三十五年ニ陸達第八號ニ據ルノ外尙左ノ通心得ヘ

明治三十八年四月十五日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 戰時ニ於ケル轉職就職ノ命課ハ遠隔セル場合ニ在リテハ電報ヲ以テ傳達スルコトアリ此ノ電報ハ辭令ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス
- 二 陸軍軍人軍屬前項命課ノ電報若ハ辭令ヲ受領シタルトキハ遲クモ五日以内ニ出發スルモノトス

○陸達第二十五號

滿洲各軍ニアル將官同相當官ノ職務ヲ變更セントスルトキハ軍司令官ハ之ヲ總司令官ニ稟申シ總司令官之ヲ陸軍大臣ニ移牒スルコトニ定メラル

明治三十八年四月十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第二十六號

明治三十八年陸達第十號ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十八年四月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

臺灣島及澎湖島ニ駐屯スル部隊ニ屬スル軍人軍屬ニシテ陸軍戰時給與規則細則ニ依リ陸軍旅費規

則第四表ノ食料ヲ給スルハキ場合ハ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則第七表ノ食料ヲ給ス

○陸軍省第三十七號
明治三十六年陸軍部第九號陸軍武官増修給與規程中第六條ニ左ノ一項ヲ加フ
陸軍大臣寺内正毅

國民兵役ノ者及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者ニシテ下士ニ任セラレタル者ハ之ヲ通シ
現役後備後備後區別シ本規程ニ據リ其ノ人員ヲ區分ス

○陸軍省第二十八號
陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス
明治三十八年四月二十五日
陸軍大臣寺内正毅

第二條ノ二 戰地ニ出發又ハ戰地ヨリ歸還ノ途中ニ係ル増給ハ乘船スル者ニ限り出發ノ場合ニハ
最終乘船ノ港灣出發ノ前日迄歸還ノ場合ニハ最初上陸ノ港灣到着ノ翌日ヨリ本規則第六條第一
項但書ニ依リ俸給ニ在リテハ五分ノ一給料ニ在リテハ四分ノ一ニ減ス

第二十八條中第六條第二項ノ下ニ「本規則第二條ノ二ノ場合ヲ除ク」ノ附註ヲ加ヘ「及第四項ヲ第四項及本規則第
三條ノ二ニ改ム」

○海軍省第四十七號
各海軍區内ニ水雷艇炭庫ヲ置キ當該鎮守府所屬海軍工廠ニ屬セシメ艦營備品石炭ヲ配備シ水雷艇
臨時ノ需用ニ供セシム

水雷艇炭庫ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
明治三十八年四月一日
海軍大臣野山本權兵衛

○海軍省第四十八號
下士卒定員補充交代規則第十八條中「竹敷要港部及馬公要港部」ヲ「竹敷要港部馬公要港部及海軍採
炭所」ニ改ム
明治三十八年四月一日
海軍大臣野山本權兵衛

〔參照〕
海軍省第十二號下士卒定員補充交代規則(明治三十四年二月二十日)抄錄
第十八條 東京及橫濱軍港所在ノ各艦動務ノ下士卒ハ橫濱軍港所在ノ各艦動務ノ下士卒ハ吳鎮守府ヨリ
竹敷要港部及馬公要港部動務ノ下士卒ハ佐世保鎮守府ヨリ之ヲ補充交代ス

○海軍省第四十九號
雇員備人規則中左ノ通改正ス
明治三十八年四月一日
海軍大臣野山本權兵衛

第三條左表中割烹、制夫、經師、電機工夫、鐵道線路工夫ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

割	烹	鐵道線路工夫	佐世保海軍經理部、鐵道海軍經理部
制	夫	電機工夫	本省、經理部下、火藥製造所
經	師	鐵道線路工夫	佐世保海軍經理部、鐵道海軍經理部
電	機	電機工夫	本省、經理部下、火藥製造所
鐵	道	鐵道線路工夫	佐世保海軍經理部、鐵道海軍經理部
線	路	鐵道線路工夫	佐世保海軍經理部、鐵道海軍經理部
工	夫	鐵道線路工夫	佐世保海軍經理部、鐵道海軍經理部

別表中砲術練習所、水雷術練習所ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

砲術練習所	一	四	二	一
水雷術練習所	一	四	二	一

同表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 軍港要港外ニ分置スル水雷敷設隊ニ於テハ本表ノ外給仕一名ヲ使役シ長崎水雷敷設隊竹敷要港部水雷敷設隊ニ於テハ割烹一名ツ、ヲ使役スルコトヲ得

○海軍省達第五十號

海軍工廠工務規程中左ノ通り改正ス

明治三十八年四月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條へ左ノ但書ヲ加へ第十七號書式ヲ追加ス

但購入又ハ製造ノ場合ハ入費概算書ノ外第十七號書式ニヨル機械明細書ヲ添付スヘシ

(書式略ス)

○海軍省達第五十一號

軍艦及水雷艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「吹雪」ノ次ニ「笹」ヲ加フ

明治三十八年四月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十二號

雇員備人給與規則第十條中「厘位」ニ止メ「ヲ」ヲ削除ス

明治三十八年四月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十三號

明治三十六年達第六十五號海軍造船材料試驗規格船體製造用鋼材鐵材ノ部「一」ノ欄「厚一吋以下

ノ軟鋼板及山形材」ヲ「厚一吋以下ノ軟鋼及高張力鋼板並ニ山形材」ニ同欄(12)「緊張力ノ部」ニ二十八噸以上三十二噸以下」ヲ「軟鋼二十八噸以上三十二噸以下高張力鋼三十四噸以上三十八噸以下」ニ改メ(12)「頭書ノ欄」ニ「彈性限度ノ下割書」ニ「ケル」上ニ「高張力鋼及」ヲ加ヘ「ノ欄」(12)「彈性限度ノ部」ニ「二十噸以上」ヲ加フ

明治三十八年四月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十四號

明治三十六年「一」達第百三十一號通帶物品出納命令官會計官吏表中左ノ通り改正ス

明治三十八年四月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一出納命令官ノ欄「工廠會計部長」ノ上「段品名」ノ内「及修理工場」ノ下「(馬公大湊修理工場)」ヲ加ヘ「同欄」ノ次

ニ左ノ一欄ヲ加ヘ備考第一中「修理工場」ノ上ニ「竹敷」ヲ加フ

馬公大湊修理工場所屬物品 馬公大湊修理工場主管 馬公大湊修理工場書記

○海軍省達第五十五號

臺灣及澎湖島ニ在ル海軍軍人ハ此際特ニ茶褐色ノ夏服ヲ着用スルコトヲ得ル備ト心得ヘシ

明治三十八年四月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○宮内省達甲第三號

明治二十二年七月宮内省達第十號宮内省官制第四十條中主馬寮技師三人トアルヲ「六人」ニ又牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ従事ス「トアルヲ」牧場ノ實務ニ従事シ内三人ハ牧場長ニ補スニ改ム

明治三十八年五月三日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸運第二十九號

陸軍運輸部發中支部彰化、臺中、葫蘆墩、伯公坑停車場ハ本月十五日限り廢止ス

明治三十八年五月十四日

陸軍大臣寺内正毅

○陸運第三十號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正シ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年五月二十六日

陸軍大臣寺内正毅

第十八條第二項中「又ハ同令第二十一表」ヲ削リ第四項中「ヲ馬糧ハ同令第二十一表」ヲ目途トシ實費支辨ス「ヲ」ニ馬糧ハ同令第二十一表ニ依ル」ニ改ム

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

留守部隊内地特設部隊衛戍勤務ニ服スル後備隊及國民歩兵隊、内地要塞諸部隊ニ在リテハ本規則第八條第一項ノ期間外糧食ハ營内居住ノ現人員ニ應シ陸軍給與令第九表ノ定額、馬糧ハ隊馬ノ現馬數ニ應シ同第二十一表ノ定額ヲ交付シ當該部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第二十七條 戰時編制ノ部隊及特ニ設置セラレタル部隊ニ在リテハ本規則第六條第一項第二項及第四項ノ期間外ニ於ケル被服、糧食、馬糧、消耗品、陣營具等ノ給與ハ平時ノ規定ヲ基準トシ實費支

辨ス但レ前條第二項ノ糧食及馬糧給與ニツキテハ此限ニアラス
前項ノ場合ニ於テ士官以上ノ乘馬ニ係ル馬糧ノ給與ハ平時ノ規定ニ依ル
○陸軍第三十一號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十八年五月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

第二十條 士官初テ乘馬本分ノ職ニ就キ馬具ノ貸與ヲ受クル者ニハ馬裝手當ヲ給セス

○海軍省達第五十六號

今回購入シタル汽船「サルス」號ヲ猿橋丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十八年五月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十七號

汽船猿橋丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年五月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q S C

猿橋丸

○海軍省達第五十八號

捕獲汽船「セヴニールス」號ヲ藥取丸ト命名シ其ノ本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

明治三十八年五月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十九號

汽船藥取丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年五月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q S B

藥取丸

○海軍省達第六十號

海軍氣象信號規程別冊ノ通改正シ明治三十八年五月二十五日ヨリ之ヲ實施ス

但シ別冊ハ要スル向ヘ配賦ス (別冊略ス)

明治三十八年五月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十一號

艦營用品經理規程第一條第二項別表第二種消耗品品名表中「保護亞鉛棒」ノ一廉ヲ加フ

明治三十八年五月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十二號

今回購入シタル汽船「ヒラクリース」號ヲ栗橋丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十八年五月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十三號

汽船栗橋丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年五月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q S D

栗橋丸

○海軍省達第六十四號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中左ノ通追加ス

明治三十八年五月二十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十七號書式

第 號

適任 證書

官(職)氏 名

年月日

長官位助功爵 氏 名

第十八號書式

第 號

掌砲(掌水雷)艦狀 何等

官(職)氏 名

年月日

長官位助功爵 氏 名

第十九號書式

第 號

掌砲(掌水雷)(水雷工)(掌機)(船匠工)艦狀

官(職)氏 名

年月日

長官位助功爵 氏 名

○海軍省達第六十五號

明治三十六年達第四十九號海軍武官考課表規則別表第一號中採炭所ノ次ニ臨時煉炭製造所ヲ加ヘ考課表關製官欄採炭所長ノ一行ヲ削リ左ノ五行ヲ加ヘ及被考課官ノ欄採炭所長ノ下ニ臨時煉炭製造所長ヲ加フ

採 炭 所 長	上長官、士官
同 事 長	下士
臨時煉炭製造所長	上長官、士官
臨時煉炭製造所 部長	部下兵曹長相當官、准士官
臨時煉炭製造所 軍醫長	下士

明治三十八年五月二十七日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十六號

明治三十一年達第百三十一號海軍武官考課表規則別表第二號中採炭所ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

臨時煉炭製造所	高等官	所 長	判任官
			部下高等官中ヨリ所長之ヲ指定ス

明治三十八年五月二十七日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十七號

海軍戰時給與規則施行細則中ニ左ノ追加ス

明治三十八年五月二十九日 海軍大臣男爵山本權兵衛

第九條ノ二 文官及文官待遇者ニシテ海軍大臣ノ指定セル部隊艦船艇及官衙ニ在リテ從軍服ヲ著

用スル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ服裝手當ヲ給ス但シ所屬長官ノ認許ヲ受ケ從軍服ヲ着用セサル者ハ此ノ限ニ在ラス

高等文官
奏任待遇者

三十圓

判任文官
判任待遇者

二十圓

附則

本達ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第六十八號

海軍軍屬敬禮式中左ノ通改正ス

明治三十八年五月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條ノ二 勅令ニテ定メラレタル制服ヲ着用スルモノハ海軍敬禮式ニ準據シ敬禮ヲ行フヘシ

第三條中「海軍敬禮式ニ準據シ」ヲ削ル

第五條中第六號ヲ左ノ如ク改ム

途上ニ於テハ受禮者ニ路ヲ譲リ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行フヘシ

第十二條 本式ハ海軍ノ事務ニ從事スル文官待遇者ニ適用ス

〔參照〕

海軍省達第五十八號海軍軍屬敬禮式(明治三十三年四月十四日)抄録

第三條 勅令ニテ定メラレタル制服ヲ着用スル海軍軍屬看守長監獄看守及醫官ハ海軍准士官以上及所屬艦團官衛等ノ上階者ニ對シ海軍敬禮式ニ準據シ敬禮ヲ行フヘシ

第五條 海軍大臣ノ定メタル制服ノ中法被ヲ着用スル傭人ノ敬禮法ハ左ノ如シ

六 途上ニテ敬禮ヲ行フトキハ受禮者ニ路ヲ譲リ三歩前ヨリ停止シ敬禮ヲ行フヘシ

○海軍省達第六十九號

海軍戰利品取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十八年五月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條 鎮守府司令長官ハ前條ニ依リ戰利品ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ品名及數量ヲ海軍

大臣ニ報告シ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ

旅順口鎮守府司令長官ハ所管地域内ニ現存スル戰利品ニ對シテモ前項ノ例ニ依ルヘシ

〔參照〕

海軍省達第五十六號海軍戰利品取扱規程(明治三十七年三月十九日)抄録

第三條 前條ニ依リ戰利品ノ送付ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ

○海軍省達第七十號

捕獲品取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十八年五月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

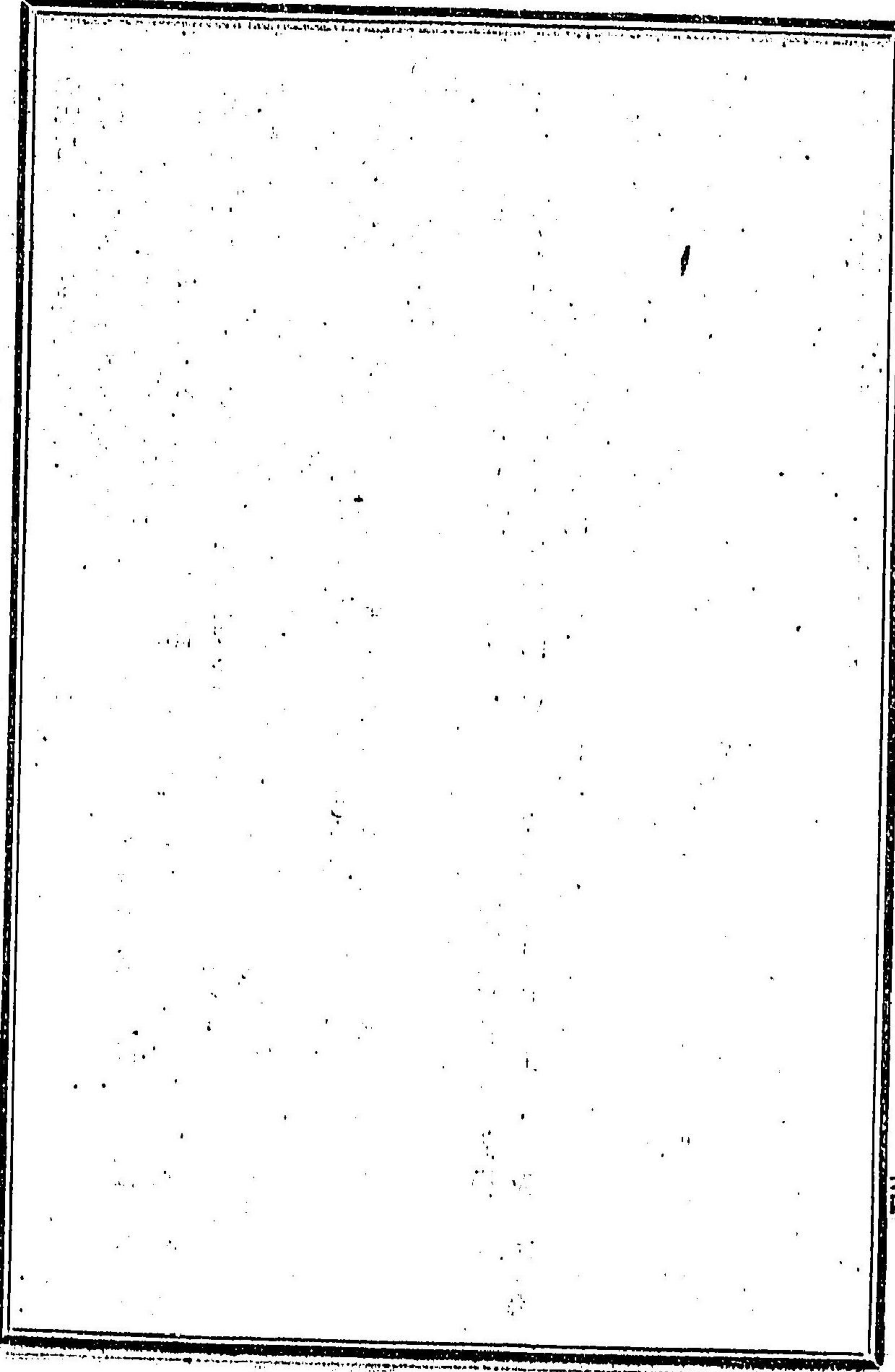
第三條 鎮守府司令長官ハ前條ニ依リ捕獲品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ品名及數量ヲ海軍

大臣ニ報告シ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ

〔參照〕

海軍省達第五十七號捕獲品取扱規程(明治三十七年三月十九日)抄録

第三條 前條ニ依リ捕獲品ノ引渡ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ



○陸軍第三十二號

明治三十七年陸軍第六十九號申左ノ通改正ス

明治三十八年六月一日

陸軍大臣寺内正毅

第三條 各糧餉部ニ於テ前條生皮ヲ收受シタルトキハ該部ニ於テ剝離シタルモノト共ニ鹽皮又ハ乾皮トナシ滿洲軍倉庫(支庫)ニ送付スヘシ但シ在韓國糧餉部ニ在リテハ適當ニ梱包ノ上直ニ貨物廠ニ還送スヘシ

滿洲軍倉庫(支庫)ニ於テ前項ノ鹽皮及乾皮ヲ收受シタルトキハ更ニ完全ニ之ヲ處理シテ貨物廠ニ還送スヘシ

第五條中「各糧餉部」ノ下ニ「及滿洲軍倉庫(支庫)」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第六十九號(明治三十七年三月二十二日)抄録

第三條 各糧餉部ニ於テ前條生皮ヲ收受シタルトキハ該部ニ於テ剝離シタルモノト共ニ鹽皮又ハ乾皮トナシ適當ニ之ヲ梱包シテ貨物廠ニ還送スヘシ

第五條 獸皮ノ授受ハ必ス傳票若クハ送狀及受領証ヲ以テ之ヲ證シ各糧餉部ハ還送シタル獸皮ノ種類及員數ヲ毎月當該經理部ニ報告シ經理部ハ之ヲ陸軍省ニ報告スヘシ

○海軍省達第七十一號

戰利汽船「アングラ」及「カザン」ヲ左ノ通命名シ其ノ本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

明治三十八年六月三日

海軍大臣野村權兵衛

「アングラ」

姉川丸

「カザン」

笠戸丸

○海軍省達第七十二號

汽船姉川丸及笠戸丸ニ左ノ通信號符字ヲ照付ス

明治三十八年六月三日

G Q S K 姉川丸
G Q S L 笠戸丸

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十三號

戦利軍艦「アリヨール」外三隻左ノ通命名セラル

明治三十八年六月六日

戦艦「アリヨール」 石見
戦艦「インペラートルニコライ」第一世 壹岐
海防艦「ゲキラルアドミラル」 沖島
海防艦「アドミラルセニヤウ井ン」 見島

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十四號

戦利驅逐艦「ビエードウ井」ヲ軍月ト命名ス

明治三十八年六月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十五號

軍艦石見外四隻ニ左ノ通信號符字ヲ照付ス

明治三十八年六月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q S M 石見
G Q S N 壹岐
G Q S P 沖島
G Q S R 見島
G Q S T 早月

○海軍省達第七十六號

軍艦及水雷艇類別等級別表中戦艦ノ欄「三笠」ノ次ニ「石見」ヲ、「鎮遠」ノ次ニ「壹岐」ヲ、海防艦ノ欄
二等ノ部ニ「沖島」「見島」ヲ、驅逐艦ノ欄「霞」ノ次ニ「早月」ヲ追加ス

明治三十八年六月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十七號

吳鎮守府在籍

軍艦 筑波

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十八年六月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十八號

軍艦及水雷艇類別等級別表中「筑波」ヲ削ル

明治三十八年六月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十九號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 天城

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十八年六月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十號

軍艦及水雷艇類別等級別表中「天城」ヲ削ル

明治三十八年六月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十一號

臨時軍事費ヲ以テ製造スヘキ驅逐艦二隻ヘ左ノ通命名ス

明治三十八年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

製造番號

製造所

艦名

第二十六號

神戸川崎造船所

水無月

第二十七號

長崎三菱造船所

水無月

○海軍省達第八十二號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 愛宕

吳鎮守府在籍

軍艦 八島

佐世保鎮守府在籍

軍艦 高砂

軍艦 大島

舞鶴鎮守府在籍

驅逐艦 速鳥

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

水雷艇 第六十九號

佐世保鎮守府在籍

水雷艇 第三十四號

水雷艇 第三十五號

右帝國水雷艇籍ヨリ除カル

明治三十八年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十三號

軍艦及水雷艇類別等級別表中軍艦ノ欄内八島、初瀬、吉野、高砂、濟遠、海門、平遠、愛宕、大島、宮古、速鳥ヲ、水雷艇ノ欄内第三十四號、第三十五號、第四十二號、第四十八號、第五十一號、第五十三號、第六十九號ヲ削ル

明治三十八年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十四號

海軍ニ召集セラレタル者ニ本年勅令第七十九號ノ手當支給方左ノ通定ム

明治三十八年六月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條 手當ノ支給ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ノ寫ヲ添ヘ所屬ノ艦團共ノ他各部ニ請求スヘシ

第三條 手當ノ支給額月額ト恩給年額ト二分ノ一トヲ對比シ其ノ支給額ヲ定ム但シ俸給月額ニハ海軍職時給規則ニ依リ塔俸ヲ算入セズ

第三條 手當ハ傷疾疾病其ノ他事故ニ因リ俸給ノ減給若ハ停止セラレタル場合ニ在リテモ之ヲ増減セズ前條所定ノ額ニ依ル但シ刑期中ハ支給ノ限ニ在ラス

第四條 手當ハ毎月俸給支給ノ際所屬ノ艦團其ノ他各部ニ於テ之ヲ支給ス

○海軍省達第八十五號

雇員傭人規則別表中日進ノ次ニ左ノ欄ヲ追加ス

明治三十八年六月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

石	見	八	四	一
壹	岐	八	三	一
沖	島	六	二	一
見	島	六	二	一

○海軍省達第八十六號

戰利汽船「スンガリー」ヲ松江丸ト命名シ其ノ本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

明治三十八年六月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十七號

汽船松江丸ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年六月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q R C

松江丸

○海軍省達第八十八號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄「皐月」ノ次ニ「潮」ヲ追加ス

明治三十八年六月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○陸達第三十三號

明治三十七年陸達第二十號(從軍軍團)中左ノ通改正ス

明治三十八年七月七日

陸軍大臣寺內正毅

「録事」ノ下ニ民政署警視同警部ヲ加フ

○陸達第三十四號

陸軍ニ於テ所用ノ野紙類ハ平戰兩時ニ拘ラス自今各部各隊名ヲ附記セズ一般陸軍ノ二字ヲ附記ス

但シ現在品ハ當分ノ内混用スルコトヲ得

明治三十八年七月九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第三十五號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十八年七月十二日

陸軍大臣寺內正毅

第五章 戰時服ノ著裝及混用法

第五十七條 戰時服ノ著裝法ハ本章ニ於テ特ニ規定スルモノノ外前各章ノ規定ヲ適用ス

第五十八條 戰時服ハ平時ニ在リテモ軍裝略裝及通常禮裝ニ用ウルコトヲ得

第五十九條 通常禮裝ニ戰時服ヲ用ウルトキハ第一種帽ノ代リニ第二種帽ヲ用ウルモノトス又季節ニ應シ軍衣夏衣ノ何レヲモ用ウルヲ得ト雖夏衣ト袴トハ併用スルヲ得ス

第六十條 夏短袴ハ第十一條及第二十四條ニ據リ著用スルモノトス

第六十一條 防寒襟ハ支給セラレタル部隊ニ限リ嚴寒ノ際之ヲ用ウルモノトス

第六十二條 通常禮裝ニ在リテハ戰時服ノ夏袴及夏短袴ヲ三十二年制明治三十二年勅令第三百六十四號ヲ云フ軍衣ト混用スルノ外戰時服ト他ノ制服三十二年制及三十七年制明治三十七年勅令第二百九十九號ヲ云フト混用スルヲ得ス但シ外套雨覆及夏外套ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 戰時服ノ第二種帽ハ軍裝及略裝ニ於テ他ノ制服ト混用スルコトヲ得但シ准士官以上ニ在リテハ紺色ノ軍衣ト混用スルコトヲ得ス

第六十四條 戰時服ノ軍衣、衣及夏衣ハ軍裝及略裝ニ於テ他ノ制服ト混用スルコトヲ得但シ准士官以上ニ在リテハ此ノ場合ニ戰時服ノ第二種帽ヲ用ウヘキモノトス

第六十五條 戰時服ノ袴短袴、夏袴及夏短袴ハ軍裝及略裝ニ於テ他ノ制服ト混用スルコトヲ得

第六十六條 戰時服ノ外套、雨覆及夏外套ハ總テノ服裝ニ於テ他ノ制服ト混用スルコトヲ得三十二年制外套雨覆及夏外套モ亦之ニ準ス

○陸軍第三十六號
明治三十二年陸軍第五百五十九號臂章圖中衛生部ノ區班内「副助手」ノ次ニ「見習隊醫」「獸醫部」ノ區班内「士官」ノ次ニ「見習隊醫」「獸醫部」ヲ加フ
陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第三十七號
明治三十八年勅令第九十八號第三條ニ依リ雜卒ヲ兵卒トナスノ件ニ關シ左ノ通定ム
陸軍大臣寺内正毅

第一條 明治三十八年勅令第九十八號第三條ニ依リ雜卒ヲ兵卒ト爲スハ他ノ模範トナリ且當該兵科部ノ兵卒ト同等ノ技能ヲ有シ其ノ勤務ヲ執ラシムルニ差支ナキ者ニ限ル

第二條 砲兵助卒ヲ砲兵二等卒ト爲スハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルヲ要ス

一 現役兵ニシテ引續キ約一箇年以上在隊スル者

二 歸休兵及豫備役又ハ後備役ニ在ル者ニシテ召集後約三箇月ヲ經過シタル者

三 補充兵役ニ在ル者ニシテ召集日數前後ノ召集日數ヲ通算ス約一年三箇月以上ニ達シタル者

第三條 砲兵輪卒ヲ砲兵二等卒ト爲シ輜重輪卒ヲ輜重兵二等卒ト爲スハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルヲ要ス

一 現役兵ニシテ引續キ約一箇年以上在隊スル者

二 歸休兵及豫備役又ハ後備役ニ在ル者ニシテ召集後約九箇月ヲ經過シタル者

三 補充兵役ニ在ル者ニシテ召集日數前後ノ召集日數ヲ通算ス約一年五箇月以上ニ達シタル者

第五條 國民兵役ニ在ル雜卒ヲ兵卒ト爲スニハ第一國民兵役ニ在ル者ニ在リテハ後備役ニ在ル者第二國民兵役ニ在ル者ニ在リテハ補充兵役ニ在ル者ノ例ニ依ル

第六條 雜卒ニシテ砲兵又ハ輜重兵ト爲リタル者ヲ陸軍兵卒進級規則ニ依リ進級セシムル場合ニ於テ雜卒タル期間ハ兵卒ノ例ニ依リ進級期限ニ通算スルモノトス

第七條 砲兵助卒同輪卒及輜重輪卒ヲ砲兵又ハ輜重兵ト爲スハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル

長官ノ認可ヲ得テ中隊長又ハ之ト同等以上ノ者ニ於テシ看護卒ヲ看護手ト爲スハ軍醫部長ノ承認ヲ得テ當該部隊長ニ於テスルモノトス

○海軍省達第八十九號

捕獲汽船「ロシア」外二隻ノ船名及本籍領守府ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年七月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

原 名

船 名

本 籍

「ロシア」

濟州 丸

吳鎮守府

「エカテリノスラブ」

韓 崎 丸

橫須賀鎮守府

「アレキサンダー」

歷 山 丸

佐世保鎮守府

○海軍省達第九十號

汽船濟州丸外二隻ヘ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年七月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q P S

濟州 丸

G Q P V

韓 崎 丸

G Q R B

歷 山 丸

○海軍省達第九十一號

英國民社ニ於テ製造ノ第一號甲鐵戰艦ヲ香取ト命名セラル

明治三十八年七月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十二號

戰利汽船「ナガタン」號ヲ長柄丸ト命名シ其ノ本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

明治三十八年七月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十三號

汽船長柄丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年七月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q S V

長 柄 丸

○海軍省達第九十四號

明治三十一年^四月達第五十九號海軍軍醫官服務規則中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十八年七月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十五號

捕獲汽船「コチック」ヲ北洋丸ト命名シ其ノ本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定ム

明治三十八年七月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十六號

汽船北洋丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年七月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q R F

北 洋 丸

○海軍省達第九十七號
驅逐艦潮外二隻へ左ノ通信號符字ヲ點付ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年七月二十日

G	Q	T	B	潮
G	Q	T	C	神
G	Q	T	D	初
				霜

○海軍省達第九十八號
軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄「潮」ノ次ニ「初霜、神風」ヲ加フ

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年七月二十一日

○海軍省達第九十九號
兵器造修試驗檢査規則中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年七月二十三日

第二十七條ヲ左ノ通改ム
第二十七條 砲煩裝備發射ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス但シ時宜ニ依リ發射彈數ヲ増減スルコトヲ得

側砲一門ニ付	減裝藥演習榴彈	一發
常裝藥演習榴彈	(八尹以上ノ砲ニ在リ)	三發
旋回砲一門ニ付	減裝藥演習榴彈	一發
常裝藥演習榴彈	(八尹以上ノ砲ニ在リ)	三發

機砲一門ニ付

(諾典砲ニ在リテハマキシム砲ニ在リテハ二百五十發)連發 一回

八尹以上ノ艦首艦尾砲ニ在リテハ「キール」線ヨリ四十五度以上ニ於テ發砲スルヲ例トス又聯裝砲ニ在リテハ本條發射彈數以內ニテ一回ノ一齊發射ヲ施行スヘシ

第二十八條第一項第一號ヲ左ノ通改ム

同種砲ノ内一門ニ付 常裝藥演習榴彈(八尹以上ノ砲ニ在リ)五發

○海軍省達第百號

捕獲汽船「ヴェテラン」號ヲ八浦丸ト命名シ其本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年七月二十七日

○海軍省達第百一號

汽船八浦丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年七月二十七日

G Q R K 八浦丸

明治三十八年七月

七八

○陸軍第三十八號

明治三十七年十二月入隊ノ主計候補生ハ來九月一日陸軍經理學校ニ入校セシム

明治三十八年八月十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第三十九號

今同ノ戰役間陸軍經理學校入校中ノ主計候補生ニ係ル被服給與ハ明治三十七年陸軍第九十二號ニ準據スヘシ

明治三十八年八月十二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十號

俘虜勞役規則中左ノ通改正ス

明治三十八年八月二十四日

陸軍大臣寺內正毅

第五條末文兵卒ハ一日四錢トスノ下ニト雖製麵包裁縫及造靴等特種ノ技術ニ従事セシムル者ニハ技術勳意及勞役時間ノ長短ニ應シ更ニ拾六錢以内ノ賃銀ヲ増與スルコトヲ得ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第三十九號俘虜勞役規則(明治三十七年九月十日)抄錄
第五條 官衙公衙團體又ハ個人ニシテ俘虜ヲ使役セムトスルトキハ術技司令官ニ於テ其ノ勞務ノ種類場所時間及賃銀等ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ官衙ニ於テ使役スル場合ノ賃銀ハ下士同相當者ハ一日七錢兵卒ハ一日四錢トス

○海軍省連第百二號

海軍服裝規則第九條ノ二ノ次ニ左ノ追加ス

明治三十八年八月四日

海軍大臣野澤山本權兵衛

第九條ノ三 造兵廠工廠修理工場ニ勤務スル海軍軍人ハ其ノ執務中夏服着用ノ場合ニ茶褐色ノモノヲ用フルコトヲ得

○海軍省連第百三號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄神風ノ次ニ彌生ヲ加フ
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四百四號
明治三十八年八月七日

戰利汽船「ニング」ヲ生田丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四百五號
明治三十八年八月十四日

汽船生田丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月十四日
生田丸

G Q T M

○海軍省達第四百六號
明治三十年達第三百二十六號第二項中施行スル工事ニ在テハ監督ノ爲メ出張スル技術官ヲハ適宜

他ノ官吏ニ改正ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月十七日

○海軍省達第四百七號
海軍里程表中別冊ノ通改正シ明治三十八年九月一日ヨリ施行ス但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ經理局

ヨリ配付セシム (別冊略ス)
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月十八日

○海軍省達第四百八號
捕獲汽船「ムクデン」號ヲ奉天丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月二十日
海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四百九號
汽船奉天丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年八月二十日 奉天丸 海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q P R

○海軍省達第四百十號
艦營用品經理規程第十六條別表艦營用品直買品名表中「油紙」ヲ「澁紙」ニ改ム
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月二十日

○海軍省達第四百十一號
戰利軍艦「ベレスウエート」外四隻左ノ通命名セララル
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月二十二日

戰艦「ベレスウエート」 相模
戰艦「ボルタワ」 丹波

一等巡洋艦「バヤーン」 阿蘇

二等巡洋艦「ワリヤード」 宗谷

二等巡洋艦「バルラダ」 津

○海軍省達第四百十二號
軍艦相模外四隻ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス
海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年八月二十二日

G Q T F 相模

G Q T H 阿蘇

G Q T J 宗谷

G Q T K 津

G Q T L 輕谷

本年達第二十八號糧食品代價表中骨付生獸肉ノ欄ヲ左ノ通り改正ス

明治三十八年八月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

骨付生獸肉	同	一七五〇	一六〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一六五〇
-------	---	------	------	------	------	------	------	------

○海軍省達第百十四號

軍艦及水雷艇類別等級別表中戰艦ノ欄一等ノ下「石見」ノ次ニ「相模」丹後ヲ、巡洋艦ノ欄一等ノ下「日進」ノ次ニ「阿蘇」ヲ、同二等ノ下「千歲」ノ次ニ「津輕」宗谷ヲ加フ

明治三十八年八月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十五號

雇員備人規則第三條左表中水栓番人ノ欄ヲ左ノ通改ム

明治三十八年八月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

水栓番人 横須賀海軍經理部、佐世保海軍經理部、舞鶴海軍經理部

○海軍省達第百十六號

戰利汽船「ギリン」ヲ吉林丸ト命名シ其ノ本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定ム

明治三十八年八月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十七號

汽船吉林丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年八月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q T W

吉林丸

○海軍省達第百十八號

軍艦及水雷艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「彌生」ノ次ニ「子日」ヲ加フ

明治三十八年八月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○宮内省達乙第二號

明治二十三年七月宮内省達第十五號學習院學則中左ノ通改正ス

明治三十八年九月二十九日

宮内大臣子爵田中光顯

第二條 學習院ノ學科ヲ初等學科中等學科高等學科ノ三種トス其修業年限及相當年齡左ノ如シ但初等中等ノ二學科ハ每學科各分テ六級トシ高等學科ハ分テ三級トス一級ノ修學期限ハ各一箇年トス

其一 初等學科 六箇年

自滿六年至滿十二年

其二 中等學科 六箇年

自滿十二年至滿十八年

中等學科一年級卒業ノ者ニハ陸軍中央幼年學校豫科及陸軍地方幼年學校ニ入ルニ堪フル學力ヲモ備ヘシメ其六年級卒業ノ者ニハ陸軍各兵科士官候補生タルニ堪ヘ又海軍兵學校海軍機關學校ニ入ルニ堪フル學力ヲモ備ヘシムルモノトス

其三 高等學科 三箇年

自滿十八年至滿二十一年

第三條中「五ヲ三ニ改メ左表第四號第五號ヲ削ル

第五條但書中「及大學科」ノ四字ヲ削ル

第十一條ヲ削リ以下各條順次繰上ケ

第十六條中「大學科ヲ卒業スル迄」ノ九字ヲ削ル

〔參照〕

宮内省達第十五號學習院學則(明治二十三年七月二十八日)抄録
第二條 學習院ノ學科ヲ初等學科中等學科高等學科大學科海軍豫科ノ五種トス其修業年限及相當年齡左ノ如シ但初等中等ノ二學科ハ每學科各分テ六級トシ自餘ノ三學科ハ每學科各分テ三級トス二級ノ修學期限ハ各一箇年トス

其一 初等學科 六箇年 自滿六年至滿十二年
 其二 中等學科 六箇年 自滿十二年至滿十八年
 中等學科三年級卒業ノ者ニハ陸軍幼年學校ニ入ルニ堪フル學術ヲモ備ヘシメ 其六年級卒業ノ者ニハ陸軍各兵科士官候補生タルニ堪フル學術ヲモ備ヘシムルモノトス
 其三 高等學科 三箇年 自滿十八年至滿二十一年
 其四 大學科 三箇年 自滿二十一年至滿二十四年
 其五 海軍學科 三箇年 自滿十五年至滿十八年
 海軍學科ハ志願ニ由リ 中等學科三年級卒業以上ノ者ヲシテ之ニ就カシメ卒業ノ者ハ海軍兵學校ニ入ルニ堪フルノミナラス尙入校ノ上其課程ヲ修ムルニ餘地アルヘキ學術ヲ備ヘシムル海軍兵學校入學檢査ノ格例及同校學科課程等ニ變更アルトキハ隨テ之ヲ改ムルモノトス
 第三條 五學科ノ教課程目録概ネ左ノ如シ
 第五條 學習院ノ學年(即教育ノ年度)ハ當年ノ九月一日ヨリ翌年ノ八月三十一日迄ヲ期トス此内休業日左ノ如シ
 但高等學科及大學科ニ在リテハ九月一日ヨリ同二十日迄ヲモ夏季休業トスルコトアルヘシ
 第十一條 大學科卒業學生ハ學習院學士ト稱スルコトヲ得
 其未タ大學科ヲ卒業スルニ及ハズシテ特ニ海外留學ヲ命ゼラレ該國大學ニ於テ滿三箇年以上ノ學科課程ヲ卒業シタルハ學習院長ノ認可ヲ經テ學習院學士ト稱スルコトヲ得
 自己ノ志望ヲ以テ海外ニ留學シ其修學ノ程度前項ニ等シキ者ハ學習院長ニ於テ監臨ノ上宮内大臣ノ認可ヲ經テ學習院學士ト稱號ヲ認可スルコトアルヘシ
 第十六條 學習院在學ノ學生ハ大學科ヲ卒業スル迄左ニ掲ケル場合ノ外退學スルヲ得サルモノトス若此等場合ノ外學セント欲スル者アルトキハ其事情ヲ具陳シ保護人ヨリ學習院長ヲ經テ宮内大臣ニ出願シ其許可ニ從フヘシ
 其一 陸軍幼年學校入學ヲ差許サレタル時
 其二 陸軍士官候補生タルヲ差許サレタル時
 其三 海軍兵學校入學ヲ差許サレタル時
 但三項共保護人ヨリ屆書ヲ出スヲ要ス

○陸軍第四十一號

一 輪輻重車制式中車輪及車軸ヲ別紙ノ通改正ス

但レ既成ノ分ハ其ノ儘應用ノ義ト心得ヘレ (別紙略ス)

明治三十八年九月五日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十二號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十八年九月七日

陸軍大臣寺內正毅

第二十三條ノ二 戰時編制ノ部隊又ハ特ニ設置セラレタル部隊ニ屬スル軍屬ニシテ休職退職退官免官解雇解備トナリタルトキハ該部隊ニ屬セシ場合ニ於ケル前任地又ハ新任地若ハ採用地迄在勤中ノ身分ニ應ジ旅費ヲ給ス但シ自己ノ便宜刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本規則第十二條ノ埋葬料ヲ給スル雇員傭人ハ編制表ニ掲ケアル者及陸軍大臣之ヲ配屬シ若ハ其ノ配屬ヲ許可セル者ニ限ル

附則

第二十五條第二項ノ改正ハ今回戰役ノ初ニ遡リ之ヲ適用ス

○陸軍第四十三號

後備步兵聯隊軍旗取扱方左ノ通定メラレ明治二十八年ハ陸軍第六十九號ハ之ヲ廢止セララル

明治三十八年九月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

後備步兵聯隊ノ軍旗ハ聯隊ヲ編成セサル間ハ該聯隊ト同一番號ノ步兵聯隊長之ヲ保管シ聯隊ヲ編成スルトキハ師團長之ヲ其ノ聯隊ニ交付ス但シ後備步兵聯隊ト同一番號ノ步兵聯隊ナキトキハ該後備步兵聯隊ノ編成ヲ擔任シタル師團長ニ於テ保管スルモノトス

〔参照〕

明治三十八年八月陸軍省第六十九號ハ本號ト同伴ナリ

○陸軍省第四十四號

明治二十七年十月陸軍省第百三十四號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年九月二十八日

陸軍大臣寺内正毅

〔参照〕

明治三十七年十一月陸軍省第百三十四號ハ軍馬買却ノトキ烙印ノ件ナリ

○海軍省第百十九號

明治三十六年達第七十五號中毎年度令示豫算ノ下判任俸給ノ四字ヲ追加ス

明治三十八年九月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔参照〕

明治三十六年七月海軍省達第七十五號ハ定時間外服業スル技手ニ毎年度令示豫算定額ノ範圍内ニ於テ給與スルヲ得ル日額ノ件ナリ

○海軍省達第百二十號

捕獲汽船「レントン」外六隻ノ船名及本籍領守府ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年九月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

原 名	船 名	本 籍
「レントン」	若宮丸	佐世保領守府
「ローズリー」	高崎丸	佐世保領守府

「オークレー」	烏帽子丸	佐世保領守府
「イースビーアベ」	磯部丸	横須賀領守府
「ヴェナス」	辨天丸	佐世保領守府
「アフロダイト」	揮提丸	吳領守府
「ハーバートン」	藻寄丸	佐世保領守府

○海軍省達第百二十一號

汽船若宮丸外六隻へ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年九月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G	若宮丸	G	辨天丸
Q	高崎丸	Q	揮提丸
R	烏帽子丸	R	藻寄丸
S	磯部丸	S	
T		T	
N		N	

○海軍省達第百二十二號

戰利驅逐艦「シールヌイ」ヲ文月ト命名ス

明治三十八年九月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百二十三號

驅逐艦文月へ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年九月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G	文
Q	月
T	
V	

○海軍省達第百二十四號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄内子目ノ次ニ「文月」ヲ加フ

明治三十八年九月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百二十五號

潜水艇隊員勤務令左ノ通定ム

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十八年九月三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

潜水艇隊員勤務令

第一條 司令ハ所屬長官ノ承認ヲ經テ其ノ隊ノ内規ヲ制定スルコトヲ得

第二條 司令ハ所屬在役艇ヲシテ常ニ任務ニ支障ナカラシムルコトヲ期スヘシ

第三條 司令ハ所屬豫備艇ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトニ注意スヘシ

第四條 司令ハ常ニ所屬潜水艇ノ現狀並性質等ヲ詳知スヘシ

第五條 司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ監督訓練シ各部署ヲ迅速正確ニ施行セシムルコトニ注意スヘシ

第六條 司令ハ部下准士官以上ノ配員ヲ爲シタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第七條 司令ハ所屬潜水艇繫泊若ハ碇泊中ハ艇ノ保安上特ニ必要ト認ムル場合ノ外ハ總テ乗員ヲシテ母艦内ニ宿泊セシムルヲ例トスヘシ但シ母艦ト同所ニ在ラザルトキハ陸上ニ宿泊セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ所屬長官ニ報告スヘシ

第八條 司令ハ潜水艇ノ解役或ハ就役ノ手續ヲ了リタルトキハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ

第九條 艇長ハ乗員ノ規律ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ又其ノ艇ノ構造性質等ヲ熟知シ諸兵器並諸要具ヲ整備シ艇ノ保安ヲ掌ルヘシ但シ一艇ニ對シ二人ノ艇長同所ニ在ルトキハ特命アル場合ノ外ハ先任ノ者共ノ艇ノ保安ニ關シ責任アルモノトス

第十條 機關長ハ潜水艇ノ船體機關及機關官ノ管理ニ關スル兵器ニ關スルコトヲ掌理ス

第十一條 潜水艇乗組機關士及機關兵曹長、上等機關兵曹ハ該艇長ノ命ヲ承ケ機關長ノ監督ノ下ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第十二條 司令以下職員ノ勤務ニ關シ前諸條ニ掲ケサルモノハ適用シ得ル限リ軍艦職員勤務令ニ準據スヘシ但シ艇長ノ爲ノ規定ヲ司令ニ將校分隊長ノ爲ノ規定ヲ艇長ニ適用スヘシ

○海軍省達第百二十六號

軍艦及水雷艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「文月」ノ次ニ「如月」ヲ加フ

明治三十八年九月六日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百二十七號

捕獲汽船アリヨールヲ捕保九ト命名シ其ノ本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

明治三十八年九月七日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百二十八號

汽船捕保九ニ左ノ通信號符字ヲ照付ス

明治三十八年九月七日 海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V F 捕保九

○海軍省達第百二十九號

艦艇及水雷敷設隊現狀報告規則中左ノ通改正ス

明治三十八年九月七日 海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條 艦艇及水雷敷設隊現狀報告ハ別テ定期報告臨時報告ノ二トス定期報告ハ月報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

期報トシ毎月一

日ニ於テ之ヲ調製シ其ノ様式ハ軍艦ニ在テハ第一表、水雷艇ニ在テハ第二表、水雷敷設隊ニ在テハ第三表ニ依ル臨時報告ハ臨時報告ヲ要スルコトアルトキ之ヲ調製スヘキモノニシテ別ニ様式ヲ定メス

第三條中「現狀報告」ヲ「定期報告」ニ改ム

第四條 削除

第五條中「擱岸坐礁」ヲ「戰闘ノ爲ニ生シタル損害及擱岸坐礁」ニ改ム

第六條中第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 戰闘其ノ他ニ依リ衛所、兵器、船艇及魚形水雷發射場等ニ毀損ヲ生シ又ハ防備上ニ關スル重要ノ事件發生シタルトキ

第七條 臨時報告ニハ必要ノ事項ノミヲ列記スルモノニシテ初行ニ其ノ要旨（假令ハ戰闘損傷報告等ノ如シ）ヲ記載シ戰闘損傷報告ニハ兵器消耗數及死傷者ノ官職氏名ヲ附記スヘシ

第八條 水雷敷設ノ任務ヲ有スル特設部隊ハ水雷敷設隊ニ準シ現狀報告ヲ調製進達スヘシ

○海軍省達第百三十號
自今海軍文官ノ任用ヲ具申スルニ際シテハ先ツ海軍軍醫官ヲシテ體格検査ヲナサシメ其證明書ヲ添附スヘシ

但不得止場合ニ限リ地方醫師二名ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

明治三十八年九月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百三十一號

海軍給與令施行細則第四十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十八年九月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第四十九條ノ二 給與令第三十九條ノ二ノ手當ハ上陸宿泊ノ數ニ應シ之ヲ支給ス但シ休暇ヲ與ヘラレ又ハ私事ニ因リ上陸宿泊シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
任用又ハ進級ニ依リ給與ニ異動ヲ生シタルトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ其ノ額ヲ支給ス但シ任用又ハ進級ト同時ニ所屬ヲ轉シタルトキハ退任ノ前日迄前官職ノ額ニ依ル
上官ノ職務心得ヲ命セラレタルトキハ其ノ職務ニ就キタル日ヨリ、免セラレタルトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日迄其ノ手當ヲ支給ス

○海軍省達第百三十二號

捕獲汽船「ウヰルヘルミナ」外六隻ノ船名及本籍鎮守府ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年九月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

原 名	船 名	本 籍
「ウヰルヘルミナ」	影島丸	佐世保鎮守府
「エム、エス、ダラー」	龍飛丸	佐世保鎮守府
「シヤム」	襟裳丸	横須賀鎮守府
「シルヴィアナ」	五島丸	佐世保鎮守府
「ブルマ」	惠徳丸	舞鶴鎮守府
「ワイフイールド」	山首丸	佐世保鎮守府
「アボロ」	後丸	佐世保鎮守府

○海軍省達第百三十三號

汽船影島丸外六隻へ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年九月十五日

G Q R V	影島丸	G Q V B	惠山丸
G Q R W	龍飛丸	G Q V C	汐首丸
G Q S F	襟裳丸	G Q V D	國後丸
G Q S H	五島丸		

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百三十四號

遞信省所管汽船新發田丸ヲ海軍所管ニ移シ其ノ本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

明治三十八年九月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百三十五號

汽船新發田丸ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年九月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q P N 新發田丸

○海軍省達第百三十六號

艦營需品經理規程第二十六條證明書式中摘要欄内ノ記事ヲ削除ス

明治三十八年九月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百三十七號

戦利軍艦セントウチサシヲ肥前ト命名セラル

明治三十八年九月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百三十八號

軍艦肥前ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年九月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V J 肥前

○海軍省達第百三十九號

戦利汽船「ゼーア」外一隻ノ船名及本籍鎮守府ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十八年九月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

原名	船名	本籍
「ゼーア」	二河川丸	吳鎮守府
「ブレイア」	由良川丸	舞鶴鎮守府

○海軍省達第百四十號

汽船二河川丸外一隻へ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年九月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V K 二河川丸

G Q V L 由良川丸

○海軍省達第百四十一號

驅逐艦彌生外三隻へ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年九月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V M 彌生 G Q V P 子日
G Q V N 如月

○海軍省達第百四十二號

臨時軍事費ヲ以テ製造スヘキ驅逐艦二隻ヘ左ノ通命名ス

明治三十八年九月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

製造番號 製造所

第二十八號

浦賀船渠株式會社

第二十九號

同

艦名
長月 菊月

○海軍省達第百四十三號

軍艦及水雷艇類別等級別表中左ノ通改正ス

明治三十八年九月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

水雷艇ノ項中四等ノ欄ノ次ニ左ノ如ク加フ

潜水艇	第一、第二、第三、第四、第五、
	第六、第七

備考ノ欄末項ニ左ノ如ク加フ

潜水艇ハ「第何潜水艇」ト稱ス

○海軍省達第百四十四號

雇員備人規則別表中砲術練習所ノ欄給仕ノ部「四」ヲ「八」ニ改ム

明治三十八年九月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○宮内省達甲第百三號

明治三十二年十一月 宮内省達第百三十一號 皇室官制中東宮生母三夫人ヲ「三八」ニ改ム

明治三十八年十月十一日

奏勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸軍省達第百四十五號

陸軍服役條例第七十條ノ二、第百二十八條ノ二ニ掲クル者ニシテ現役満期ノ際ヨリ戰役ノ爲召集

セラレタル日數ヲ除キ一箇年以内ニ同條例第七十條ノ三ノ手續ニ依リ現役ヲ志願スルトキハ之ヲ

許可スルコトヲ得

明治三十八年十月一日

陸軍大臣寺内正毅

〔參照〕

勅令第三百三十八號陸軍服役條例(明治二十九年六月四日官報)抄録

第七十條ノ二 豫備役後備役軍曹伍長及同相當官ハ現役満期後一箇年以内ニ更ニ現役ヲ志願スルコトヲ得

各兵科(第百三十一號)豫備役後備役伍長ニシテ六箇年以上現役ニ服シタル者ハ現役満期後一箇年以内ニ醫科ノ現役下士

ヲ志願スルコトヲ得

第七十條ノ三 前條ニ依リ服役セムト欲スル者ハ其ノ願書ニ原所屬部隊、現官任命及現役満期ノ年月日、現役年數、現役満期

後ノ職業並服役スヘキ部隊等ヲ記シ市町村長、聯隊區司令官ヲ經テ其ノ服役セムトスル部隊長ニ送付スヘシ

前項ノ願書ニハ市町村長ハ其ノ願書ヲ爲シ聯隊區司令官ハ本人在郷中ノ事項ニ關シテ見テ添附シ之ヲ服役セムトスル部

隊長ニ送付スヘシ但シ原所屬部隊外ニ服役セムトスル者ニ在リテハ聯隊區司令官其ノ願書ヲ原所屬部隊隊長ニ送付シ原所

屬部隊隊長ハ現役中ニ於ケル勤務及品行ニ關シテ見テ添附シ之ヲ服役セムトスル部隊隊長ニ送付スヘシ

第百二十八條ノ二 豫備役上等兵看護手中伍長勤務上等兵、計手勤務上等兵又ハ看護長勤務看護手タリシ者及下士適任醫曹

又右スル者ハ現役満期後一箇年以内ニ於テ現役下士ヲ志願スルコトヲ得其ノ出願及取扱ハ第七十條ノ三ニ準ス

○陸軍第四十六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十八年十月十日

陸軍大臣寺內正毅

第六十二條中「後備役下士」ノ下ニ「兵卒」ヲ加フ

○陸軍第四十七號

臨時軍馬檢疫規則左ノ通定ム

明治三十八年十月十五日

陸軍大臣寺內正毅

臨時軍馬檢疫規則

第一條 凱旋ニ際シ傳染病特ニ鼻疽(皮疽ヲ含ム)豫防ノ目的ヲ以テ本規則ニ依リ出征各部隊ノ馬

四ニ檢疫ヲ實施ス

第二條 鼻疽ノ檢疫ニツキテハ「マレイ」メ注射ヲ採用ス

第三條 檢疫ハ左ノ場所ニ於テ行フ

一 駐屯地

二 乗船地

三 上陸地

第四條 駐屯地ニ於ケル檢疫ハ各部隊單獨ニ又ハ聯合シテ檢疫委員ヲ設ケ之ヲ施行スヘシ

當該獸醫部長ハ前項ノ檢疫ヲ監督シテ其ノ實行ヲ確實ナラシムルノ責ニ任ス

第五條 乗船地ニ於ケル檢疫ハ其ノ地ニ特設スル檢疫官ニ於テ實施スルモノトス

各部隊乗船地ニ到着セハ其ノ指揮官ハ傳染病馬又ハ其ノ疑アル馬匹ノ有無ヲ速ニ檢疫官ニ通告

シ檢疫ヲ受クヘシ

第六條 上陸地ニ於ケル檢疫ハ其ノ地ニ特設スル檢疫官ニ於テ實施スルモノトス

第七條 檢疫ノ方法ハ左ノ要領ニ據ルヘシ

一 駐屯地ニ在リテハ當該檢疫委員ハ各馬ニツキ健康診斷ヲ行ヒ且「マレイ」メ注射ヲ施シ其ノ反應ニ依リ鼻疽ノ有無ヲ判定スヘシ

二 乗船地ニ在リテハ其ノ地檢疫官ハ各馬ニツキ健康診斷ヲ行ヒ傳染病馬又ハ其ノ疑アルモノハ兵站病馬廠ニ收容シ且鼻疽ノ疑アルモノハ其ノ附近ニ在リシモノト共ニ更ニ「マレイ」メ注射ヲ施スヘシ

前項患馬又ハ疑似患馬ヲ搭載シタル貨車ハ檢疫官ニ於テ嚴重ナル消毒ヲ施行スヘシ

三 上陸地ニ在リテハ其ノ地檢疫官ハ軍馬ヲ搭載シタル運送船ノ著港毎ニ船内ニ到リ輸送指揮官ノ通告ヲ徵シ各馬ニツキ健康診斷ヲ行ヒ傳染病馬又ハ其ノ疑アルモノ及共ノ附近ニ在リシモノハ最後ニ上陸セシメ隔離厩舎ニ收容シ鼻疽ニツキテハ前號ヲ適用ス

第八條 乗船地及上陸地ノ檢疫所ニハ傳染病馬及疑似症馬匹觀察ノ爲メ所要ノ營造物及附屬物ヲ設置シ又必要ニ應ジ小蒸汽船又ハ舢舨舟ヲ雇入ルルコトヲ得

第九條 馬匹ヲ搭載シタル船舶ノ馬欄或舢舨舟ノ消毒ハ檢疫官ニ於テ之ヲ行ヒ患馬ニ觸接シタル馬具(乗鞍具)及馬匹手入具ノ消毒ハ臨時陸軍檢疫部ニ依リテ施行スヘシ

第十條 檢疫所ヲ特設セサル乗船地ノ檢疫ハ當該部隊檢疫委員ニ於テ之ヲ實施スヘシ

第十一條 檢疫所ヲ特設セサル上陸地ニ馬匹ヲ揚陸スルトキハ當該師團(留守師團)長ハ適宜委員ヲ編成シテ檢疫ヲ實施スヘシ

第十二條 本規則ニ規定スルモノノ外陸軍馬匹傳染病豫防規則ヲ準用ス

○陸軍第四十八號

明治三十七年陸軍第十號同第五十三號同第百二十二號及同第百三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年十月十八日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治三十七年五月陸軍第十號ハ勅令ヲ行ヒタル陸軍部ノ士官缺員補充方、同七月陸軍第五十三號及同第百二十二號ハ陸軍補給部ニ依リ士官缺員補充ノ件及同八月陸軍第三十七號ハ陸軍部士官及預備役後備隊兵士補充ノ件ニ

○陸軍第四十九號

糧秣現品交付規程左ノ通定ス

明治三十八年十月二十日

陸軍大臣寺內正毅

糧秣現品交付規程

第一條 内地及臺灣各部隊ノ給養ニ要スル精米、挽割麥、副食物及大麥ハ當分ノ内附表第一ノ區分ニ依リ現品ヲ以テ各部隊ニ交付ス但シ時宜ニ依リ精米ハ玄米、大麥ハ内國產燕麥ヲ以テ交付スルコトアルハ其ノ換算率ハ別ニ之ヲ定ム

新陳交換ノ爲ニ平時軍隊ノ糧食ニ換テ給スル出師準備用ノ糧食品ニ關シテハ本規程ヲ適用セズ

第二條 現品交付ヲ爲スヘキ副食物ノ品種及數額ハ附表第二ニ依ル

第三條 現品交付ノ挽割麥ハ精米一合ニ換算スルニ一合五分以内ノ割合ヲ以テ給與スルコトヲ得

第四條 現品交付ノ挽割麥ヲ給シタル爲精米ノ定量ヲ減シタルトキハ其ノ減量ニ對シ精米及挽割

麥代金ノ差額トシテ一石ニツキ五圓ノ割合ヲ以テ金額ヲ交付ス但シ挽割麥ノ給與量精米ノ減量ヨリ超過スルトキハ其ノ超過數量ニ對シ一石ニツキ拾圓ノ割合ヲ以テ本文ノ金額ヨリ控除ス

第五條 現品交付ノ副食物ヲ給シタルトキハ補足賄料ヲ交付ス其ノ金額ハ左ノ各號ニ依ル但シ其ノ算出法ハ定額賄料ニ減額率ノ子數ヲ乘シ母數ヲ以テ除シ四捨五入單位ニ止メ減額率ヲ得

一 罐詰肉又ハ鹽乾肉ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ三十五ヲ減シタル額

二 乾物野菜ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ二十ヲ減シタル額

三 漬物ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ五ヲ減シタル額

四 醬油越後斯ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ四ヲ減シタル額

五 粉味噌又ハ味噌味噌ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ二ヲ減シタル額

六 食鹽ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ一ヲ減シタル額

七 茶ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ一ヲ減シタル額

八 砂糖ヲ給シタルトキハ定額賄料ヨリ其ノ百分ノ二ヲ減シタル額

九 一日ニ二種以上ヲ給シタルトキハ各品種ニ屬スル減額率ヲ通計シ其ノ算定ノ額ヲ定額賄料ヨリ減シタル額

第六條 師團經理部長及臺灣陸軍經理部長ハ其ノ師團又ハ臺灣各部隊ニ於テ每一箇月間ニ現品交付ヲ受テヘキ糧秣ノ數量ヲ概算シ各衛戍地毎ニ受領擔任部隊經理部所在地ニ在リテハ該師團經理部ヲ定メ請求書第一式ヲ作リ前月十日ハ加ヘ月末日迄ニ到達スル如ク經理局長ニ送付スヘシ

師團及臺灣以外ノ各部隊ニ在リテハ當該部隊長ニ於テ前項ニ準シ請求スヘシ

第七條 現品交付ノ糧秣ハ陸軍糧秣廠又ハ集積倉庫等ヨリ前條第一項ノ受領擔任部隊及同條第

二項ノ各部隊ニ送付ス但シ臺灣各部隊ニ要スルモノハ總テ臺灣陸軍經理部基隆派出所ニ送付ス

第八條 現品交付ノ糧秣ヲ送付セシムル爲經理局長ハ通知書^{様式}ニテ陸軍糧秣廠又ハ集積倉庫等ニ發シ同時ニ之ヲ第六條ノ請求部隊ニ通知スヘシ

第九條 委任經理部隊ニ於テ受領シタル現品交付糧秣ノ缺損ハ當該部隊ノ負擔トシ挽割麥及副食物ノ缺損ハ第四條及第五條ノ給與數量ニ算入スヘシ但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限リニ在ラス

一 受領前ヨリ變敗シアリタルコト明ナルモノ

二 受領後避ク可カラサル事故ニ依リ變敗又ハ亡失シタルモノ

前項但書ニ該當スルモノアルトキハ部隊長ヨリ當該師團經理部長又ハ臺灣陸軍經理部長ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 師團經理部長臺灣陸軍經理部長並師團及臺灣以外ノ各部隊長ハ毎月現品交付ヲ受ケタル糧秣ノ受拂表^{様式}ヲ作り翌月十日^{臺灣ニ在リテハ迄ニ到達スル如ク}經理局長ニ送付スヘシ

第十一條 本規程ニ依ル糧秣ノ運搬費及倉入倉出民有倉庫借入等ニ要スル費用ハ臨時軍事費ノ支辨トス

第七條ニ依リ送付スル糧秣ノ運搬費ハ發送部隊ニ於テ仕拂ヒ其ノ他ハ受領擔任部隊又ハ第六條第二項ノ部隊ニ於テ仕拂フナスモノトス但シ陸軍糧秣廠ニ在リテハ其ノ仕拂ヲ陸軍會計監督部ニ請求シ受領擔任部隊及第六條第二項ノ部隊ニ在リテハ其ノ科目及費額ヲ豫算シ理由ヲ具シ順序ヲ經テ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附表第一

現品交付區分			
品種	交付區分	擔	要
精米	全部現品ヲ交付ス		
挽割麥			
副食物	實食數三分一以上現品ヲ交付ス	病院ニ在リテハ病院長ニ於テ適宜其ノ割合ヲ定メ糧食經理ヲ軍隊ニ委託シアル病院ニ在リテハ之ヲ當該隊長ニ通報スヘシ	監獄ニハ副食物現品交付ヲ爲サス
備考	一 渡行軍隊等ノ場合ニ於テ現品交付ノモノヲ携行シ能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス 二 病馬等ノ爲養其ノ他ノ代用品ヲ要スル場合ニ在リテハ代金交付ヲ爲スコトヲ得		

附表第二

現品交付副食物ノ品種數額			
品種	一	八	日ノ限
罐頭肉	四	十	匁
鹽乾肉	三	十	匁
乾物野菜	三	十	匁

油	十	勿
油	五	勿
粉(煉)	五	勿
食	三	勿
茶	一	勿
砂	三	勿

(様式略ス)

○海軍省達第百四十五號

戰利汽船「ナナハル」ヲ弓張丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十八年十月三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百四十六號

汽船弓張丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年十月三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V R

弓張丸

○海軍省達第百四十七號

明治三十八年達第百四十五號ヲ廢ス

明治三十八年十月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(参照)

明治三十八年十月 海軍省達第百四十八號ハ臺灣及澎湖島ニ在ル海軍軍人ハ此際特ニ茶鶴色ヲ夏服ヲ着用スルコトヲ得ル

○海軍省達第百四十八號

捕獲汽船「マコモ」ヲ色丹丸ト命名シ其ノ本籍ヲ橫須賀鎮守府ト定ム

明治三十八年十月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百四十九號

汽船色丹丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十八年十月十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V H

色丹丸

○海軍省達第百五十號

兵器造修試驗検査規則第一號表式ヲ別表ヲ通改正ス

明治三十八年十月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百五十一號

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治三十八年十月十九日

佐世保鎮守府在籍

○海軍省達第百五十二號

軍艦及水雷艦類別等級表中「曉」ヲ削ク

明治三十八年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百五十二號

軍艦及水雷艦類別等級表中「曉」ヲ削ク

明治三十八年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五百五十三號

捕獲驅逐艦「レンテリヌイ」ヲ山彦ト命名ス

明治三十八年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五百五十四號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄内、如月ノ次ニ「山彦」ヲ加フ

明治三十八年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五百五十五號

驅逐艦山彦ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年十月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V S

山彦

○海軍省達第五百五十六號

戰利軍艦「ボビエダ」ヲ周防ト命名セラル

明治三十八年十月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五百五十七號

軍艦周防ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

明治三十八年十月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q V W

周防

○海軍省達第五百五十八號

軍艦及水雷艦類別等級別表中戰艦ノ欄一等ノ下「丹後」ノ次ニ「肥前」周防ヲ加フ

明治三十八年十月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五百五十九號

明治二十九年五月達第五百二十二號商船學校機關科學生海軍造船部工場修業概則中左ノ通改正ス

明治三十八年十月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條 學生ノ修ムヘキ工業科目ハ左ノ如シ

- 一 鍛鑿 一年九箇月
- 二 鍊鐵 三箇月
- 三 製鐵 三箇月
- 四 銅工 三箇月

工場ノ都合ニ依リ科目ノ順序及年月數ヲ變換伸縮スルコトヲ得又新造或ハ修理艦船ノ工業ニ從事セシムルコトヲ得

事セシムルコトヲ得

〔参照〕

海軍省達第五百二十二號商船學校機關科學生海軍造船部工場修業概則(明治二十九年五月二十日)抄録

第五條 學生ノ修ムヘキ工業科目ハ左ノ如シ

- 一 鍛鑿 一箇年
- 二 鍊鐵 六箇月
- 三 製鐵 四箇月
- 四 銅工 二箇月

○海軍省達第六百六十號

佐世保鎮守府所管

汽船 烏帽子丸

右横須賀鎮守府所管ニ改ム

明治三十八年十月二十九日

○海軍省陸軍第六十二號

海軍大軍校規則申左ノ通改正ス

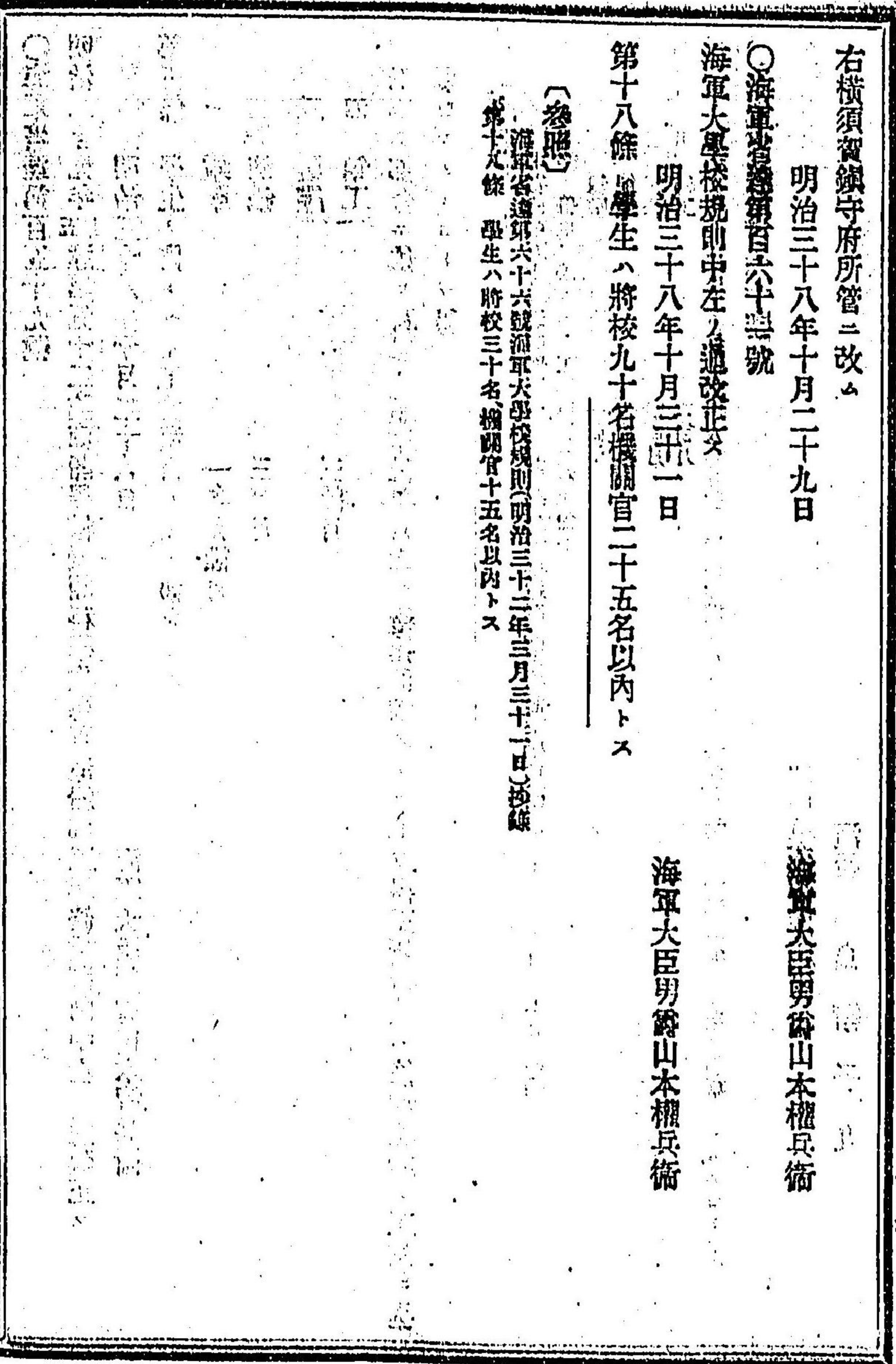
明治三十八年十月三十一日

第十八條 學生ハ將校九十名機關官二十五名以内トス

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省陸軍第六十六號海軍大軍校規則(明治三十二年三月三十一日)抄録
第十九條 學生ハ將校三十名機關官十五名以内トス



○陸達第五十號

明治三十五年陸達第六十二號委託検査事項中第四ノ末號ニ左ノ一號ヲ加フ

九 一時賜金交付ノ爲保管スル公債證書

明治三十八年十一月八日

陸軍大臣寺内正毅

○陸達第五十一號

復員後定員外トシテ各部隊ニ附屬セラレタル將校同相當官ニシテ乘馬木分者ノ乘馬ニツキテハ左ノ通心得ヘシ

明治三十八年十一月二十一日

陸軍大臣寺内正毅

一 上長官以上ニ在リテハ左ノ頭數ノ自馬ヲ飼養セシム但シ定員外ト爲リタル日ヨリ起算シ三箇月以内ハ現在所有ノ頭數ヲ飼養スルコトヲ得

將官同相當官

二頭以内

上長官

一頭

二 士官ニハ乘馬ヲ支給セス但シ乘馬隊附ノ者ニ在リテハ隊馬ヲ乗用セシムルコトヲ得

三 前項但書ノ場合ニ在リテハ緊需料ヲ給與セス

○陸達第五十二號

當分ノ内現役下士ヲ以テ陸軍平時編制ノ軍隊及要塞司令部ノ要員ヲ充タス能ハサル場合ニ限り豫備役後備役下士ヲ以テ之ニ充ツルヲ得ルコトニ定メラル

明治三十八年十一月二十四日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第五十三號

本年陸軍第五十二號ニ依ル豫備役後備役下士ノ採用ニ關シ左ノ通定ム

明治三十八年十一月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 本年陸軍第五十二號ニ依リ軍隊及要塞司令部ノ要員ニ充ツヘキ豫備役後備役下士ハ本人ノ志願ニ依リ誓約ノ上之ヲ採用スルモノトス

第二條 前條ノ豫備役後備役下士ハ最後ノ所屬部隊又ハ現所屬部隊ニ採用スルヲ例トス但シ己ムヲ得サル理由アルトキハ本人ノ希望ニ依リ他ノ部隊ニ採用スルコトヲ得

第三條 在郷者ニ在リテハ聯隊區司令官聯隊區司令官ヲ含ム以下同シ志願者ヲ取調ヘ履歷書並採用ノ可否ニ關スル意見ヲ添ヘ願書ヲ本人希望ノ聯隊長ニ送付スヘシ

在隊者ニ在リテハ中隊長志願者ヲ取調ヘ意見ヲ附シ願書ヲ聯隊長ニ進達スヘシ
前項ノ場合ニ於テ他部隊ニ採用ヲ希望スル者ニツキテハ聯隊長其ノ願書ヲ當該聯隊長ニ送付スヘシ

願書ニハ希望スル在隊期間ヲ記入スヘシ其ノ期間ハ概ネ一箇年以下トス但シ數次志願ヲ爲スコトヲ得

第四條 聯隊長ハ志願者中適當ト認ムル者ヲ選定シ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ採用スルモノトス
經理部衛生部下士ニ在リテハ前項ニ依ラス聯隊長願書ヲ師團經理部長又ハ師團軍醫部長ニ送付シ師團經理部長又ハ師團軍醫部長ニ於テ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ採用スルモノトス

第五條 各兵科各部下士ニシテ臺灣守備隊ヲ、經理部下士ニシテ憲兵部隊ヲ希望スル者ニツキテハ當該部隊長ヨリ關係師團ノ部隊長ニ協議ノ上採用スルモノトス

第六條 豫備役後備役下士ヲ採用シタルトキハ聯隊長ヨリ其ノ役種官等氏名並誓約期間ヲ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第七條 前諸條中師團長トアルハ臺灣諸部隊ニ在リテハ當該混成旅團長又ハ臺灣總督、聯隊長トアルハ聯隊以外ノ部隊ニ在リテハ之ニ準スヘキ部隊長、師團經理部長又ハ師團軍醫部長トアルハ臺灣諸部隊ニ在リテハ臺灣陸軍經理部長又ハ同軍醫部長、中隊長トアルハ中隊以外ノ部隊ニ在リテハ之ニ準スヘキ諸官ニ該當ス

第八條 本規則ニ依リ採用シタル諸工長各部下士及警備隊下士ハ豫備役後備役ヲ通シ明治三十二年陸軍第五百二十四號ニ準シ人員ヲ限り營外居住又ハ外泊セシム

○陸軍第五十四號

明治三十三年陸軍第五百十六號中左ノ通改正ス

明治三十八年十一月三十日

陸軍大臣寺內正毅

第三項 鐵道大隊ニ於テ電信通信術修得證書ヲノ下ニ及要塞砲兵射擊學校ニ於テ電燈術修業ノ證書ヲヲ加フ

〔參照〕

陸軍第五百十六號各兵科隊附下士ヲ隊外ニ採用スルノ規定(明治三十三年十一月七日)抄錄

第三項 鐵道大隊ニ於テ電信通信術修得證書ヲ受ケタル下士中技術優等ノ者及各工兵大隊ヨリ鐵道大隊へ派遣ノ下士中教育助手トシテ次期派遣員教育期間殘留ヲ命ゼラレタルコトアル者ハ要塞司令部築城部兵器廠及臨時電信部ニ限リ第一項第四項ノ年限ニ拘ラス之ヲ採用スルコトヲ得

○滿鐵第九一五一號

明治三十七八年戰役勤績者異動報告ニ關スル手續別冊ノ通定ム

明治三十八年十一月十八日

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

明治三十七八年戰役勳績者異動報告手續

- 第一條 勳績書類進達後行賞發表以前ニ於テ勳績者ニツキ左ノ異動アリタルトキハ附表第一ニ依リ共ノ異動ヲ報告スルモノトス
- 一 官等、位、勳、爵ニ異動アリタルトキ
 - 二 轉科、免官、免役、免職、解雇、解備ト爲リタルトキ
 - 三 改氏名ノトキ
 - 四 勳章、勳章ノ處分ヲ受ケ若ハ其ノ處分ニ該當スル所爲アリタルトキ
 - 五 所在不明ト爲リタルトキ又ハ所在不明者ノ所在分明ト爲リタルトキ
 - 六 死歿シタルトキ
- 異動報告ハ日報トス但シ前項第四號ハ其ノ處分ヲ受ケタルモノハ該宣告書謄本、其ノ處分ニ該當スル所爲アリタルモノハ其ノ情狀具申書ヲ送付スルモノトス
- 第二條 異動報告ハ勳績列次名簿最後調製官若ハ其ノ後任者之ヲ調製シ順序ヲ經テ報告スルモノトス
- 異動報告調製官ノ部隊解散シタル以後ノ異動報告調製官ハ其ノ部隊ノ復員ヲ補助シタル部隊長(勳員若ハ編成擔任部隊長)又ハ復員ノ際隸屬シタル部隊長トス
- 第三條 勳績者所屬部隊ヲ轉シタル以後ノ異動事項ハ新所屬部隊長ヨリ異動報告調製官ニ通報スルモノトス
- 軍人(軍人トシテ戰役ニ服シタルモノ)ニシテ所屬部隊ナキ場合ニ在リテハ其ノ兵籍ヲ所管スル官(現ニ軍人ニ非サル者ヲ含ム)ニシテ所屬部隊ナキ場合ニ在リテハ其ノ兵籍ヲ所管スル官

衛ノ長ハ前項ニ準シ異動事項ヲ異動報告調製官ニ通報スルモノトス

第四條 軍人以外ノ勳績者ニシテ所屬部隊ナキ場合ニ在リテハ爾後ノ異動事項ヲ其ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官(聯隊區司令官及警備隊區司令官ヲ含ム以下同シ)ニ直接届出ルモノトス

前項ノ届出アリタルトキハ聯隊區司令官ハ異動報告調製官ニ通報スルモノトス

第五條 前二條ノ通報ヲ確實ナラシムル爲勳績列次名簿最後調製官ハ勳績列次名簿ニ記載セル勳績者ノ位、勳、功、爵、官、氏名並本籍地、居住地ヲ關係ノ部隊長ニ通知シ置クモノトス

勳績者更ニ轉出スル場合ニ在リテハ前項ノ通知ヲ受ケタル部隊長ハ該通知書若ハ其ノ寫(異動報告官ヲ明記)ヲ速ニ轉出先ノ部隊長ニ交付スルモノトス

第六條 勳績列次名簿ニ所見ヲ記入スヘキ諸官(最後ノ調製官ヲ除ク)勳績書類調査中異動報告ヲ受ケタルトキハ其ノ異動事項ヲ勳績列次名簿ニ朱書訂正(附表第二ノ例ニ依ル)シ該報告ハ其ノ部隊ニ止メテ進達セサルモノトス但シ第一條第二項但書ニ依リ添付シタル宣告書謄本及情狀具申書ハ勳績列次名簿ニ添付シ置クモノトス

(附表第一第二ハ略ス)

○海軍省達第百六十二號

戰利驅逐艦「フサドニック」ヲ卷雲ト命名ス

明治三十八年十月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百六十三號

驅逐艦卷雲ニ在ノ通信號符字ヲ懸付ス

明治三十八年十月三十一日

G Q W B

卷雲

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百六十四號

戰利驅逐艦「ガイタマー」ヲ敷波ト命名ス

明治三十八年十月三十一日

○海軍省達第百六十五號

驅逐艦敷波ニ在ノ通信號符字ヲ懸付ス

明治三十八年十月三十一日

G Q V T

敷波

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百六十六號

戰利汽船「アール」ヲ天草丸ト命名シ其ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十八年十一月二日

○海軍省達第百六十七號

汽船天草丸ニ在ノ通信號符字ヲ懸付ス

明治三十八年十一月二日

G Q W G

天草丸

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百六十八號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄内山彦ノ次ニ敷波卷雲ヲ加フ

明治三十八年十一月四日

○海軍省達第百六十九號

軍艦航海心得別冊ノ通定

但シ別冊ハ水路部ヨリ必要ノ向ヘ配付ス

明治三十八年十一月十三日

○海軍省達第百七十號

鎮守府會計監督規程第二十二條行務成績表中別紙書式ヲ追加ス

明治三十八年十一月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(別紙)

△(兵器彈藥水雷及附屬品) 品名種類品目ヲ除ク

報告書名	項	接受月日	懸件数	何々	何々
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				
何々	何々				

備考 △(被服物品及糧食品)ノ受取現況報告書ハ上半期下半期ノ二回ニ別開製スヘシ

何年度行務成績表 (年度ヲ通セサルトキハ年度ノ下ニ年月日ヲ記スヘシ)

受拂報告書及主管別		接受月日	誤謬件數	何	何
何	航海長				
	砲術長				
何	水雷長				
	機關長				
何	航海長				
	砲術長				
何	水雷長				
	機關長				
何	航海長				
	砲術長				
何	水雷長				
	機關長				

備考 △(兵器及艦備品ハ之ヲ一紙ニ調製スルコトヲ得)

○海軍省達第七十一號

海軍兵備品會計規程第三條別表備考第二項ヲ左ノ通り改ム

水雷艦ニ在リテハ艦營需品、教育圖書ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ艦隊司令ト
兵器彈藥水雷及附屬品、祕密圖書、測器海圖ノ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ水雷
艦長ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

明治三十八年十一月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十二號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年十一月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第八條 給與令第九條ニ當ル者ニ支給スヘキ俸給ハ其ノ當時受クル所ノ給額ニ依ル

給與令第十一條乃至第十三條ノ事故中並下士卒公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ入院若

ハ陸地療養中同令第九條第二項ニ當ル者ニハ其ノ日ヨリ該事故ノ生シタル前ノ給額ニ依ル但シ

繼續發生シタル事故中ニ在リテハ初メテ生シタル事故前ノ給額ニ依ル

第二百二十五條 患者ニハ其ノ症狀ニ應シ軍醫官ノ意見ニ依リ第二十表ノ品種量額ヲ適宜減給シ若

ハ第二十一表ニ依リ品種量額ヲ換給スルコトヲ得

第三百二十二條中同令第八十條ニ當ル者ニヲ削ル

第三百二十七條中糧食ハ下ニ同令第八十八條ノ場合ノ外ハ之ヲ加フ

第四百四十七條第二項中第一種消耗品ヲ授受シタルトキハ下ニ兵備品會計規程第二十三條ノ手

續ヲ省略シヲ加フ

第五百五十六條第二項中分任兵備品會計官吏又ハヲ削ル

第六百六十條中分任兵備品會計官吏又ハヲ削ル

第十表及第十七表中毛織長靴下ヲ毛織靴下ニ第十七表品質制式ノ欄毛織靴下ノ部五十又ヲ三

十八又ニ第十一表中夏服略帽交換期限ノ欄一箇年ヲ毎年六月一日交換スニ改メ同表備考中夏

服略帽ハ六月一日交換ス及第十七表附圖中麻襟ノ圖ヲ削ル

第十四表中防水服上衣袴、艇靴、防寒服ノ欄ヲ左ノ通改ム

防 水 艦 上 次 機	防 水 艦 中 次 機	防 水 艦 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機
一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組
防 水 艦 上 次 機	防 水 艦 中 次 機	防 水 艦 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機
防 水 艦 上 次 機	防 水 艦 中 次 機	防 水 艦 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機	防 水 艦 特 下 次 機

第二十表備考ニ左ノ一項ヲ追加ス
 二十三 入院患者ニシテ規定品ヲ生牛乳ノミニ換給スル必要アル者ニハ第十四ノ規定ニ拘ラス
 一日一升四合以内ヲ給與スルコトヲ得
 ○海軍省第七十三號

佐世保鎮守府在籍
 汽 船 影 島 丸

右本籍ヲ與鎮守府ニ改ム

明治三十八年十一月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第七十四號

鎮守府會計監督規程第三條第二項中「施行スル工事ニ在テハ監督ノ爲メ出張スル技術官」ヲ「適宜他ノ官吏ニ改正ス」

明治三十八年十一月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第百三十五號鎮守府會計監督規程(明治三十年十月十四日)抄録
 第三條 左ニ掲クル事項ハ經理部長ノ所掌トス
 一 會計規則第六十七條第二項ノ調整ヲ作ルコト

前項第一號ノ圖書作製ハ遠隔ノ地ニ於テ施行スル工事ニ在テハ監督ノ爲メ出張スル技術官ニ委任スルコトヲ得

○海軍省達第七十五號

軍艦及水雷艦類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「卷雲」次ニ「朝風」夕暮若葉ヲ加フ
 明治三十八年十一月二十八日
 海軍大臣男爵山本權兵衛

○陸軍第五十五號

陸軍軍人軍屬著作規則左ノ通定ス

明治三十八年十二月一日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍軍人軍屬著作規則

- 第一條 本規則ニ於テ著作ト稱スルハ著作物ヲ出版シ又ハ雜誌新聞紙ニ意見ヲ掲載スルヲ謂フ
- 第二條 著作ヲ爲サムトスルトキハ學術技藝ニ屬スルモノノ外所屬長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 學術ニ屬スル著作ト雖現行ノ制度規則ニ對シ評論ヲ加フルトキハ所屬長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 軍事上ノ妨害ト爲リ其ノ他軍紀ニ害アル著作ヲ爲スヘカラス
- 第五條 軍事其ノ他官廳ノ祕密ニ關シ公ニセサル事項ノ記述ニ關シテハ一般ノ規定ニ依ル
- 第六條 前諸條ニ規定スルモノノ外著作ニ關シテハ所屬長官ノ監督ヲ受クルモノトス

○陸軍第五十六號

臨時軍馬檢疫規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十日

陸軍大臣寺內正毅

第七條ノ次ニ左ノ四條ヲ加フ

第八條 輸送指揮官又ハ各部隊長ハ軍馬檢疫實施上必要ノ事項ニツキテハ檢疫所長ノ請求ニ應ス

ハキモノトス

第九條 輸送指揮官又ハ其ノ代理者及部隊附獸醫ハ乗船地及上陸地ニ於ケル檢疫ニ立會フヘキモノトス

第十條 還送馬匹ハ檢疫所長ノ證明書ヲ有スルニ非サレハ乘船並揚陸セシムルヲ得ス

第十一條 輸送指揮官又ハ各部隊長上陸地檢疫所ニ病馬ヲ殘置スルトキハ當該檢疫所長ノ請求ニ應シ所要ノ人員ヲ附シ且其ノ馬匹ノ處分法ニツキテハ豫メ當該檢疫所長ニ協議シ置クヘシ

第八條ヲ第十二條ニ改メ以下順次繰下ク

○陸軍第五十七號

陸軍砲工學校ハ明治三十九年四月一日其ノ閉鎖ヲ解キ授業ヲ開始ス

明治三十八年十二月十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十八號

明治三十七年陸軍第六十九號戰地各部隊ニ於ケル屠殺生皮取扱手續ハ自今廢止ス

明治三十八年十二月十七日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十九號

委任經理部隊ニ係ル動員及復員下令ノ年度ニ於ケル被服定額ノ算定及決算並復舊ニ充用セサル被服ノ應用ニ關スル規程左ノ通定ム

明治三十八年十二月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 動員ヲ令セラレタル年度ニ於ケル各部隊ノ平時交付ニ屬スル被服ノ定額ハ今回ノ戰役ニ限リ之ニ對シテ既ニ受領セタル現品及金額ヲ以テ決算ヲ爲シ其ノ過受ノモノハ返納セス不足ノモノハ支給セサルモノトス

第二條 復員ヲ令セラレタル年度ニ於ケル被服費被服製造定額ハ被服定額表(明治三十六年送乙第一號)ニ定ムル下士兵卒被服年額ヲ十二分(四拾五入)ニシテ復員下令ノ翌月ヨリ其ノ年度末月マテノ

月數ヲ乘シタル金額ニ依リ算定スルモノトス

第三條 當分ノ内各部隊ニ於テ要スル被服(履靴及褲襪等)並下ハ復舊ニ充用セサル被服用(襪ニ充後)ノ通例ノ内ニ應用シ得ヘキ各部隊ノ現在品及中央部ノ在庫品ヲ限リ現品ヲ以テ交付ス

第四條 前條ニ依リ交付ヲ受ケタル被服ニ對シテハ左ノ區分ニ從ヒ其ノ代金ヲ當該部隊ノ委任經理ニ於テ特ニ積立置キ陸軍大臣ノ指示ニ依リ戰用準備被服ノ調辦費ニ充ツルモノトス之カ爲各部隊ノ被服費(被服製造定額)ハ其ノ全部ヲ當該部隊ニ交付ス

一 新品ハ被服定額表ニ定ムル價格

二 古品ハ各部隊ニ現在スルモノハ當該師團經理部長ノ評價、中央部ヨリ交付スルモノハ經理局長ノ指定價格

第五條 第三條ノ被服ニ關スル請求及交付ノ手續ハ左ノ各號ニ依ル

一 各部隊ハ其ノ年度間ニ要スル被服ノ數量ヲ算定シ附表第一ノ調書ヲ調製シ被服製造購買補修明細書(被服定額表)ニ添ヘ當該師團經理部長ニ送付スヘシ

二 師團經理部長ハ前號ノ調書ニ依リ師團内ニ於ケル現在品ヲ以テ應用スヘキ數量ト中央部ヨリ交付ヲ受クヘキ數量トヲ調査シ附表第二ノ調書ヲ調製シ師團長ノ認可ヲ受ケ各部隊ノ被服製造購買補修明細書ト共ニ之ヲ經理局ニ送付スヘシ

三 經理局長ハ前號ノ調書ニ依リ中央部ヨリ交付スヘキ數量ヲ調査シ附表第三ノ通知書ヲ調製シ當該師團經理部長ニ送付シ師團經理部長ハ更ニ附表第四ノ通知書ヲ調製シ當該部隊ニ送付スルモノトス

四 現品ハ師團内ニ在ルモノハ師團經理部長ニ於テ交付ノ手續ヲ爲シ中央部ヨリ交付スヘキモノ

ノハ經理局長ニ於テ陸軍被服廠ヨリ當該部隊ニ送付セシム但シ其ノ運搬ニ要スル費用ハ臨時軍事費ノ支辨トス

五 第一號及第二號ノ調書提出ノ期日ハ被服定額表要領第四號ノ規定ニ依ル但シ復員等ノ場合ニ於テ其ノ期日ニ依リ難キトキ及臨時所要ノ被服ニ對シテハ其ノ都度本條ノ手續ヲ爲スモノトス

第六條 本規程ニシテ他ノ規則ト抵觸スルトキハ本規程ニ依ルモノトス
(附表第一)

明治何年度所要被服調書

考 備	金額合計	品目	何 部 隊	
			區分	所要數
			單	價
			小	計
			現在品應用數	所要數ニ對シ現在品應用數過(不足)

右相違無之候也
年 月 日

被服委員首坐 署 名 印

一 單價ハ被服定額表ノ價格ニ依ル
二 現在品應用數トハ當該部隊ノ現在品中復員ニ充用シタルモノヲ除キ平時ノ給與品ニ應用シ得ヘキ數並ニ以下附表同シ
三 所要數ニ對シ現在品應用數ノ不足被服ニ對スル大小區分及所要時期ヲ別紙ニ記載シ本表ニ添付ス
四 不足ノ員數ハ朱書スルモノトス

(附表第二)

明治何年度第何師團各部隊所要被服現品交付調書

第何師團經理部印

考 備	合計金額	品 目	部 隊	
			步兵第何聯隊	何 部 隊
			現在品應用數	現在品應用數
			中央部ヨリ交付ヲ受クヘキ被服	中央部ヨリ交付ヲ受クヘキ被服
			區大	區大
			區小	區小
			分時所要	分時所要
			員數單價小計	員數單價小計
			員數	員數
			合計	合計

- 注意
- 一 現在品應用數ハ附表第一ノ調査ニ基キテ之ヲ調査シ其ノ過剩品ハ他ノ不足スル部隊ニ應用ノ計畫ヲ爲シ之ヲ定ムルモノトス
 - 二 單價ハ本規定第四條ノ区分ニ依ル以下附表第三第四同シ
 - 三 甲部隊ニ於ケル過剩品ヲ乙部隊ニ應用セシムル爲メ其ノ運搬ニ要スル費用ハ之ヲ豫算シテ本表備考ニ掲クヘシ
 - 四 本表ハ數表ニ別チ調製スルモ妨ケナシ

(附表第三)

明治何年度第何師團各部隊所要被服現品交付通知書

陸軍省經理局印

準備	金額合計	品目区分				部隊															
		第一種帽		第二種帽		何部隊		何部隊													
		員數	單價	員數	單價	員數	單價	員數	單價												

(附表第四)

- 注意
- 一 附表第二ニ於ケル中央部ヨリ交付ヲ受クヘキ被服ノ員數ニ對シ本表員數ノ不足ハ各部隊ニ於テ調辨スルモノトス
 - 二 本表ハ數表ニ別チ調製スルモ妨ケナシ

明治何年度何部隊所要被服現品交付通知書

第何師團經理部印

準備	金額合計	品目区分				部隊															
		現在品應用數		何部隊ヨリ送付數		中央部ヨリ交付數		金額													
		員數	單價	員數	單價	員數	單價	員數	單價												

注意

- 一 本表ハ附表第三第三ニ依リ調製スルモノトス
- 二 現在品應用數ノ區班ニハ當該部隊ニ現在セル被服ノ内其ノ部隊ニ於テ應用スヘキ員數ヲ掲クルモノ

- トス
- 三 調辨スヘキ員數ハ附表第一ノ不足數ト本表ノ交付數トノ差ニシテ即チ當該部隊ニ於テ調辨スヘキモノヲ示スモノトス
- 四 本表合計金額ハ別途ニ積立保管スヘキモノトス

○陸軍第六十號

現制輜重車及輜重鞍馬具ノ取扱上稱呼ヲ容易ナラシムル爲自今各制式名稱ヲ左ノ通改ム

明治三十八年十二月二十六日

陸軍大臣寺内正毅

- 一 三六式二輪輜重車 三十六年陸軍第八五號及三十七年滿發第一九七〇號改正ノ分
- 二 三八式二輪輜重車 三十八年九月陸軍第四一號改正ノ分
- 三 三六式四輪輜重車 三十六年陸軍第一一九號改正ノ分
- 四 三六式輜重車輓具 三十六年陸軍第八五號改正ノ分
- 五 三三式輜重鞍馬具 三十二年陸軍第九〇號改正ノ分

○陸軍第六十一號

陸軍補充條例第九章同第百七十九條乃至第百七十九條ノ四及明治三十七年勅令第百十號ニ依ル士官以下ノ補充ハ自今之ヲ行フコトヲ得ス

明治三十八年十二月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第六十二號

陸軍大學校ハ明治三十九年四月其ノ閉鎖ヲ解キ授業ヲ開始ス各部隊ニ在ル同校學生ハ其ノ戰時職務ヲ解キ同年三月中旬迄ニ復校セシムヘシ

明治三十八年十二月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第六十三號

明治三十九年ニ於ケル陸軍大學校學生候補者ノ内大尉ハ明治三十一年以後少尉ニ任官シ明治三十七年二月一日ヨリ明治三十八年十二月末日迄ニ大尉ニ任官シタル者ニ限ル

明治四十年以後ニ於ケル陸軍大學校學生候補者タル大尉ニツキテモ前項ヲ適用ス但シ少尉任官年ヲ一年宛繰下クルモノトス

明治三十八年十二月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第六十四號

明治三十七年陸軍第六十六號及同第七十一號ハ自今廢止セララル

明治三十八年十二月二十七日

陸軍大臣寺内正毅

〔參照〕

明治三十七年九月陸軍第六十六號ハ陸軍武官進級令及陸軍備後備武官進級令ニ依リ士官以下ノ進級停年半減ノ件同十一月九日陸軍第六十一號ハ上長官以上ノ進級停年半減ノ件ナリ

○海軍省達第七十六號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二日

海軍大臣野村吉三郎

第三條左表中倉庫丁ノ欄「水路部」ノ下ニ「海軍探炭所」ヲ加ヘ機關手ノ欄ヲ左ノ通改ム

機關手 海軍經理部、吳海軍病院、佐世保海軍病院、舞鶴海軍病院、海軍工廠、海軍兵部武庫

別表水雷術練習所ノ欄給仕ノ部「四」ヲ「八」ニ改ム

○海軍省達第百七十七號

明治三十八年達第四十四號軍艦進水手續中左ノ通改正ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條中「造船廠長」ヲ「海軍工廠長」ニ改ム

第四條 第二條ノ場合ニ於テハ船體ノ水面ニ向テ進行ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ其ノ奏樂終ルルトキ
ヲ以テ進水ヲ終ルモノトシ第三條ノ場合ニ於テハ船渠内ニ水ノ進入ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ船
體ノ浮泛スルニ至リテ進水ヲ終ルモノトス

第五條 削除

第六條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ本手續書ニ明文アルモノノ外左ノ如シ

海軍省軍務局長

海軍艦政本部長

海軍艦政本部第一部長同第三部長同第四部長

當該海軍工廠各部長及先任検査官

第八條中「艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政部長」ヲ「艦政本部第三部長同第四部長當該工廠各部
長及先任検査官」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第四十四號軍艦進水手續(明治三十八年五月十九日)抄錄

第二條 鎮守府司令長官命ヲ受ケタルトキハ直ニ造船廠長ニ命ジテ本艦ヲ進水セシム
第四條 第二條ノ場合ニ於テハ船體ノ水面ニ向テ進行ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ其奏樂終ルルトキ以テ進水ヲ終ルモノトス
第五條 第三條ノ場合ニ於テハ船渠内ニ水ノ進入ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ艦體ノ浮泛スルニ至リテ進水ヲ終ルモノトス

第六條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ本手續書ニ明文アルモノノ外左ノ如シ
海軍省軍務局長及同局第二課長
海軍艦政本部長
海軍艦政本部第三部長及同第四部長
當該鎮守府艦政部長

第八條 干噸未滿ノ軍艦(浮體)ヲ進水セシメタルトキハ海軍大臣其ノ命名書ヲ當該鎮守府司令長官ニ送授シ當該鎮守府
司令長官ハ前附條ニ準シ進水式ヲ履行スヘシ但シ此場合ニ於テハ第六條ノ參列官中艦政本部第三部長及當該鎮守府艦政
部長ノミ參列スルモノトス

○海軍省達第百七十八號

海軍參謀官タルモノハ參謀長參謀ノ職名ヲ帶フルモノ若ハ特ニ命令ニ於テ規定アルモノノ外左ノ
如ク改メラル

明治三十八年十二月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一 海軍軍令部長次長

二 各國大使館附及公使館附海軍將校

三 海軍大學校教官ノ中將校三人

○海軍省達第百七十九號

海軍省處務規程中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十一條第十三號及第十四號中「公使館附」ヲ「大使館附並公使館附」ニ改ム

○海軍省達第百八十號

海軍駐在員監督服務規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月七日
 第二條中「公使館附武官」ヲ「大使館附若ハ公使館附武官」ニ改ム
 第六條第二項中「本邦公使」ヲ「本邦大使若ハ公使」ニ改ム
 ○海軍省達第百八十一號
 艦艇類別標準別表ノ通改メラル

明治三十八年十二月十二日
 (別表)

海軍大臣男露山木權兵衛
 海軍大臣男露山木權兵衛

艦	軍			類別等級	計	並	排	水	並
	砲艦	海防艦	巡洋艦						
	一等	一等	一等	一等	七千噸以上				
	二等	二等	二等	二等	七千噸未滿三千五百噸以上				
	三等	三等	三等	三等	三千五百噸未滿				
	四等			四等	七百噸以上				
	五等			五等	七百噸未滿三千五百噸以上				
	六等			六等	三千五百噸未滿				
	七等			七等	七百噸以上				
	八等			八等	七百噸未滿三千五百噸以上				
	九等			九等	三千五百噸未滿				
	十等			十等	千噸以上				
	十一等			十一等	千噸未滿				

考師	水雷艦				水雷母艦	通報艦
	艇	雷	水	艦		
海軍大臣ハ本表ニ依リ艦艇ノ類別並等級ヲ定メ若ハ變更ス		一等				
		二等				
		三等				
		四等				
			一等			
			二等			
			三等			
			四等			

○海軍省達第百八十二號
 艦艇類別等級別表ノ通定ム
 明治三十八年十二月十二日
 (別表)

海軍大臣男露山木權兵衛

明治三十八年十二月 海軍省第八十二號

類別	等級	艦名				
		戰艦	巡洋艦	海防艦	砲艦	通報艦
戰艦	一等	富士	敷島	朝日	三笠	石見
	二等	相模	丹後	鹿島	廣田	
	三等	出雲	春日	日進	阿蘇	
巡洋艦	一等	淡路	常盤	八雲	吾妻	磐手
	二等	出雲	春日	日進	阿蘇	
	三等	宗谷				
海防艦	一等	和泉	千代田	秋津洲	須磨	明石
	二等	鎮遠	豐後			
	三等	扶桑	沖島	見島		
砲艦	一等	筑紫				
	二等	磐城	龍那	島海	赤城	宇治
通報艦		八咫山	龍田	千早		
		觀瀾				
水雷母艦		東雲	叢雲	夕霧	不知火	陽炎
		海雲	雷雲	雷雲	雷雲	雷雲

類別	等級	艦名							
		戰艦	巡洋艦	海防艦	砲艦	通報艦	水雷母艦	其他	
戰艦	二等	第二十二號	第三十四號	第三十五號	第三十九號	第三十號			
		第三十一號	第三十二號	第三十三號	第三十六號	第三十七號			
		第三十八號	第三十九號	第四十號	第四十一號	第四十三號			
		第四十四號	第四十五號	第四十六號	第四十七號	第四十九號			
		第六十號	第六十一號	第六十二號	第六十三號	第六十四號			
		第六十五號	第六十六號	第六十七號	第六十八號	第七十號			
		第七十一號	第七十二號	第七十三號	第七十四號	第七十五號			
	三等	第五號	第六號	第七號	第八號	第九號			
		第十號	第十一號	第十二號	第十三號	第十四號			
		第十五號	第十七號	第十八號	第十九號	第二十號			
		第二十六號	第二十七號	第五十號	第五十二號	第五十四號			
		第五十五號	第五十六號	第五十七號	第五十八號	第五十九號			
		艦船ニ搭載セルモノ							
		第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	

明治三十八年十二月 海軍省第八十二號

本艦ヲ稱呼スルニハ其ノ類別ノ何タルヲ問ハズ、軍艦何シヲ以テス但シ適合ニ依リ類別稱呼スルハ類別及等級稱フ以テスルコトアリ、戰艦何、海防艦何、有等巡洋艦何等ノ如シ、驅逐艦ヲ稱呼スルニハ「驅逐艦何」ヲ以テス

水雷艇ヲ稱呼スルコト左ノ如シ
 一等水雷艇ハ「水雷艇何」ト稱シ場合ニ依リ「一等水雷艇何」ト稱スルコトアリ
 二等以下ノ水雷艇ハ「第何號水雷艇」ト稱シ場合ニ依リ「水雷艇第何號」若ハ「何等水雷艇第何號」ト稱スルコトアリ
 潜水艇ハ「第何潜水艇」ト稱ス

○海軍省達第百八十三號

明治三十三年達第百二十二號ヲ廢ス
 明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

【參照】

明治三十三年六月廿日海軍省達第百二十二號ハ軍艦及水雷艇類別等級別表ナリ

○海軍省達第百八十四號

驅逐艦驅逐隊潜水艇潜水艇隊ニ關スル諸般ノ取扱ハ特ニ規定アルモノ、外水雷艇水雷艇隊ニ準スル儀ト心得ヘシ

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百八十五號

海軍敬禮式中左ノ通改正セラル
 明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條 本式中艦船ト稱スルハ軍艦驅逐艦水雷艇潜水艇及排水量十五噸以上ノ船舟ヲ謂ヒ舟艇ト稱スルハ軍艦ニ搭載スル水雷艇小蒸汽船端舟及排水量十五噸ニ滿タサル船舟ヲ謂フ
 第十六條中「水雷艇」ノ敬禮ヲ「驅逐艦水雷艇及潜水艇」ニ「艇隊司令」ヲ「驅逐隊司令及艇隊司令」ニ改ム

令ニ改ム

第七十一條ノ二ヲ削ル

第七十八條中「水雷艇隊」ヲ「艇隊」ニ改ム第二項及第三項中「驅逐隊司令」ノ乘艦以下ヲ削ル
 第一百五十二條中「軍艦」及「水雷艇」並「軍艦」一隻又ハ「水雷艇」ヲ各「艦船」ニ改ム

○海軍省達第百八十六號

艦艇及水雷敷設隊現狀報告規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「軍艦」ノ下ニ「驅逐艦」ヲ、「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加フ

第二條中「軍艦」ノ下ニ「驅逐艦」ヲ、「水雷艇」ノ下ニ「潜水艇」ヲ加ヘ「其ノ艇隊司令」ノ下ノ劃註ヲ「艇隊司令」ノ附

近ニ在リサル艇又ハ艇隊ニ關セサル艇ニ改ム

ハ其ノ艇長又ハ直接之ヲ保管スル者ニ改ム

第三條第二項中「水雷艇隊」ヲ「艇隊」ニ改ム

第一表中「軍艦」ヲ削ル

艇隊ニ改ム

○海軍省達第百八十七號

下士卒定員補充交代規則第十八條中「橫須賀軍港所在」ノ各廳勤務ノ下士卒ヲ「橫須賀軍港所在」ノ各廳並大湊要港部勤務ノ下士卒ニ改ム

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

【參照】

海軍省達第十二號下士卒定員補充交代規則(明治三十四年二月二十日)抄錄

第十八條 東京及橫濱軍港所在ノ各艦隊ノ下士卒ハ横濱鎮守府ヨリ吳軍港所在ノ各艦隊ノ下士卒ハ吳鎮守府ヨリ 竹敷要港部馬公要港部及海軍採炭所勤務ノ下士卒ハ佐世保鎮守府ヨリ之ヲ補充交代ス

○海軍省達第八十八號 雇員傭人規則別表中「大湊水雷團」ノ欄ヲ削ル

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

明治三十八年十二月十二日

○海軍省達第八十九號

海軍兵備品會計規程第三條別表中左ノ通改正ス

艦營需品ノ頂分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ノ欄中驅逐艦括弧ノ下「主計官」ヲ削リ被服、糧食ノ頂分任兵備品會計官吏兵備品取扱主任ノ欄中「驅逐艦主計官」トアルヲ「驅逐隊主計長」ニ改メ治療品ノ頂兵備品取扱主任ノ欄中「驅逐艦軍醫官」トアルヲ「驅逐隊軍醫長」ニ改メ

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

明治三十八年十二月十二日

○海軍省達第九十號

三等兵曹及水兵其ノ他之ト同様ノ服制アル下士卒ニシテ驅逐隊司令附及驅逐艦ノ定員タルモノノ帽徽章ハ其ノ乗組タル驅逐艦ノ名稱ヲ記シタルモノヲ使用セシム但シ當分ノ内軍艦名ヲ記シタルモノヲ混用スルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

明治三十八年十二月十五日

○海軍省達第九十一號

關東州派遣職工給與規則左ノ通定ム

海軍大臣 男 爵 山本權兵衛

明治三十八年十二月十六日

關東州派遣職工給與規則

第二條 職工ニシテ關東州ニ派遣セララル、若シ給與ハ別ニ定メタルモノヲ除クノ外本規則ニ依ル

第二條 關東州ニ派遣セララル、職工ニハ内地工廠出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄賃錢ノ五割以內ノ増給ヲ支給ス

前項ノ増給ハ派遣地ノ狀況ニ應シ適宜其ノ給額ヲ定メ海軍大臣ノ認許ヲ受ケヘシ

第三條 職工關東州ニ派遣中傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ服業スルコト能ハサルトキハ其ノ間増給ノ半額ヲ支給ス

第四條 職工關東州ニ派遣中職工入夫給與規則第五條第五條ノ二第六條及第八條ノ場合ニ於ケル賃錢同規則第五條ノ二ノ場合ニ於ケル賃錢十分ノ二ノ手當並同規則別表中第一ノ場合ニ於ケル加給ハ本規則第二條ノ増給ヲ加ヘタル額ニ依ル但シ職工入夫給與規則別表中第九及備考第四項ノ場合ニ限リ該加給ハ支給ノ限ニ在ラズ

職工入夫給與規則別表中第四及第五ノ加給支給方ハ北海道ニ準ス

第五條 關東州ニ派遣セララル、職工ノ内地ニ於ケル旅費ハ海軍内國旅費規則第七表表面内ノ旅行ニ在リテハ同表八等ノ定額、表面外ノ旅行ニ在リテハ第五表八等ノ定額ヲ支給ス但シ九人以上同行ノ場合ニ於テハ汽車料及船舶料ハ定價其ノ他ハ第六表八等ノ定額ヲ支給ス

前項但書ノ場合ニ於テ手荷物ノ運送ヲ要スルトキハ其ノ賃費ヲ支給ス 關東州内及關東州内地間ニ於ケル旅費ハ賃費ヲ支給ス但シ食料、宿泊料、休憩料、汽車料、船舶料、車馬料、橋橋料、舟舟料及手荷物運送料ノ外ハ支給ノ限ニ在ラス

第六條 本規則ハ韓國及樺太島ノ沿岸ニ派遣セララル、職工ノ給與ニ之ヲ適用ス但シ韓國沿岸ニ在

リテハ北緯二十七度以北ニ派遣セラル、者ノ外第四條第二項ノ規定ヲ適用セス
附則

本規則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第九十二號

驅逐隊及驅逐艦員勤務令ノ通定ム
明治三十八年十二月十六日

海軍大臣 野宮山本 權兵衛

驅逐隊及驅逐艦員勤務令

- 第一條 司令ハ其ノ隊ノ内規ヲ制定シ所屬長官ノ承認ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
- 第二條 司令ハ在役驅逐艦ヲシテ常ニ役務ニ支障ナカラシムルコトヲ期スヘシ
- 第三條 司令ハ豫備驅逐艦ノ就役準備ヲ整頓セシムルコトニ注意スヘシ
- 第四條 司令ハ常ニ所屬驅逐艦ノ現狀並性質等ヲ熟知スヘシ
- 第五條 司令ハ部下ノ紀律ヲ維持シ之ヲ董督訓練シ各部署ヲ迅速正確ニ施行セシムルコトニ注意スヘシ
- 第六條 司令ハ自己ノ乗艦ヲ定メタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ所屬長官及海軍大臣海軍軍令部長ニ報告スヘシ
- 第七條 司令ハ驅逐艦ヲ引率シテ航行スルトキハ航路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責ニ任スヘシ
- 第八條 司令ハ驅逐艦ノ解役或ハ就役ノ手續ヲ了リタルトキハ之ヲ所屬長官ニ報告スヘシ
- 第九條 驅逐艦長ハ司令ノ命ヲ承ケ乗員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ誘按訓練シ又其ノ艦ノ構造性質等ヲ

熟知シ諸兵器並諸要具ヲ整備シ艦ノ保安ヲ掌ルヘシ

第十條 驅逐艦長ハ司令ノ命ヲ承ケ戰闘、防火、防水其ノ他諸般ノ部署ヲ定メ之ニ對シ乗員ヲ訓練シ精練ノ度ニ達セシムヘシ

第十一條 司令以下職員ノ勤務ニ關シ前諸條ニ掲ケサルモノハ適用シ得ル限リ軍艦職員勤務令ニ準據シ艦長ノ爲ノ規定ヲ司令ニ、副長ノ爲ノ規定ヲ驅逐艦長ニ適用スヘシ但シ驅逐艦長ハ司令ノ命アルトキハ其ノ部下ニ對シテハ艦長ト同一ノ職權ヲ執行スヘシ

第十二條 獨立驅逐艦長又ハ司令同所ニ在ラサル首席驅逐艦長ハ司令ト同一ノ職責ヲ有スルモノトス

第十三條 驅逐隊ニ編入セラレサル驅逐艦ノ醫務衛生及會計給與ニ關シ特令ナキトキハ直屬長官ニ於テ部下相當職員ヲ指定シテ之ヲ處理セシムヘシ

○海軍省達第九十三號

海軍兵備品會計規程第三條別表艦營用品ノ項中

製造所主計長ヲ加フ

要港部委員長	要港部主計長	煉炭製造所長
ノ次ニ	ノ次ニ	煉炭

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣 野宮山本 權兵衛

○海軍省達第九十三號ノ二

雇員備入規則中ノ通改正ス

明治三十八年十二月二十一日

海軍大臣 野宮山本 權兵衛

第三條左表中倉庫丁ノ下各職名ノ右ニ左ノ項ヲ加フ

竹敷要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル
別表中見島ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

相模	八	四	一
丹後	八	四	一
肥前	八	四	一
周防	八	四	一
阿蘇	七	三	一
津輕	六	三	一
宗谷	六	三	一

同表備考ノ欄第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 本表ノ外竹敷要港部ニ於テハ倉庫丁三名ヲ使役スルコトヲ得

○海軍省達第九十四號

明治三十六年十一月達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中

ノ次ニ探炭所製費及探炭所國物品 煉炭製造所長 主計長 ヲ加フ

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十五號

吳海軍工廠ニ於テ製造ノ子號裝甲巡洋艦ヲ筑波ト命名セラル

明治三十八年十二月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十六號

艦艇類別等級別表中巡洋艦ノ欄一等ノ下「阿蘇」ノ次ニ「筑波」ヲ加フ

明治三十八年十二月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十七號

下士卒定員補充交代規則第十九條中「又同驅逐隊司令乘艦ノ增加下士卒ハ一組ヲ横須賀鎮守府ヨリ一組ヲ佐世保鎮守府ヨリ一組ヲ舞鶴鎮守府ヨリ補充交代シ四組以上ヲ要スルトキハ此順序ニ依リ各鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス」ヲ「又驅逐隊司令附及水雷艦隊司令附ノ下士卒ハ其驅逐艦水雷艦ノ在籍鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス」ニ改ム

明治三十八年十二月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十八號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「若葉」ノ次ニ「春風」ヲ加フ

明治三十八年十二月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十九號

明治三十六年達第百三十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任任排命令官、歳入徴收官、收入官吏別表中ニ左ノ一欄ヲ追加ス
本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍煉炭製造所ノ支出收入 海軍煉炭製造所長 海軍煉炭製造所主計長

○海軍省達第二百號

明治三十二年達第二十一號委任任拂命令官代理規程別表中ニ左ノ一欄ヲ追加ス
本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍煉炭製造所長 海軍煉炭製造所煉炭部長

○海軍省達第二百一號

明治三十年達第百一號歳入歳出取扱規程第六十二條中「海軍探炭所」ノ下ニ「海軍煉炭製造所」ヲ追加ス

本達ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第二百二號

海軍給與令施行細則第十五條第一項中「第十六條」ノ下ニ「第一項」ヲ加ヘ第四項中「ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給」ヲ「第二項ニ依リ家族ニ下渡スハ所在不明ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給ニ限ル此ノ場合ニ於テ」ニ改ム

明治三十八年十二月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第二百三號

停年計算規則第六條中ニ左ノ號ヲ加フ
明治三十八年十二月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

明治三十七八年戰役中聯合艦隊附屬敷設隊、艦隊補缺員、驅逐隊及艇隊補缺員並ニ戰時艦隊集在地港務部若ハ艦隊附屬港務部、津輕海峽臨時敷設隊ニ勤務シタル者ノ勤務日數

法令全書

告示

○宮内省告示第一號

一月二日午後七時二十八分皇太子妃殿下分娩王子誕生アラセララル

明治三十八年一月三日

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省告示第二號

一月三日午後七時二十八分誕生アラセラレタル 皇太子殿下ノ王子名ヲ 宣仁ト命セラレ光宮ト稱セララル

明治三十八年一月九日

宮内大臣子爵田中光顯

○内務省告示第一號

神奈川縣橫濱市山下町百四十六番地住

清國人 桐 大美

右日本帝國ニ歸化ヲ允許セリ

明治三十八年一月十日

内務大臣子爵芳川顯正

○内務省告示第二號

神奈川縣橫濱市山下町百八十九番地住

清國人 張 汝 棟

清國人 楊 殿

熊本縣萬田丸汽船	五割引
山口縣島谷德三郎汽船	五割引
香川縣龜井長太郎汽船	五割引
長崎縣藤野林太郎汽船	五割引
大家南船合資會社汽船	五割引
島根縣岡田太郎汽船	五割引
高知縣小松原馬汽船	五割引
高知縣西榮助汽船	五割引
廣島縣有田精汽船	五割引
愛媛縣松本精六汽船	五割引
大川運船株式會社汽船	五割引
大阪府岸本佳季汽船	五割引
土佐府船務株式會社汽船	五割引
大阪府粟谷三汽船	二割引
富山縣南島間作汽船(志賀丸)	五割引
富山縣森正太郎汽船(加陽丸)	二割引
廣島縣船務株式會社汽船	五割引
秋田縣船務株式會社汽船	三割引
島取縣西山新十汽船	五割引
陸奥府船務株式會社汽船	五割引
青森縣藤田嘉助汽船	五割引
八月汽船株式會社汽船	五割引
内閣通運會社汽船	五割引
鍋子汽船株式會社汽船	五割引
北海道石塚限太郎汽船(燧龍丸)	五割引
北海道板村助右衛門汽船(波島丸)	五割引
北海道船務株式會社(東光丸 平穩丸 魁益丸 青森丸 札幌丸)	五割引
北海道船務株式會社(北雄丸 北門丸 竹ノ浦丸)	五割引
北海道山縣三郎汽船(都丸 玄武丸)	五割引

北海道吉田庄作汽船(北海丸 第二松前丸)	五割引
北海道渡邊龍四郎汽船(日ノ丸 福山丸)	五割引
北海道能登善吉汽船(福島丸 函館丸)	五割引
北海道田村與七汽船(惠比須丸)	五割引
北海道酒澤岸太郎汽船(千年丸 實效丸)	五割引
北海道工藤嘉七汽船(芽部丸 鳳至丸)	五割引
北海道平出嘉三郎汽船(浦島丸 錦旗丸)	五割引
北海道柴谷會社汽船(築榮丸)	五割引
北海道水野彌平汽船(棚田丸)	五割引
滋賀縣藤野四郎兵衛汽船(蛟龍丸 艦分丸)	五割引
噴火灣汽船株式會社汽船(廣洋丸 檜柄丸)	五割引
岩内汽船株式會社汽船(第五監川丸 東運丸)	五割引
北海道澤口庄作汽船(幸明丸 豐至丸)	五割引
北海道西出藤左衛門汽船(福重丸)	五割引
北海道渡邊政次郎汽船(平安丸)	五割引
北海道酒谷長一郎汽船(豐源丸)	五割引
北海道入江通出服店取扱汽船	五割引
北海道阿部新七取扱汽船	五割引
北海道飯岡新吉取扱汽船	五割引
北海道新井佐助取扱汽船	五割引
北海道宮本武之助取扱汽船	五割引
北海道樋口多喜藏取扱汽船	五割引
北海道齋藤藤七取扱汽船	五割引
北海道高松康太郎取扱汽船	五割引
北海道安田南幸會社運搬部汽船(酒田川丸)	五割引
北海道麻里英三汽船(第一渡波丸 第二渡波丸)	五割引
北海道藤山雲吉汽船(隆盛丸 宗合丸 禮文丸 利尻丸 日進丸 小樽丸)	五割引
北海道橋本清吉汽船(北球丸)	五割引

北海道岩田榮藏汽船(金剛丸) 五割引
北海道山本順治汽船(巴港丸) 五割引
北海道吉田三郎右衛門汽船(松前丸) 五割引
北海道從二字左衛門汽船(金川丸 萬歲丸) 五割引
北海道金澤長太郎汽船(新古字丸) 五割引
幌泉汽船株式會社汽船(帝淨丸) 五割引

第四條 前條以外之鐵道ニシテ行先地ヲ指定スルモノ左ノ如シ
(大坂市内各驛(大坂 天滿 櫻宮 新島 京橋 玉造 桃山 天王寺 今宮 湊町)並ニ名古屋 愛知 四日市ノ各驛ニ到ルモノ)
關西鐵道株式會社鐵道 關西鐵道株式會社鐵道四日市驛又ハ名古屋驛ニ到ルモノ
神戶驛ニ到ルモノ
門司驛ニ到ルモノ
博多驛ニ到ルモノ
日本鐵道株式會社鐵道 日本鐵道株式會社鐵道青森驛ニ到ルモノ
柏原驛ニ到ルモノ
彦根驛又ハ貴生川驛ニ到ルモノ

○内務省告示第五號
一敢て天下に同志を募る 一枚 東京市本郷區丸山福山町六番地翌月次郎吉發行
右出版物ハ安寧秩序ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ明治三十八年一月二十日發賣頒布禁止及刻版
並印本差押ノ處分ヲ爲シタリ

明治三十八年一月二十一日
○内務省告示第六號
兵庫縣神戸市下山手通二丁目三十三番屋敷ノ十住

右日本帝國ニ歸化ヲ允許セリ
明治三十八年一月三十一日
内務大臣子爵芳川顯正
清國人 郎 道 亨
内務大臣子爵芳川顯正

明治三十八年一月 告示 内務省第五號 第六號

○大藏省告示第一號

明治三十八年二月一日ヨリ同月二十八日マテ税關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル内外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム

但本表所掲ノ外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ従前ノ通

明治三十八年一月四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

内外貨幣比較表

英 領 印 度	外 國 貨 幣	日 本 金 貨	
		金	貨
一ルービー	上海一兩	一三四二	六六三
天津一兩	漢口一兩	一四一九	一三七五
墨西哥	ニドルラル	九七八	九五〇
英 吉 利	佛銀一ドルラル 香港佛銀ニドルラル	九五〇	九五〇
暹 羅	一チカル	五九二	

○大藏省告示第二號

明治三十七年法律第二號ニ依リ募集シタル第三回國庫債券ニ對シ左記ノ通假債券ヲ發行セリ

第三回

明治三十八年二月十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

一國庫假債券

六十二萬八百二十九枚

・ 内

- 壹萬圓券 不號 自一三〇三番 至一三〇九番 二千二百八十一枚
- 五千圓券 同 自二一七五番 至二二八六番 二千零七十五枚
- 千圓券 同 自一四二二三番 至一四二三三番 一萬四千二百三十三枚
- 五百圓券 同 自九一五二番 至九一五二番 九千五百二十二枚
- 百圓券 同 自一三三七九〇番 至一三三七九〇番 十三萬四千七百九十枚
- 五十圓券 同 自一〇二八八二番 至一〇二八八二番 十萬二千八百八十二枚
- 貳拾五圓券 同 自三五五三一六番 至三五五三一六番 三十五萬五千三百十六枚

○大藏省告示第三號

秋田稅務監督局管内山形稅務署ヲ本年一月一日山形縣山形市香澄町字木ノ實小路二百九十九番地へ移ス

明治三十八年一月十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省告示第四號

明治三十七年十月大藏省令第四十一號ニ依リ交付スル第三回國庫假債券壹萬圓、五千圓、千圓、五百圓、百圓、五十圓及貳拾五圓七種ノ見本ハ日本銀行ニ交付シ其本支店及代理店ニ備置カシム照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ

明治三十八年一月十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省告示第五號

明治三十八年一月 告示 大藏省第六號

宇都宮稅務監督局管内富岡稅務署ヲ本年一月十五日群馬縣北甘樂郡富岡町大字富岡町千四百六十七番地ノ一ハ移ス

明治三十八年一月十三日

○大藏省告示第六號

國庫假借券紛失ニ付左記ノ通代假借券ヲ交付セリ

明治三十八年一月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	記號	紛失假借券番號	同拂込済回数	請求者住所氏名	代假借券番號	同拂込済回数
百圓	一	六六七三八	一	群馬縣富岡市東港町 赤星 見壽		
	一	七六〇九八	一	同縣浮羽郡船越村 原田 平八		
	二	七八四八一	二	同縣小倉市京町 井澤 元兵衛		
	一	七八四八二	一	茨城縣稻敷郡岡田村 鈴木 勲兵衛	自四五〇八七四 至五〇八八一	八
	一	三〇〇六四九	一	栃木縣宇都宮市一條町 丸山 房之		
	一	三〇四七〇	一	青森縣中津輕郡藤代村 藤田 嘉之助		
	一	二八七一九	一	廣島縣佐伯郡廿日市町 島津 勝次		
	一	三三二四七〇	一	兵庫縣明石郡大久保村喜市町未成年ニ付親權ヲ行フ母 寺崎 幸四郎		
	一	一八二五三三	一	愛知縣中島郡國分村 永井 武藏		
	一	一八八七三	一	同縣丹羽郡穗波村 増田 龜太郎		
	一	三〇五七五三	一	三重縣員辨郡治田村 山下 藤次		
	一	二九七六三三	一	同縣員辨郡治田村 山下 藤次		

五拾圓 同	
券面金額	記號
三三八一四〇	一
三三五九三三	二
三六三三三三	一
五〇四二九九	一
五六〇七九	一
二七六四	一
二四五〇〇六	一
二六五二二〇	一
二六六一五六	一
二四八六四	一
二七〇三	一
三三三五四二	一
三三三六六〇	一
三三二四二九	一
三七六二一六	一
二七一三九七	一
二七一三六	一
二二九八〇	一
三九〇二二	一

同拂込済回数	請求者住所氏名
一	群馬縣多野郡吉井町 堀越 馬七
二	同縣足羽郡上文殊村 南 龜吉
一	同縣東伯郡日下村 西川 松藏
一	同縣東伯郡三島村 藤井 清太郎
一	同縣東伯郡三島村 井上 次助
一	香川縣仲多度郡多度津町 井上 茂八
一	大分縣速見郡中山香村 長野 鶴太郎
一	同縣大分郡大分町 花宮 茂四郎
一	佐賀縣小城郡砥川村 百武 三郎
一	同縣西松浦郡大坪村 高塚 忠次
一	栃木縣下都賀郡都屋村 八津 儀一郎
一	同縣縣東郡小泉村 鈴木 榮太郎
一	同縣同郡御厨町 長田 李太郎
一	山梨縣北都留郡大目村 大庭 義岡
一	青森縣中津輕郡藤代村 藤田 嘉之助
一	同縣三月郡飯村 小西 源三郎
一	石川縣能美郡高田村 岡田 徳兵衛
一	同縣沼尻郡水谷村 宇田 徳藏

明治三十八年一月 告示 大藏省第六號

五〇二四五	一	第四回マテ	愛知縣西加茂郡平井村	今井 菊平
五六〇九二	一	第三回マテ	岐阜縣養老郡笠郷村	小野 海八
五二〇五四八	一	一同	三重縣員辨郡治田村	武藤 辣
五二六三八一	一	一同	愛知縣丹羽郡御波村	増田 爲太郎
五二〇五四六	一	一同	三重縣員辨郡治田村	服部 寅一
五二〇五四七	一	一同	同縣同郡同村	水谷 休三郎
一八七五五九	一	一同	福岡縣三井郡北野町	井上 清次郎
一八六八八六	一	第一回マテ	同縣同郡味坂村	田中 仁一
一八六一五二	一	第五回マテ	同縣三浦郡大海村	井上 市平
一五〇三九八	一	第三回マテ	山口縣玖珂郡日積村	西原 寅雄
四八六九九九	一	第四回マテ	北海道釧路郡尻岸内村	岸本 辰二郎
一三七五二六	一	一同	長野縣北安曇郡大町	宮田 莊太郎
一一九七二〇	一	一同	同縣近級郡收郷村	吉原 多一
六一六六八六	一	第三回マテ	巖手縣九月郡月田村	水戸湯淺太郎
四九一九二二	一	第五回マテ	青森縣上北郡大深内村	小原 彌惣
六六八二八	一	第四回マテ	福井縣足羽郡上文殊村	南 鷓吉
六七八六四	一	第五回マテ	同縣福井市吉野下町	吹矢 五作
六四六八二	一	第三回マテ	同縣今立郡北新庄村	北野 權三郎

三九六三三	一	一同	石川縣河北郡内津村	中村 小三郎
三三七一九六	一	第五回マテ	富山縣西礪波郡靈橋村	吉田 庄太郎
三〇八二八三	一	第四回マテ	廣島縣廣島市宇野町	飯田 靜
四三三九八一	一	第五回マテ	同縣廣島郡國府村	榎崎 勝太郎
四三〇二一〇	一	第三回マテ	香川縣香川郡安風上西村	和田 彌彌
四三三〇〇九	一	第四回マテ	同縣綾歌郡金山村喜八相續人	山本 萬吉
四三二七六三	一	第三回マテ	愛媛縣西宇和郡伊方村	高橋 春次郎
四四四四二九	一	第五回マテ	同縣越智郡鏡川村	武田 政太郎
四七〇〇六四	一	第四回マテ	大分縣下毛郡如水村	秋吉 勇藏
四四一六九	一	第三回マテ	佐賀縣神埼郡城田村	荒木 昭七
四九六三九	一	一同	同縣藤津郡能古見村	植松 豊助
四七四〇六	一	第五回マテ	同縣杵島郡武内村	宮原 新作
五二二二〇	一	第四回マテ	同縣東松浦郡濱崎村	五島 喜太郎
四二一六一	一	一同	同縣佐賀市興賀町	橋本 宗太郎
三六一四九八	一	第六回マテ	福岡縣小倉市魚町二丁目	坪内 瑞旺
三八〇五七三	一	第三回マテ	海軍二等水兵	橋本 久吉
六一九九〇四	一	第五回マテ	巖手縣稗貫郡湯口村	高橋 三藏
二二三九一八	一	一同	石川縣金澤市下百々女木町	木村 致恭

二九六九二	一	第四回マテ	同縣河北郡内灘村	前田 勘太郎
三三〇二七	一	同	同縣鹿島郡金丸村	稻村 佐吉
三二六〇九	一	同	同縣能美郡高田村	岡田 徳兵衛
四〇八九九	一	第五回マテ	廣島縣吳市莊山田村	森 音藏
四〇八五三	一	第六回マテ	同縣同市宮原村	荒神垣内多吉
四〇六四	一	第五回マテ	徳島縣那賀郡長生村キミエ未成年ニ付親権ヲ行フ母	仁木 サク
四七五〇九	一	同	大分縣直入郡宮城村	白井 藤一郎

○大藏省告示第七號

國庫假借券紛失ニ付左記ノ通代假借券ヲ交付セリ

明治三十八年一月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	記號紛失假借券番號	同枚數	請求者住所氏名	代假借券番號
百圓	二四六四八	一	岐阜縣土岐郡瑞浪村	本莊 幸平
	二〇九二八	一	滋賀縣犬上郡西甲良村	木村 米次郎
	三三三六四	一	靜岡縣周智郡能切村	鈴木 貞次
	二七四八	二	福井縣福井市毛矢町	山内 平兵衛
	一〇六〇八	一	富山縣上新川郡鑓川村	鑓川 竹次郎
	二八五二	一	大分縣西園東郡草地方	早田 善十郎
	三二五二二	一	長野縣東筑摩郡松本町	松下 久茂

五拾圓同

券面金額	記號紛失假借券番號	同枚數	請求者住所氏名	代假借券番號
五拾圓	三三三〇三	一	三重縣河藝郡玉垣村	服部庄右衛門
	三三〇九三	一	愛知縣名古屋市長田町松浦四郎	松浦 仙太郎
	三三二一五	一	岐阜縣吉城郡坂下村	村上 徳助
	三三〇三三	一	三重縣南牟婁郡尾呂志村	生駒 龜松
	三三〇八八	一	滋賀縣犬上郡西甲良村	木村 米次郎
	三六六三九	一	福島縣石川郡山白石村	生田目 周藏
	三三五四五	一	靜岡縣榛原郡吉田村	山内 謙治
	七三六七一	二	長野縣東筑摩郡今井村	丸山 傳平
	七三五四七	二	宮城縣玉造郡眞山村	佐藤 榮吉
	三七七八〇	一	福井縣足羽郡酒生村	高村 敬作
	二九五六一	一	同縣同郡同村	伊藤 垣一
	三五九九一	一	富山縣西礪波郡石堤村	山崎 吉次郎
	一三〇七八	一	同縣埴賀郡長岡村	山形 竹次郎
	一三三六五	一	島根縣那賀郡大森村	前島 梅次
	五〇八九一	一	岡山縣御津郡馬屋下村	岸 豊次郎
	一六〇二四七	一	同縣同郡大野村	兒子 喜録
	一五九八〇	一	廣島縣沼隈郡水呑村	宇田 七三郎
	三三九〇三	一	沖繩縣首里郡字赤田	石川 カメ
	二〇四三六	一	同	

貳拾五圓		同			
三二五七一	一	第四回マテ	靜岡縣周智郡園田村	朝比奈忠三郎	一
三九八八三	一	第四回マテ	濱海北郡法務寮官吏派出所	佐藤 隆一	一
三〇三六五〇	一	第五回マテ	廣島縣深安郡福山町	池田 林太	一
三六三三三〇	一	第六回マテ	大阪府北河内郡住道村敷親權者	川井 秀吉	一
五〇〇八七七	一	第五回マテ	三重縣三重郡桶村	龜田 孫兵衛	一
五五七七一	一	第三回マテ	岐阜縣安八郡三城村	高橋 榮助	一
六四〇三五四	一	第五回マテ	福島縣信夫郡烏川村	金子 彦之助	一
六二〇五六〇	一	第三回マテ	同縣石川郡山白石村	生田目 文藏	一
二二六七七	一	第五回マテ	長野縣南安郡高家村	澤山 松太郎	一
二二八五九九	一	第四回マテ	同縣北安曇郡炭津村	渡邊 龍吉	一
五五五五八	一	第三回マテ	福井縣大野郡小山村	石谷長左衛門	一
六〇〇三	一	第五回マテ	同縣足羽郡六條村	青山 與平	一
二八〇四三	一	第四回マテ	岡山縣勝田郡高取村	木梨 吉吉	一
二二八一	一	第三回マテ	徳島縣麻植郡三山村	明石 伊三郎	一
四四〇二四	一	同	香川縣木田郡湯元村	柏原 財二郎	一
四四〇三七	一	第五回マテ	高知縣香美郡美良布村	吉本 克平	一
四九九五五	一	同	同縣幡豆郡八束村	乾 金馬	一
四七五三七九	一	第三回マテ	大分縣直入郡白丹村	本郷 只市	一

○大藏省告示第八號

國庫假債券紛失ニ付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ

明治三十八年一月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	紛失假債券番號	紛失枚數	同	拂込済回數	請 求 者 住 所 氏 名	代假債券番號	同
百圓	一七三二四七	二	第五回マテ	和歌山縣有田郡八幡村	海邊 龜太郎	一	一
	一七三二四八	二	第五回マテ	奈良縣南葛城郡吐田郷村	末吉 永治	一	一
	一四八〇二	一	第三回マテ	福岡縣福岡市材木町	勝田 淺太郎	一	一
	六八一四六	二	第六回マテ	滋賀縣高島郡今津村	古我 竹次郎	一	一
	六八一四七	二	第六回マテ	同縣高島郡今津村	高山 勝治郎	一	一
	二〇三七六	二	第五回マテ	京都府船井郡竹野村	久慈 七郎	一	一
	二〇三七七	二	第五回マテ	青森縣東津輕郡蓬田村	越見 龜次郎	一	一
	二二六六七	一	第三回マテ	富山縣高岡市御旅屋町勝其親權者	越見 龜次郎	一	一
	二九五五三	一	第四回マテ	廣島縣豊田郡東野村	蔭田 佐之吉	一	一
	二〇二七五	一	第三回マテ	同縣沼隈郡千早村	岡崎 嘉市	一	一
	二二四八九五	一	第五回マテ	三重縣飯南郡神山村	殿本 山藏	一	一
	二二五八三四	一	第四回マテ	福岡縣福岡市天神町	岩手 長次郎	一	一
	二九六四六三	一	第五回マテ	同縣福岡市天神町	岸尾 義男	一	一
	九七〇五九	一	同	北海道釧路戸部郡十津川村	高玉 治	一	一
	六〇七五九	一	第六回マテ	福島縣相馬郡八幡村		一	一
	三六五〇五	一	第三回マテ			一	一

五拾圓同		二〇三三六	石川縣石川郡出城村	米永嘉右衛門	自二〇三〇八 至二〇三二七
二五二七〇	一 第六回マテ	同縣鹿島郡端村	多田 吉松		
二五二六九	一 同	同縣同郡同村	多田 勇吉		
二五二七一	一 同	同縣同郡同村	直木 源四郎		
二五三〇八	一 同	同縣同郡同村	柴端 万蔵		
二四九八〇	一 第四回マテ	佐賀縣小城郡東多久村	徳永 政一		
三〇〇八四	一 第三回マテ	奈良縣南葛城郡吐田郷村	末吉 永治		
三五九六四	一 同	大阪府東成郡清水村	上野嘉右衛門		
五四一八六	一 第六回マテ	三重縣度會郡穂原村	太司 備吉		
一八二六七	一 第三回マテ	福岡縣遠賀郡江川村	吉住 政吉		
一六二八〇	一 第五回マテ	山口縣美祇郡若永村	吉武 茂熊		
三八六〇八	一 第二回マテ	滋賀縣高島郡廣瀬村	平井 半兵衛		
一一七四八	一 第六回マテ	北海道釧路郡新十津川村	大垣 音吉		
六三七一八	一 第四回マテ	福島縣相馬郡中村町	深澤 幸之助		
二五四三三	一 第五回マテ	新潟縣南魚沼郡六日町	大塚 新治郎		
六〇六三六	一 同	群馬縣勢多郡北橋村	水暮 甚五郎		
五八〇七〇	一 第六回マテ	静岡縣駿東郡金岡村	梅田 米次		
三三三三三	一 第三回マテ	長野縣下伊那郡山本村	小池 幸吉		

五拾圓同		四九五二四七	青森縣青森市大字新町	小林 七郎	
三三〇四三	一 第六回マテ	石川縣鹿島郡端村	伊賀 結成		
三三〇三二	一 同	同縣同郡同村	多田 喜平		
三三〇三二	一 同	同縣同郡同村	多田 常松		
三三〇三七	一 同	同縣同郡同村	多田 喜三郎		
三三〇三六	一 同	同縣同郡同村	田中 長助		
三三〇三三	一 同	同縣同郡同村	田中 寛彦		
三三〇二七	一 同	同縣同郡同村	田中 與次郎		
三三〇二四	一 同	同縣同郡同村	中村 五三松		
三三〇二一	一 同	同縣同郡同村	大井 徳松		
三三〇一五	一 同	同縣同郡同村	奥田 吉松		
三三〇一三	一 同	同縣同郡同村	小橋市左衛門		
三二八六一	一 同	同縣同郡同村	柴端 万蔵		
三三三三三	一 第四回マテ	富山縣西礪波郡立野村	市山 又四郎		
三三三三三	一 第三回マテ	徳島縣美馬郡西祖谷山村	小野寺 儀八		
三一六二	一 第五回マテ	佐賀縣佐賀市與賀町	大森 元太郎		
三二八七八	一 同	同縣東松浦郡佐志村	保利 松太郎		

○大藏省告示第九號

國庫假債券紛失ニ付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ

明治三十八年一月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	紛失假債券番號	枚數	請求者住所	氏名	代假債券番號	枚數
千圓	七四七六	一	藤手縣西磐井郡浦津村	佐藤 喜八	一五七〇四	一
百圓	三三〇四一九	一	千葉縣千葉郡檢見川町	植草 唯吉		
	一四二七六六	二	大阪府堺市龍神橋通一丁目	米棚 忠平		
	一四二七六七	二	同	米棚 忠平		
	一四三三六二	一	同	米棚 忠平		
	二五二七八〇	一	岐阜縣揖斐郡八幡村	松岡 範次		
	二五二五七〇	一	同縣同郡鷺村	牧村 鎌吉		
	二四一四二四	一	愛知縣渥美郡豐橋町	長谷川 良作		
	四三三三五	一	鳥取縣東伯郡花見村	松岡 善太郎		
	三三三九七三	一	香川縣仲多度郡榎井村	大北 政次郎		
	三三三九六一	一	大分縣下毛郡豐田村	久恒 久太郎		
	一九七九一〇	一	和歌山縣日高郡龍神村	龍神 啓三郎		
	一九八二五四	一	同縣有田郡八幡村	堀川 靜庵		
	八〇七一八	一	山口縣那賀郡宮岡村	渡邊 源七		

券面金額	紛失假債券番號	枚數	請求者住所	氏名	代假債券番號	枚數
五拾圓	一四〇五七三	一	新潟縣古志郡入東谷村	勝橋 七之助	自四九〇九〇一	一
	三三三三六九	一	栃木縣河内郡横川村	宇根 松吉	自四九〇九〇一	一
	三三三三三〇	一	宮城縣登米郡登米町	藤根 米藏		
	一四六六三三	一	岡山縣真庭郡川上村	小原 文太郎		
	三三八九六一	一	廣島縣廣島市土手町	平田 松五郎		
	二九二二五六	一	大阪府豐能郡歌垣村	阪本 久太郎		
	二八八九五三	一	同府中河内郡玉川村	野村 林平		
	三三二二九九	一	兵庫縣美作郡射添村	中村 喜一郎		
	三三三三〇四	一	和歌山縣日高郡龍神村	龍神 啓三郎		
	三二九〇八八	一	兵庫縣多紀郡今田村	萩野 貞藏		
	五二七〇五四	一	岐阜縣稻葉郡島村	高橋 梅太郎		
	五二六九六二	一	同縣同郡同村	高橋 梅太郎		
	五五一八三六	一	愛知縣東春日井郡小田村加藤子後見人	長谷川 瀧治郎		
	五二二九九九	一	同縣海東郡佐佐木村	河村 政祐		
	五〇四九九三	一	三重縣飯南郡川俣村	吉川 宇八		
	一九七一五二	一	福岡縣企救郡東谷村	田代 源四郎		
	一四六三二三	一	山口縣那賀郡太華村	高橋 喜代助		
	三八〇二二二	一	京都府與謝郡筒川村	岡田 長兵衛		

貳拾五圓 同		同	
三八八七五七	一 第六回マテ	同府京都市下京區耳塚通り七條上ル塗屋町	自七〇六六二
大九九七五三	一 同	福島縣石城郡豐間村	四七〇六八九
二四七四五四	一 第五回マテ	新潟縣中蒲原郡沼垂町	二八
二四八七八六	一 第四回マテ	同縣古志郡入東谷村	
二四四四七	一 第五回マテ	同縣刈羽郡高田村	
二四三三三三	一 第三回マテ	同縣西蒲原郡太田村	
六〇〇八〇	一 同	茨城縣稻敷郡牛久村	
五九四二八八	一 第五回マテ	栃木縣那須郡金田村	
二一九九四七	一 第四回マテ	長野縣更級郡布施村	
二七七六三	一 第五回マテ	岡山縣小田郡小田村	
四二六九八七	一 第六回マテ	廣島縣世羅郡甲山町	
四六〇八〇五	一 第三回マテ	愛媛縣伊豫郡鳳町村	
四八四五二六	一 第五回マテ	大分縣大分郡大分町	
四六七〇八	一 第四回マテ	同縣宇佐郡津房村	
四九三二八	一 第五回マテ	沖繩縣島尻郡兼城間切糸満村	

○大藏省告示第十號
 國庫假債券紛失ニ付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ
 明治三十八年一月十四日

大藏大臣男爵曾根荒助

券面金 貳拾五圓		同	
二五三三六八	一 第七回マテ	愛知縣西春日井郡尾張村	吉田 政五郎
一一〇三三三	一 第六回マテ	新潟縣北蒲原郡佐々木村	藤原 留松
二八八八五六	一 第七回マテ	宮城縣志田郡古川町	石井 慶
二八八八七七	一 第五回マテ	石川縣能美郡江ノ島村	向市郡右衛門
九六四七五	一 第七回マテ	島根縣西伯郡藤村	永原 勝藏
四八八一五	一 第三回マテ	香川縣香川郡大野村	池田 八郎
三三〇一九〇	一 第六回マテ	同縣木田郡前田村	出口 利七郎
三二一八九六	一 第七回マテ	大分縣西國東郡玉津町	土谷 宇八郎
三二八九七	一 第五回マテ	兵庫縣朝來郡竹田村	太田治右衛門
一九二二八	一 同	岐阜縣掛梁郡八幡村	末松 千代吉
二八九〇二	一 第三回マテ	福岡縣浮羽郡栗刈村	稻宮 善太郎
一〇五四一三	一 第七回マテ	長崎縣海政良事務所	泉 房吉
四九四七九	一 第三回マテ	新潟縣佐渡郡小木町	桃井 寅藏
三三六三二	一 第七回マテ	群馬縣前橋市石川町	大島 紋治郎
三四四五二	一 第六回マテ	靜岡縣濰原郡中川根村	松永 和平
三四六九七	一 第五回マテ	島根縣東伯郡小松村	出倉 國藏

五拾圓同		五六六三三	一	第七回マテ	同縣西伯郡慶村	永原 勝藏	自四三三〇 至四三三六〇
		一五三三二	一	第三回マテ	岡山縣吉田郡津山町	中村 由一	自四三三六〇 至四三三六七
		二六七五七	一	第四回マテ	廣島縣廣島市觀音村	火浦 菊次郎	
		二二八五	一	同	佐賀縣佐賀郡西川副村	原口 榮藏	
		三三三三	一	同	同縣同郡同村	原口 小次郎	
		二五八三八	一	第五回マテ	同縣村島郡大町村	川島 仁平	
		二六〇六六	一	同	同縣同郡同村	中島 健太郎	
		二五八六九	一	第六回マテ	大分縣宇佐郡驛館村	辛島 官藏	
		二四六八〇	一	第五回マテ	愛媛縣温泉郡小野村	八木 越藏	
		三六六四二	一	第六回マテ	香川縣丸龜市風袋町	浅田 翠太郎	
		二九四七三	一	同	和歌山縣海草郡羅賀村	吉村 安次郎	
		三〇九九七	一	第四回マテ	大阪府三島郡五領村	阪口 安兵衛	
		五五五六二	一	第五回マテ	兵庫縣神戸市楠町二丁目吉十郎親權者	有井 孝	
		五〇四〇五	一	同	岐阜縣揖斐郡八幡村	末松 千代吉	
		五〇二七九	一	同	同縣武儀郡吉田村	小關 清治郎	
		四八八九一〇	一	第六回マテ	愛知縣西加茂郡藤澤村	河木 彦吉	
		二五五五六	一	同	北海道釧路河西郡幸賀村	春木 山三郎	
			一	第四回マテ	新潟縣西蒲原郡道上村	田中 權吾	

○大藏省告示第十一號
國庫假債券紛失三付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ
明治三十八年一月十六日

貳拾五圓同		四九一七六〇	一	同	青森縣北津輕郡板柳村	工藤 又市	
		二〇三六七九	一	第五回マテ	鳥取縣東伯郡山守村	小林 倉吉	
		一〇四六六八	一	同	同縣西伯郡分江村	高梨 万太郎	
		二七一九二七	一	第四回マテ	岡山縣吉田郡上加茂村	内田 龍平	自七〇七三三 至七〇七三六
		四〇五九〇一	一	同	廣島縣山縣郡八幡村	菅水 菊太郎	
		四〇八九二八	一	第六回マテ	同縣吳市大字莊山田村	柿和田 兼吉	
		二八七八六	一	同	鹿兒島縣日置郡永吉村	中山 直助	
		七五二〇五	一	同	宮崎縣北諸縣郡三股村	島渡 信夫	
		七二〇八九	一	第三回マテ	同縣西諸縣郡加久藤村	上谷川 仁右衛門	
		五二九五六	一	第六回マテ	佐賀縣東松浦郡鏡村	岡崎 峰次郎	
		五〇七九二	一	同	同縣西松浦郡黒川村	岸田 定助	
		四六二五五七	一	第四回マテ	大分縣西國東郡草地方	山田 萬三郎	
		四六二七四九	一	第七回マテ	同縣同郡玉津町	土谷 大市	
		四六〇一九八	一	第五回マテ	愛媛縣温泉郡小野村	八木 鶴藏	
		四四五五〇四	一	第三回マテ	同縣周桑郡田野村	山内 要助	

大藏大臣 野村 浩藏

貳拾五圓 同												
四三八一五五	四三七九三三	四三八五九九	四三八五九九	四三八六〇〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇	四三八六一〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村
吉村 虎次	二宮 佐吉	廣瀨 熊太郎	廣瀨 淺太郎	廣瀨 荒吉	廣瀨 萬吉	川上 幾馬	隅田 彌三郎	熊田 直吉	山下 長平	兵原 清三郎	二神 牛馬	西添 貞之助
自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇
大												

貳拾五圓 同												
四三八五七三	四三八四三三	四三八四二七	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九	四三八五九九
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村	同縣同郡同村
下村 力次	正岡 助太郎	前田 市三郎	市川 傳太郎	市川 衛吉	長谷部 平馬	久岡 久万太	中越 小光	中越 良馬	中越 龜太郎	中越 柳馬	中越 己吾	中越 健作
自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇	自七〇三〇
大												

四六五三〇二	同	同縣同郡同村	中平 順治
四三八二六一	同	同縣同郡同村	南部 彦次
四三八二七八	同	同縣同郡同村	中岡 數造
四三八六二五	同	同縣同郡同村	森山 林代
四三八六三四	同	同縣同郡同村	森田 丈八
四三八四〇四	同	同縣同郡同村	矢野 保吉
四三八四〇五	同	同縣同郡同村	矢野 爲次
四三八一七七	同	同縣同郡同村	竹倉 萬啓
四三八一〇七	同	同縣同郡同村	高橋 龜之丞
四三八二二三	同	同縣同郡同村	高橋 初馬
四三八〇二九	同	同縣同郡同村	沖田 勝次
四三八四三三	同	同縣同郡同村	松岡 雄雄
四七八九三四	同	同縣同郡同村	西村 榮
四三八三三九	同	同縣同郡同村	熊田 龜吉

○大藏省告示第十二號

國庫假債券紛失ニ付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ

明治三十八年一月十六日

大藏大臣男爵曾根荒助

券面金額種類	記號	紛失假債券枚數	同	通代假債券枚數	同
五百圓	三六五三	一	第五回マナ	兵庫縣揖保郡石海村	安田 市次郎
	一九三二四九	一	第三回マナ	北海道釧路支庁釧路村	小笠原 榮吉
	一九二一〇〇	一	第五回マナ	同縣同郡永珍村	山科 朔太郎
	一九四六八九	一	同	群馬縣新田郡澤野村	栗原 登平
	三〇九四三三	一	同	靜岡縣濱松郡稻村	鈴木 菊藏
	一一一〇六六	一	同	愛媛縣喜多郡藤川村	石河 吉五郎
	一九四六八九	一	第六回マナ	群馬縣高崎市湯野町	小林 八十治
	一八八九九二	一	第五回マナ	山梨縣北部留野川村	米山 柳兵衛
	八九〇二五	一	第三回マナ	長野縣小縣郡藤尻村	菅原 儀左衛門
	二六六四九九	一	同	北海道釧路支庁釧路村	小笠原 榮吉
	二六八四八九	一	第六回マナ	同縣同郡永珍村	小川 十五郎
	三三〇七七〇	一	第四回マナ	靜岡縣原野郡富士川町	小林 辰五郎
	六四四四八	一	第五回マナ	長野縣更級郡小島田村	伊藤 熊之介
	六四四四九	一	同	同縣同郡同村	伊藤 駒三郎
	五五五三二	一	同	島取縣八頭郡社村	前田 喜平次
	五七〇三二	一	第三回マナ	同縣西伯郡成賀村	三浦 爲次郎

五拾圓 同	
二五六一二	一 第四回マテ 岡山縣英田郡粟廣村
二四〇六八〇	一 第五回マテ 香川縣木田郡古高松村
二四九一〇一	一 同 高知縣幡多郡下田村
二五八九三三	一 第六回マテ 大分縣西國東郡三浦村
二五八九三三	一 同 同縣同郡同村
一九四七五	一 第四回マテ 鹿兒島縣薩摩郡東水引村
四二五三九	一 第三回マテ 臺灣斗六廳埃頭厝支廳
四〇〇四六	一 第五回マテ 神奈川縣鎌倉郡川上村
三九八五四七	一 同 千葉縣長生郡日吉村
三九八三六三	一 同 神奈川縣都筑郡都田村
三九一九六四	一 同 千葉縣習志野郡周西村
三五二七六	一 同 同縣同郡佐貫町
三九四九〇三	一 第六回マテ 東京府北多摩郡久留米村
一六二七〇八	一 同 大阪府堺市新在家町
三六八〇四八	一 第五回マテ 福島縣信夫郡瀧島町
三七六六七九	一 同 山梨縣北巨摩郡櫻坂村
三七九〇四一	一 第三回マテ 同縣西八代郡鴨狩津向村
七〇五七二〇	一 第五回マテ 東京府東京市神田區旭町
	野口 六藏
	江見 龜五郎
	原田 茂一郎
	和田 藤吉
	井上 藤太郎
	秋成 金平
	福山 幸之丞
	松岡 仲太郎
	齋藤 謙平
	三橋 彌惣治
	小野 國五郎
	天笠 作十郎
	高梨 常吉
	高橋 三平
	柴山 キヲ
	松山 清五郎
	横森 替平
	宮澤 政一
	渡邊 了

貳拾五圓 同	
六七二六四二	一 第三回マテ 埼玉縣秩父郡大柵村
四八五九九二	一 第四回マテ 北海道釧路郡函館東嶺町
四八七七八七	一 第三回マテ 同縣大柵郡大柵村
四八八〇二〇	一 第五回マテ 同縣河東郡音更村
五七四三三八	一 第四回マテ 靜岡縣賀茂郡南上村
五七七五五五	一 第五回マテ 同縣静岡市馬場町
五七四九八五	一 第六回マテ 同縣賀茂郡朝日村
二二八八六〇	一 第五回マテ 長野縣上伊那郡南箕輪村
四三三三九五	一 第三回マテ 廣島縣比婆郡希聖村
四四五六三五	一 第二回マテ 愛媛縣周桑郡吉井村
四六三三六〇	一 第四回マテ 大分縣西國東郡河内村
四六三四四五	一 第六回マテ 同縣同郡三浦村
四六九一八六	一 第五回マテ 同縣下毛郡鶴居村
三五六六九三	一 同 鹿兒島縣出水郡上出水村
六七八二七八	一 同 千葉縣長生郡茂原町
四七四六八四	一 第三回マテ 神奈川縣橋本郡町田村
七〇六〇三七	一 第四回マテ 東京府東京市神田區三崎町三丁目
六二八二七一	一 第三回マテ 山形縣最上郡真室川村
	野口 六藏
	佐々木 清藏
	井坂 常太
	鶴谷 茂治
	大野 彌太郎
	田上 斐佐
	田上 斐助
	征矢 定一
	積山 伊吉
	渡邊 長太郎
	田染 藤吉
	友久 繁平
	福永 瀧太郎
	田島 真榮
	神明 萬吉
	中村 直次郎
	荒木 フク
	新田 政吉

六四〇〇三	一第五回マテ	福島縣信夫郡福島町	松山 清五郎
六三〇〇一	一同	山形縣南村山郡瀧山村	林 幸子
六三〇〇〇	一同	同縣同郡同村	林 惣右衛門
六二五〇七九	一同	福島縣耶麻郡熊倉村	唐橋 八三郎
五八一三二七	一第四回マテ	靜岡縣安倍郡有度村	栗林 方吉
六五二五四五	一同	山梨縣中巨摩郡西野村	長谷部 恒三
六五六七四七	一第六回マテ	同縣南巨摩郡曙村	忍月 榮兵衛
六五四五八九	一第三回マテ	同縣甲府市百石町	野口 虎吉
六五三九七七	一同	同縣東八代郡相模村	田染 義事
一三六七三九	一第五回マテ	長野縣南安曇郡島川村	高橋 市十
二四二七六〇	一第二回マテ	富山縣婦室郡保内村	龜山 孫助
二三八八五九	一第三回マテ	同縣下新川郡下野方村	大根 要次郎
二八〇七〇四	一同	岡山縣勝田郡廣戸村	廣戸 美爾
三九二九〇三	一第六回マテ	廣島縣廣島市宇野町	多田 榮次郎
四〇九四八九	一第五回マテ	同縣佐伯郡大浦村	五藤 甚四郎

○大藏省告示第十三號
 國庫假借券紛失ニ付左記ノ通代假借券ヲ交付セリ
 明治三十八年一月十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	紛失假借券枚数	通代假借券枚数	請求者住所氏名
百圓以	同	同	
三三三二四〇	一第五回マテ	同	埼玉縣北足立郡田間宮村 河野 九十郎
三二七八八九	一第四回マテ	同	神奈川縣足柄下郡宮城野村 山本 子之助
二六一〇一五	一第七回マテ	同	岐阜縣養老郡多岐村 杉野 周太郎
二四三三八六	一同	同	同縣安八郡大垣町 鎌塚 勝治
七七〇五一	一第六回マテ	同	福岡縣三池郡江浦村 田中 龜太郎
二六六八九	一第三回マテ	同	新潟縣三島郡大河津村 遠藤 虎明
九五八五六	一第五回マテ	同	石川縣珠洲郡松波村 吉見 正太郎
六〇三三	一第三回マテ	同	熊本縣上益城郡櫻町村 川田 又八
六〇三六	一第六回マテ	同	神奈川縣鎌倉郡岡村 林 孫左衛門
四〇〇五四四	一第三回マテ	同	新潟縣中頸城郡大鹿村 高橋 彦八
一三七二六〇	一第五回マテ	同	同縣古志郡上粗村 林 久五郎
一四〇七三八	一第六回マテ	同	靜岡縣田方郡修善寺村 果谷 彦太郎
三三三八〇六	一第三回マテ	同	長野縣更級郡更級村 高松政右衛門
六四一七四	一第四回マテ	同	同縣上水内郡宇井村 風間 悦治
六五九四四	一第六回マテ	同	青森縣東津輕郡蓬田村 坂本 竹松
二七二二五六	一同	同	大分縣大分郡蹴訪村 工藤 浦太郎
二六六七三三	一同	同	

九三六七三	同	同	島根縣鹿足郡丹原村	長野 市太郎
四九一六三〇	同	同	同縣同郡五所川原町	齊藤 紘
四九一六六〇	一	第六回マテ	青森縣北津輕郡松島村	木村 清太郎
二二八八二四	一	第五回マテ	同縣上伊那郡箕輪村	倉田 徳三郎
二二八九五六	一	第三回マテ	同縣長野市藤町	柴田 武
二二八九六九	一	第四回マテ	同縣諏訪郡豊平村	兩角六右衛門
二二九九二九	一	第五回マテ	同縣上伊那郡西箕輪村	小林 周彌
一一七四〇〇	一	第三回マテ	同縣更級郡更級村	小山 又助
二二四二六七	一	第五回マテ	長野縣北佐久郡北大井村	江本 流藏
五八〇九一五	一	第六回マテ	靜岡縣駿東郡櫻根村	金林 祥太郎
一六一九八一	一	第三回マテ	山口縣豐浦郡勝山村	森 兵藏
五五六九三〇	一	第四回マテ	愛知縣滌美郡高師村	服部 清四郎
五〇〇九〇	一	第七回マテ	同縣三重郡三寶村	西口 源三郎
五四一七五六	一	第三回マテ	同縣度會郡城田村	谷口定右衛門
五〇四四〇三	一	第六回マテ	三重縣飯南郡花岡村	宇井 精一郎
六七八九四七	一	同	千葉縣山武郡橫芝町	板垣 仙太郎
六八七〇二二	一	第四回マテ	埼玉縣兒玉郡賀美村	中尾 政記
一一九三	一	同	熊本縣飽託郡廣畑村	

九三六八四	一	第五回マテ	同上	長野 權八
一〇一七四一	一	第六回マテ	島取縣八頭郡國中村	神戸 長吉
四三七七八一	一	同	高知縣長岡郡坂岩村	坂本 鉄馬
四四三七二二	一	第三回マテ	愛媛縣宇摩郡別子山村	曾我部 ソチ
四四四三六六	一	同	同縣同郡隔川村	尾崎 政吉
四九九七五八	一	第五回マテ	同縣瀧尾郡久米村	戒能 久太郎
四二〇二九	一	第四回マテ	佐賀縣佐賀郡東賀村	間田 政美
一九九〇四	一	第六回マテ	熊本縣飽託郡廣畑村	中尾 政紀
三三四六〇	一	同	鹿兒島縣肝屬郡大崎其村	井上 秀雄
五二四九三九	一	第二回マテ	岐阜縣掛妻郡豐木村	細野 丑之助

○大藏省告示第十四號
 國庫假債券消滅ニ付左記ノ通代假債券ヲ交付セリ
 明治三十八年一月十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

券面金額	種類	記號	消滅假債券番號	枚數	拂込済同數	請求者住所	氏名	代假債券番號	枚數
百圓	同	三三七二〇〇	三三七二〇〇	一	一	千葉縣山武郡日向村	遠藤 茂平	三三七二〇〇	一
同	同	七三三八二	七三三八二	一	一	福岡縣三井郡小郡村	田中 新一郎	七三三八二	一
同	同	三三三三九	三三三三九	二	二	臺灣宜蘭縣蘇澳街	竹中 信景	三三三三九	二
同	同	三三三九〇	三三三九〇	二	二	臺灣宜蘭縣蘇澳街	安藤 三郎	三三三九〇	二
同	同	三三七八一	三三七八一	一	一	臺灣宜蘭縣蘇澳街	安藤 三郎	三三七八一	一

○大藏省告示第十五號

國庫假債券消滅セシモノノ左ノ如シ但全額拂込完了ノモノニ付代假債券ヲ交付セス

明治三十八年一月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

額種類	記號	消滅假債券番號	枚數	拂込済回数	所有者住所氏名
百圓	同	三三七一	一	同	眞島 杉松
		六四三三	一	同	安藤 純
五十圓	同	四〇八九九	一	同	同
		三三七一	一	同	同
二十圓	同	三三七一	一	同	三好 貞太郎
		三三七一	一	同	大丸 又四郎
十圓	同	三三七一	一	同	石川縣河北郡内瀬村
		三三七一	一	同	大丸 又四郎

○大藏省告示第十六號

國庫假債券紛失セシモノノ左ノ如シ但全額拂込完了ノモノニ付代假債券ヲ交付セス

明治三十八年一月二十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

額種類	記號	紛失假債券番號	枚數	拂込済回数	所有者住所氏名
百圓	同	七八八三七	一	同	長崎縣長崎市岩原郷 原田 碧
		七八八三八	一	同	同縣同郡同所 愛敬 紀一郎
五十圓	同	三〇七八六	一	第三回マテ	岡山縣岡山市大字高橋町 中島 安吉
		三〇七八七	一	同	三重縣度會郡城田村 尾崎 行正
二十圓	同	三〇七八八	一	同	廣島縣安藝郡府中村 立花 保
		三〇七八九	一	同	德島縣麻植郡三山村 大谷 喜三郎
十圓	同	三〇八八〇	一	同	鹿兒島縣鹿兒島市中町 益田 尊左衛門
		三〇八八一	一	同	滋賀縣濱生郡日野町 野田 右馬吉
五圓	同	三〇八八二	一	同	福岡縣田川郡方城村 岩崎 小太郎
		三〇八八三	一	同	栃木縣下都賀郡三鴨村 上岡 徳之丞
二圓	同	三〇八八四	一	同	宮城縣名取郡東多賀村 丹野 順之助
		三〇八八五	一	同	岡山縣岡山市大字上石井 武木 經忠
一圓	同	三〇八八六	一	同	宮崎縣西諸縣郡小林村 内假屋 八藏
		三〇八八七	一	同	同

額種類	記號	紛失假債券番號	枚數	拂込済回数	所有者住所氏名
一圓	同	七六二七	一	同	福岡縣浮羽郡水分村 牧原 清作

○大藏省告示第十七號

國庫假債券紛失セシモノノ左ノ如シ但全額拂込完了ノモノニ付代假債券ヲ交付セス

明治三十八年一月二十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

額種類	記號	紛失假債券番號	枚數	拂込済回数	所有者住所氏名
百圓	同	七八八三七	一	同	長崎縣長崎市岩原郷 原田 碧
		七八八三八	一	同	同縣同郡同所 愛敬 紀一郎
五十圓	同	三〇七八六	一	第三回マテ	岡山縣岡山市大字高橋町 中島 安吉
		三〇七八七	一	同	三重縣度會郡城田村 尾崎 行正
二十圓	同	三〇七八八	一	同	廣島縣安藝郡府中村 立花 保
		三〇七八九	一	同	德島縣麻植郡三山村 大谷 喜三郎
十圓	同	三〇八八〇	一	同	鹿兒島縣鹿兒島市中町 益田 尊左衛門
		三〇八八一	一	同	滋賀縣濱生郡日野町 野田 右馬吉
五圓	同	三〇八八二	一	同	福岡縣田川郡方城村 岩崎 小太郎
		三〇八八三	一	同	栃木縣下都賀郡三鴨村 上岡 徳之丞
二圓	同	三〇八八四	一	同	宮城縣名取郡東多賀村 丹野 順之助
		三〇八八五	一	同	岡山縣岡山市大字上石井 武木 經忠
一圓	同	三〇八八六	一	同	宮崎縣西諸縣郡小林村 内假屋 八藏
		三〇八八七	一	同	同

券面金額種類	枚數	拂込回數	所有者住所氏名
五十圓	七千四百九	一全額	齊藤持右衛門
五十圓	六三〇〇	一同	深村彌三郎
五十圓	一	一同	同上
五十圓	一	一同	同上

○大藏省告示第二十號
 明治三十五年大藏省告示第二十五號金庫位置及出納區域表中盛岡本金庫所屬里川口支金庫ノ所在地名中里川口町ヲ花卷川口町ト改ム

明治三十八年一月二十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省告示第二十一號

臺灣事業公債法ニ依リ發行スル臺灣事業公債證書拾五圓及拾圓ノ二種見本ハ日本銀行ニ交付シ其本支店及代理店ニ備置カシム照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ

明治三十八年一月三十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

陸軍省告示

當分ノ内大連灣ニハ官用船舶及陸軍大臣海軍大臣又ハ其ノ地方ヲ管轄スル軍司令官若ハ海軍指揮官ノ許可ヲ得タルモノヲ除クノ外一切ノ船舶ノ出入ヲ禁ス

大連灣ニ出入スル船舶ハ其ノ地方ヲ管轄スル軍司令官及海軍指揮官ノ定メタル規則ヲ遵守スルヲ要ス

明治三十八年一月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛
 陸軍大臣 寺内 正毅

○陸軍省告示第一號

大連灣出入船舶及渡航商人規則左ノ通定ム

明治三十八年一月四日

陸軍大臣寺内正毅

大連灣出入船舶及渡航商人規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ大連灣ニ出入セムトスル船舶及物品ヲ同地ニ輸入シ之ヲ販賣セムトスル商人ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 本規則ニ依リ許可ヲ受ケタル船舶及商人ハ大連灣ヲ管轄スル軍衛ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スヘキモノトス

第三條 本規則ニ依リ與ヘタル許可ハ許可ヲ受ケタル者若ハ其ノ使用人ニ於テ本規則其ノ他一般ノ法律規則ニ違反スル所爲アルトキ又ハ軍事上ノ必要アルトキハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第二章 出入船舶

第四條 出入船舶ハ總噸數千噸以上ノ汽船ニシテ帝國ニ船籍ヲ有スルモノニ限ル

第五條 出入船舶ノ船員ハ總テ帝國臣民ニ限ル但シ陸軍大臣ノ特ニ認許シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 出入船舶ノ船員ハ軍事上ニ關シ見聞セル事項ヲ漏洩セサルコトヲ誓約スヘキモノトス

第七條 船舶出入ノ目的軍事上支障アリト認ムルトキハ之ヲ許可セズ

第八條 出入船舶ハ軍衛ノ許可ナキ船客ヲ大連灣ニ輸送スルコトヲ得ズ

第九條 出入船舶ハ韓國ヲ除ク外途中外國ノ港灣ニ寄港スルコトヲ得ズ

第十條 出入ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ其ノ目的船名噸數船舶ノ製造年月速

力發航ノ港灣及其ノ年月日船客貨物ノ運賃表並寄港港灣ヲ具シ陸軍大臣ニ願出ヘシ

内地大連灣間ニ特定ノ船舶ヲ以テ定期航海ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ願書ニ定期航海表ヲ添付スヘシ

第十一條 前條ノ許可ヲ得タル船舶ハ門司ニ於テ船員ノ名簿及第六條ノ誓約書並大連灣ニ輸送スル船客ノ名簿(渡航許可證寫ヲ添ニ)及貨物ノ種類數量ヲ同地陸軍運輸通信官衙ニ提出シ認許ヲ受クヘシ

第十二條 陸軍運輸通信官衙ニ於テ必要ト認ムルトキハ出入許可ノ船舶ニ臨檢シ若ハ監視員ヲ乘込マシムルコトアルヘシ

第三章 渡航商人

第十三條 大連灣ニ渡航シ物品ヲ販賣セムトスル商人ハ帝國臣民ニレテ相當ノ資産信用アル者ニ限ル

第十四條 渡航商人及其ノ使用人ハ軍事上ニ關シ見聞セル事項ヲ漏洩セサルコトヲ誓約スヘキモノトス

第十五條 渡航商人ハ戶籍謄本ハ會社ニ在リテ所得稅額證明書及使用人ノ戶籍謄本並前條誓約書ヲ具シ陸軍大臣ニ願出許可證ヲ受クヘシ

第十六條 渡航商人ハ危險品其ノ他治安ヲ害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル物品ヲ大連灣ニ輸入販賣スルコトヲ得ス

第十七條 渡航商人ハ大連灣ヲ管轄スル軍衙ノ指定スル地域内ニ居住シ其ノ物品ノ販賣價格ハ豫メ同軍衙ノ認可ヲ受クヘキモノトス

第十八條 内地ヨリ輸入販賣スル物品ハ陸海軍ニ於テ大連灣出入ノ許可ヲ與ヘタル船舶ニ依リ輸送スヘキモノトス

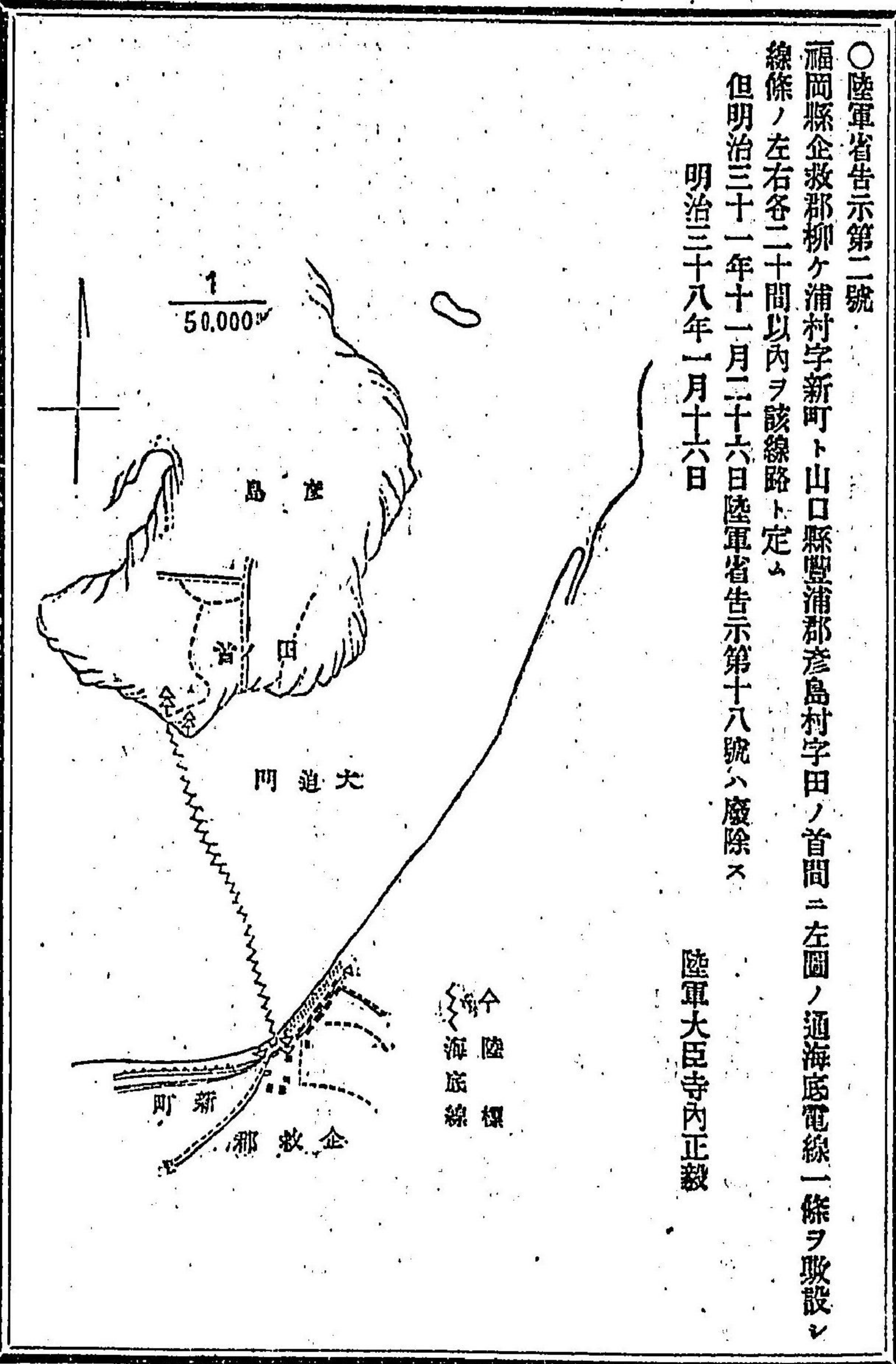
○陸軍省告示第二號

福岡縣企救郡柳ヶ浦村字新町ト山口縣豐浦郡彦島村字田ノ首間ニ左圖ノ通海底電線一條ヲ敷設シ線條ノ左右各二十間以内ヲ該線路ト定ム

但明治三十一年十一月二十六日陸軍省告示第十八號ハ廢除ス

陸軍大臣寺內正毅

明治三十八年一月十六日



○陸軍省告示第三號

本年陸軍戸山學校軍樂生徒八名ヲ召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第八章ノ規定ニ依リ願書共ノ他ノ書類ヲ明治三十八年三月二十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

但シ軍樂生徒ヲ入校セシムルハ明治三十八年十二月一日ニシテ志願シ得ヘキ者ノ出生年月日ハ明治三十八年十二月一日ヨリ同二十一年十二月一日迄トス

明治三十八年一月二十三日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省告示第四號

陸軍砲兵工科學校條例第二條ニ依リ砲兵工長候補者左ノ通召募ス志願者ハ陸軍召募規則第一章及第七章ノ規定ニ依リ願書共ノ他ノ書類ヲ差出スヘシ

鞍工科

十名

木工科

十名

銃工科

二十五名

鍛工科

二十五名

明治三十八年一月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省告示第一號

明治三十八年一月一日左ノ通遼東半島封鎖區域變更ノ宣言ヲ爲シタル旨聯合艦隊司令長官ヨリ報告アリタリ

明治三十八年一月一日

海軍大臣野山本權兵衛

木官ハ帝國政府ノ命ヲ受ケ明治三十七年五月二十六日宣言シタル遼東半島封鎖區域ヲ變更シ明治三十八年一月一日ヨリ清國盛京省遼東半島南口角ヨリ楔頭ニ至ル一直線以西ノ沿岸ヲ帝國軍艦ノ充分ナル兵力ヲ以テ封鎖シ之ヲ維持スルコト並封鎖ヲ破ラントスル一切ノ船舶ニ對シ國際法及帝國ト他ノ中立諸國トノ條約ニ於テ許容セラレタル一切ノ強制手段ヲ用フヘキコトヲ茲ニ

宣言ス

○海軍省告示第二號

明治三十八年一月七日左ノ通遼東半島ノ封鎖解除ノ宣言ヲ爲シタル旨聯合艦隊司令長官ヨリ報告アリタリ

明治三十八年一月七日

海軍大臣野山本權兵衛

遼東半島ノ全部我占有ニ歸シタルニ依リ本日ヲ以テ明治三十八年一月一日宣言シタル封鎖ヲ解除ス

明治三十八年一月七日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

○海軍省告示第三號

當分ノ内旅順口ニハ官用船舶ノ外一切ノ船舶ノ出入ヲ禁ス

明治三十八年一月七日

海軍大臣野山本權兵衛

○海軍省告示第四號

清國山東省山東高角附近ヨリ遼東海灣ニ至ル海面特ニ遼東半島沿岸及直隸海峽諸水道ニハ機械水雷ノ浮流セルモノアリテ危險少カラズ我海軍ニ於テ目下共探掃ニ從事中ナリト雖トモ未タ以テ航路ノ安全ヲ保スルコトヲ得ス航海者ハ之ニ對シ特ニ嚴密ナル注意警戒ヲ要ス

明治三十八年一月七日

海軍大臣野山本權兵衛

○海軍省告示第五號

露國官憲カ發ニ水雷ヲ沈置シタル旨宣言シタル遼東半島沿岸特ニ旅順口附近ノ海面ニハ尙現ニ多數機械水雷ノ沈置セルモノアルヲ以テ漫ニ前記沿岸若ハ其ノ附近ヲ通航スル船舶ハ至大ノ危險ニ遭遇スルコトアルヘシ

右一般航海者ニ特ニ警告ス

明治三十八年一月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○司法省告示第一號

千葉地方裁判所管内一宮本郷區裁判所屬南出張所ノ管轄ニ屬スル左記ノ土地ニ關スル共有者連名書紛失シタルニ付キ明治二十一年十月以前ニ登記ヲ受ケ共有者連名書ヲ差出シタル者ハ明治三十八年四月十日マテニ登記濟證又ハ土地臺帳ノ謄本ヲ添附シテ共有者連名書ヲ更ニ同出張所ニ差出スヘシ

明治三十八年一月九日

司法大臣波多野敬直

- 一 舊登記簿第三十六號登記
- 長生郡豐榮村又宮字關谷七百七十番
- 一 山林 三段一畝七步
- 一 舊登記簿第十六號登記
- 長生郡西村岩嶺字坂ノ下二百三十八番
- 一 墓地 二十五步
- 一 舊登記簿第四十二號登記

- 長生郡水上村刑部字中郷八百八十二番
- 一 墓地 八畝步
- 同所字中田切九百五十番
- 一 墓地 一畝二十七步
- 一 舊登記簿第四十三號登記
- 長生郡水上村刑部字前二千九百十一番ノ二
- 一 墓地 二十四步

○司法省告示第二號

茨城縣西茨城郡西那珂村戸籍役場明治三十七年十二月二日火災ニ罹リ戸籍簿身分登記簿、後見人名簿其他役場ニ保存スル書類焼失シタルニ付キ左ノ各號ニ該當スル者ハ本年四月十五日マテニ更ニ同村戸籍吏ニ届出ヲ爲シ又ハ書類ノ送付ヲ爲スヘシ

但届出ヲ爲スニ付キ詳細ノ手續ハ同村戸籍役場又ハ監督區裁判所ニ就キ承合スヘシ

明治三十七年十二月一日マテノ間ニ於テ同村戸籍吏ニ届出ス

關スル届出ヲ爲シ又ハ書類ノ副本ヲ送付シタル者

第二 明治三十七年十一月一日ヨリ十二月一日マテノ間ニ於テ同村戸籍吏ニ身分ニ關スル届出ヲ爲シ又ハ書類ノ送付申請報告請求等ヲ爲シタル者

第三 同村戸籍吏ニ入籍通知ヲ爲シタル者

第四 戸籍法施行前同村役場ニ後見人ニ關スル届出ヲ爲シタル者
前各號中第一號ノ戸籍ニ關スル届書ノ副本及ヒ第二號ノ身分ニ關スル届書ノ正本又ハ副本ハ戸籍吏戸籍役場又ハ監督區裁判所ニ保存スルモノニ就キ之ヲ謄寫シテ送付スヘク第四號ノ届書ハ戸籍法施行前ノ後見人ニ關スル届出ノ例ニ依リ差出スヘシ

明治三十八年一月十六日

司法大臣波多野敬直

○司法省告示第三號

茨城縣西茨城郡西那珂村役場明治三十七年十二月二日火災ニ罹リ出入寄留簿焼失シタルニ付キ現ニ同村ニ寄留スル者又ハ同村ヨリ他へ出寄留中ノ者ハ本年四月十五日マテニ明治十九年内務省令第十九號中寄留者届出方ニ關スル規定ニ依リ其出入寄留ヲ更ニ同村長ニ届出ツヘシ

明治三十八年一月十六日

司法大臣波多野敬直

○司法省告示第四號

北海道後志國虻尻郡釣掛外三村戸籍役場明治三十七年十月二十五日火災ニ罹リ戸籍簿身分登記簿、後見人名簿其他役場ニ保存スル書類焼失シタルニ付キ左ノ各號ニ該當スル者ハ本年四月十九日マテニ更ニ同村戸籍吏ニ届出ヲ爲シ又ハ書類ノ送付ヲ爲スヘシ

但届出ヲ爲スニ付キ詳細ノ手續ハ同村戸籍役場又ハ監督區裁判所ニ就キ承合スヘシ
第一 明治三十一年七月十六日ヨリ明治三十七年十月二十四日マテノ間ニ於テ同村戸籍吏ニ戸籍ニ關スル届出ヲ爲シ又ハ書類ノ副本ヲ送付ヲ爲シタル者

第二 明治三十七年九月一日ヨリ同年十月二十四日マテノ間ニ於テ同村戸籍吏ニ身分ニ關スル届出、届書ノ送付、報告、請求、申請等ヲ爲シタル者

第三 同村戸籍吏ニ入籍通知ヲ爲シタル者

第四 戸籍法施行前同村役場ニ後見人ニ關スル届出ヲ爲シタル者

前各號中第一號ノ戸籍ニ關スル届書ノ副本及ヒ第二號ノ身分ニ關スル届書ノ正本又ハ副本ハ戸籍吏戸籍役場又ハ監督區裁判所ニ保存スルモノニ就キ之ヲ謄寫シテ送付スヘク第四號ノ届書ハ戸籍法施行前ノ後見人ニ關スル届出ノ例ニ依リ差出スヘシ

明治三十八年一月二十日

司法大臣波多野敬直

○司法省告示第五號

北海道後志國虻尻郡釣掛外三村戸長役場明治三十七年十月二十五日火災ニ罹リ出入寄留簿焼失シタルニ付キ現ニ同村ニ寄留スル者又ハ同村ヨリ他ヘ出寄留中ノ者ハ本年四月十九日マテニ明治十九年内務省令第十九號中寄留者届出方ニ關スル規定ニ依リ其出入寄留ヲ更ニ同村戸長ニ届出ツヘシ

明治三十八年一月二十日

司法大臣波多野敬直

○文部省告示第一號

大阪府大阪市西區私立關西法律學校ハ明治三十八年一月一日ヨリ私立關西大學ト改稱スルノ件認可セリ

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

○文部省告示第二號

大阪府私立關西大學ニ對スル徵兵令上認定ノ效力ハ特科學生ニ及ハス

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

○文部省告示第三號

東京府東京市麻布區私立曹洞宗大學林ヲ明治三十八年一月一日ヨリ私立曹洞宗大學ト改稱スルノ件認可セリ

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

○文部省告示第四號

京都府京都市下京區私立古義眞言宗聯合高等中學ヲ專門學校令ニ依リ明治三十八年一月五日ヨリ設置ノ件認可セリ

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

○文部省告示第五號

京都府私立古義眞言宗聯合高等中學ノ入學ニ關シテハ明治二十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規定第八條第一號ニ依リ左記ノ者ヲ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定ス

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

一 京都府私立古義眞言宗聯合中學卒業者

○文部省告示第六號

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス但シ認定ノ效力ハ別科生及選科生ニ及ハス

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

○文部省告示第七號

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス

明治三十八年一月七日

文部大臣久保田讓

京都府私立古義眞言宗聯合中學

○文部省告示第八號

山口縣私立曹洞宗第四中學校

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月七日

○文部省告示第九號

小學校教科用圖書翻刻發行規則ニ依リ翻刻發行ヲ許可スヘキ圖書中定價最高額ヲ定ムルコト左ノ如シ

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月七日

高等小學算術書	第一學年教師用	各金八錢
同	第二學年教師用	各金八錢五厘
同	第三學年教師用	各金八錢五厘
同	第四學年教師用	各金六錢
同	第一學年兒童用	各金六錢
同	第二學年兒童用	各金六錢
同	第三學年兒童用	各金六錢
同	第四學年兒童用	各金六錢
高等小學毛筆畫手本	男生用第三學年	金十三錢
同	第四學年	金十七錢
同	女生用第二學年	金八錢
同	第四學年	金十錢
同	男生用第三學年	金八錢
同	第四學年	金十三錢
同	女生用第二學年	金五錢五厘
同	第四學年	金九錢五厘
同	男生用第三學年	金十二錢
同	第四學年	金十錢
同	圖ノ部	金十錢
同	說明ノ部	金十錢

○文部省告示第十號

愛媛縣立西條中學校今治分校ヲ明治三十八年四月ヨリ獨立ノ中學校トナシ愛媛縣立今治中學校ト改稱スルノ件認可セリ

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月十一日

○文部省告示第十一號

師範學校高等女學校修身科ノ作法ニ關シテハ自今其教科用ヲ目的トスル圖書ニ對シ檢定ヲ行ハス

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月十四日

○文部省告示第十二號

滋賀縣犬上郡彦根町ニ徒弟學校規程ニ依リ私立彦根工藝學校ヲ設置シ明治三十八年四月ヨリ開校ノ件認可セリ

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月十六日

○文部省告示第十三號

京都府京都市下京區私立佛教大學ヲ專門學校令ニ依リ設置ノ件認可セリ

文部大臣久保田讓

明治三十八年一月十六日

○文部省告示第十四號

滋賀縣私立第三佛教中學

文部大臣久保田讓

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス

明治三十八年一月十六日

○文部省告示第十五號

福島縣立工業學校染織科

右ハ徵兵令第十三條及文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス
○文部省告示第十六號
明治三十八年一月十八日
文部大臣久保田讓

右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス
明治三十八年一月十八日
東京府私立中央商業學校
文部大臣久保田讓

○文部省告示第十七號
東京府東京市麻布區新堀町ニ農業學校規程甲種程度ニ依リ私立麻布職醫學校ヲ設置シ明治三十八年一月ヨリ開校ノ件認可セリ
明治三十八年一月十八日
文部大臣久保田讓

○文部省告示第十八號
山梨縣立山梨縣第二中學校都留分校ヲ明治三十八年三月三十一日限り廢止ノ件認可セリ
明治三十八年一月二十三日
文部大臣久保田讓

○文部省告示第十九號
右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス
明治三十八年一月二十三日
東京府私立順天中學校
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十號
山梨縣^{南都留郡}都留郡組合立都留染織學校ヲ明治三十八年四月ヨリ縣立ニ變更シテ縣立山梨縣工業學校ト改稱シ同縣北都留郡廣里村ニ移轉ノ件認可セリ
明治三十八年一月二十四日
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十一號
愛知縣名古屋市久屋町ニ設置シタル市立名古屋高等女學校ヲ同市南鍛冶屋町へ移轉スルノ件認可セリ
明治三十八年一月二十四日
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十二號
奈良縣女子師範學校ヲ奈良縣奈良市大字^{中田}北^魚屋^東ニ設置シ明治三十八年四月一日ヨリ開校ノ件認可セリ
明治三十八年一月二十四日
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十三號
右ハ徵兵令第十三條及文官任用令第三條第三號ニ依リ認定ス
明治三十八年一月二十四日
山日縣立工業學校
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十四號
右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス
明治三十八年一月二十七日
靜岡縣賀茂郡立中學豆陽學校
文部大臣久保田讓

○文部省告示第二十五號
明治三十八年四月ヨリ群馬縣立藤岡中學校ヲ群馬縣立富岡中學校ノ分校トシ群馬縣立富岡中學校
藤岡分校ト改稱シ群馬縣立安中中學校ヲ群馬縣立高崎中學校ノ分校トシ群馬縣立高崎中學校安中
分校ト改稱スルノ件認可セリ
明治三十八年一月二十八日
文部大臣久保田讓